

5-10 動物

5-10-1 現況調査

本事業の実施により想定される影響は、以下に示すとおりである。

- ・工事の実施に伴う影響（土地の改変、濁水の発生）

(1) 調査の方法

動物の調査内容・方法は、表5-10-1に示すとおりである。

既存資料の収集・整理を行うとともに、建設予定地及びその周辺の動物の生息状況を把握し、影響を受ける恐れのある動物の分布状況等を把握するため、現況調査を実施した。

調査範囲は、建設予定地の周辺200m程度とした。

表 5-10-1 調査内容・方法（動物）

項目	調査手法	調査地点	調査時期
哺乳類	フィールドサイン法 ^{注1)}	建設予定地及びその周辺200m程度	4季
	夜間調査 ^{注2)}		
	捕獲調査 ^{注3)}	建設予定地及びその周辺：2地点 ^{注9)}	
	センサーダラマ設置 ^{注4)}		
鳥類	ラインセンサス法 ^{注5)}	建設予定地及びその周辺：1ルート	4季
	定点観察法 ^{注6)}	建設予定地及びその周辺：1地点	
	夜間調査 ^{注2)}	建設予定地及びその周辺200m程度	
両生・爬虫類	目視観察法	建設予定地及びその周辺200m程度	3季（春季、夏季、秋季）
昆虫類	見つけ取り法	建設予定地及びその周辺200m程度	3季（春季、夏季、秋季）
	ベイトトラップ法 ^{注7)}	建設予定地及びその周辺：2地点	
	ライトトラップ法 ^{注8)}	建設予定地及びその周辺：1地点	
魚類	タモ網、モンドリ等による捕獲	小筑波池周辺 ：2地点	2季 (夏季、秋季)
底生生物	定性調査		2季 (春季、秋季)

注1) 調査範囲内を踏査し、糞や足跡等(フィールドサイン)の特徴から種を判別する方法。

注2) 調査範囲内を夜間に踏査し、鳴き声やバットディテクター（コウモリ類の発する超音波を、人間の可聴範囲内の音声に変換して聞き取れるようにする機材。コウモリ類は、超音波の周波数や鳴き方によっておおよその種を推察する。）により確認した種を記録する方法。

注3) ネズミ類等の小型哺乳類を対象とした罠を設置し、捕獲した個体を記録する方法。

注4) けもの道等にセンサーダラマを設置し、撮影した個体を記録する方法。

注5) 調査範囲内を見渡せる地点から目視確認により一定時間観察し、出現した種を記録する方法。

注6) 調査範囲内においてあらかじめ設定しておいたセンサスルート上を歩き、目視確認や鳴き声により出現した種を記録する方法。

注7) 誘引餌(ベイト)を入れたコップを地中に埋め、コップの底に落ちた昆虫を採集する方法。誘引餌は、さなぎ粉及び果汁が主原料の飲料を使用した。

注8) 光源を配置したスクリーンを設置し、光に誘引された昆虫を採集する方法。

注9) 個体の撮影状況や捕獲状況により調査地点を適宜変更した。

(2) 調査時期

動物の各項目を実施した時期は、表5-10-2に示すとおりである。

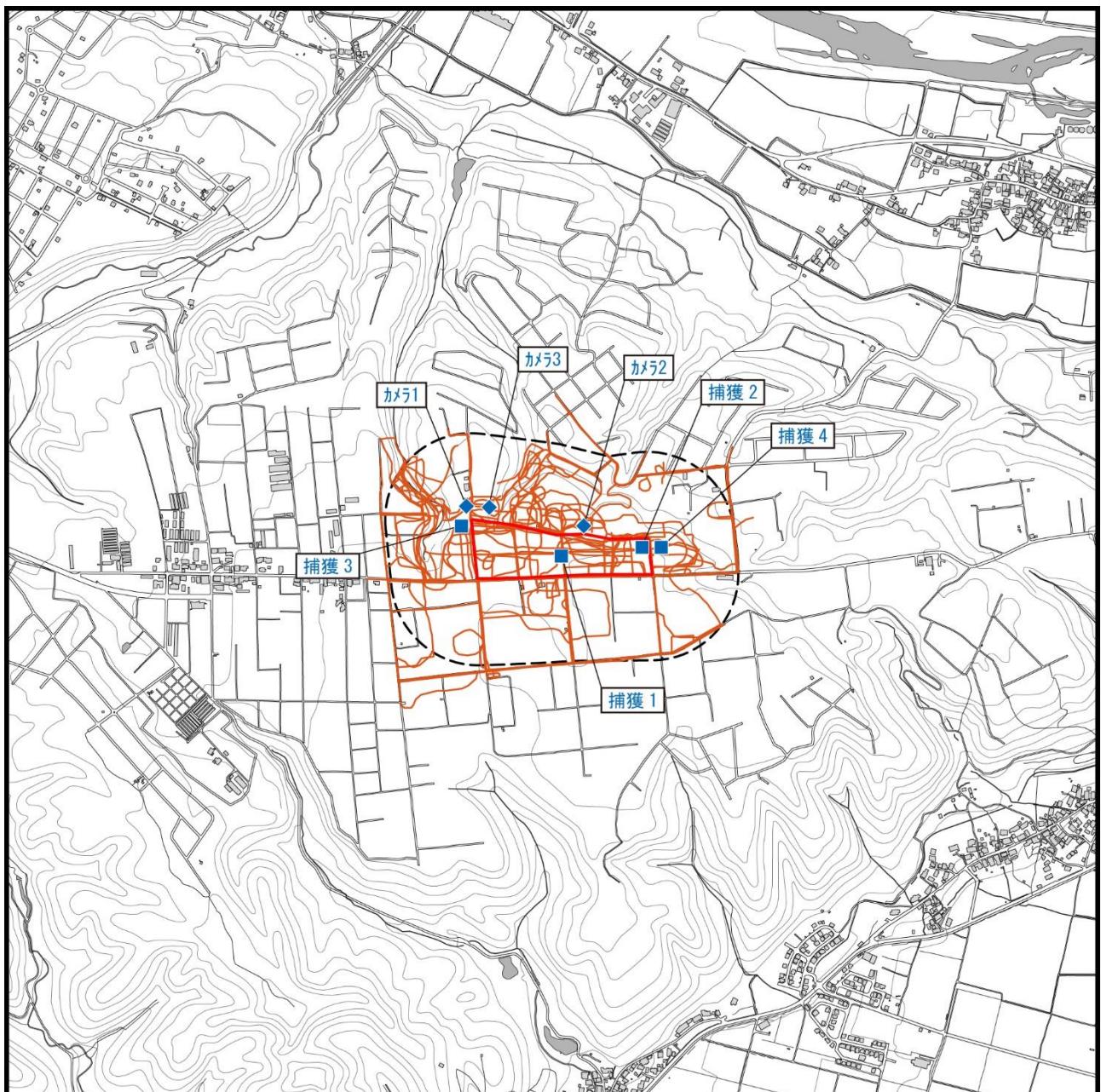
表 5-10-2 調査時期（動物）

項目	調査手法	調査時期	
哺乳類	フィールドサイン法	秋季	令和5年10月16日～10月17日
		冬季	令和6年1月22日～1月23日
		春季	令和6年5月16日～5月17日
		夏季	令和6年6月26日～6月27日
	夜間調査	秋季	令和5年10月16日
		春季	令和6年5月16日
		夏季	令和6年6月26日
	捕獲調査	秋季	令和5年10月16日～10月17日
		冬季	令和6年1月23日～1月24日
		春季	令和6年5月16日～5月17日
		夏季	令和6年6月26日～6月27日
	センサーダミ設置	秋季	令和5年9月21日～10月17日
		冬季	令和5年12月14日～令和6年1月24日
		春季	令和6年4月17日～5月31日
		夏季	令和6年6月1日～6月27日
鳥類	ラインセンサス法	秋季	令和5年10月17日
		冬季	令和6年1月23日、1月30日
		春季	令和6年5月16日
		夏季	令和6年6月26日
	定点観察法	秋季	令和5年10月16日
		冬季	令和6年1月23日
		春季	令和6年5月17日
		夏季	令和6年6月26日
	夜間調査	秋季	令和5年10月16日
		春季	令和6年3月27日、4月17日、5月16日
		夏季	令和6年6月26日
両生・爬虫類	目視観察	秋季	令和5年10月16日～10月17日
		春季	令和6年3月27日～3月28日
		夏季	令和6年6月26日～6月27日
昆虫類	見つけ取り法	秋季	令和5年10月16日～10月17日
		春季	令和6年5月16日～5月17日
		夏季	令和6年6月26日～6月27日
	ペイトトラップ法	秋季	令和5年10月16日～10月17日
		春季	令和6年5月16日～5月17日
		夏季	令和6年6月26日～6月27日
	ライトトラップ法	秋季	令和5年10月16日
		春季	令和6年5月17日
		夏季	令和6年6月26日
魚類	タモ網、モンドリ等による捕獲	秋季	令和5年9月21日
		夏季	令和6年6月27日
底生生物	定性調査	秋季	令和5年9月21日
		春季	令和6年3月28日

(3) 調査地点

調査地点の位置は、図5-10-1に示すとおりである。

調査位置は、土地の改変に伴い植生が消失する可能性のある、建設予定地及びその周辺200mの範囲を選定した。



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 捕獲調査地点
- ◆ : センサーcamera設置地点
- : 踏査ルート

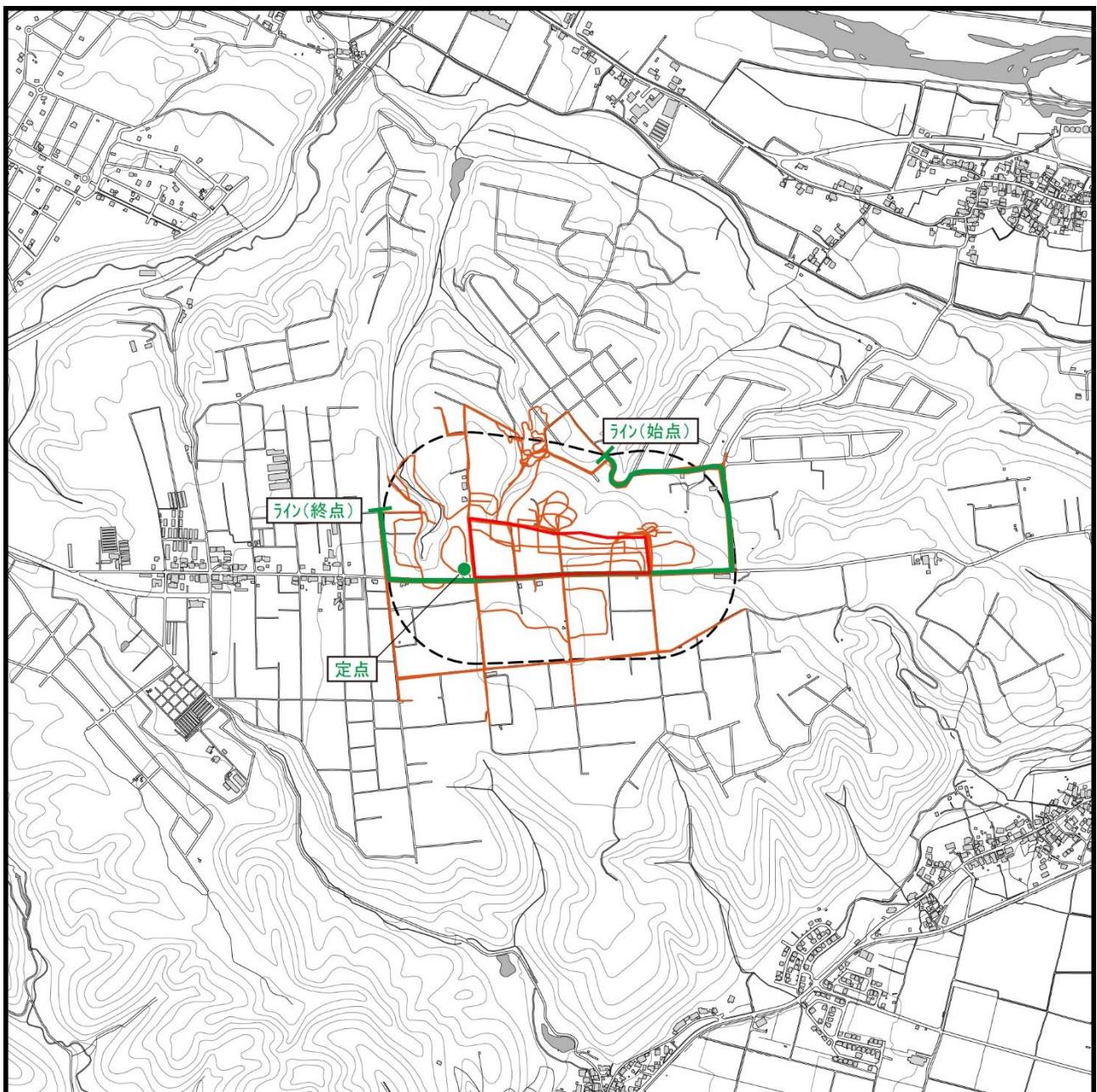


S=1:15,000

0 150 300 600 m

地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図5-10-1 (1) 動物の現況調査地点（哺乳類）



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : ラインセンサス法 調査ルート
- : 定点観察法 調査地点
- : 踏査ルート

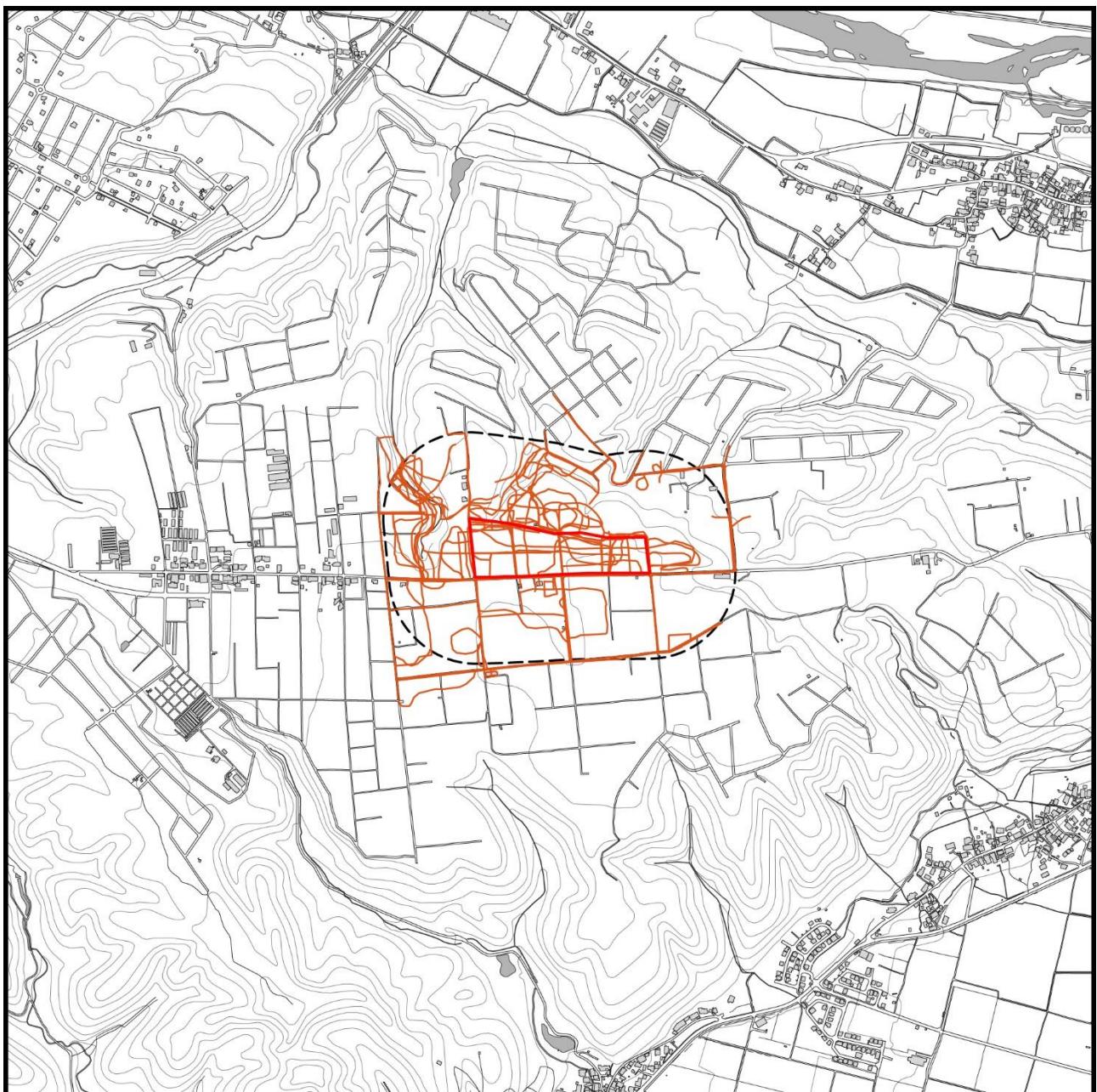


S=1:15,000

0 150 300 600 m

地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図5-10-1 (2) 動物の現況調査地点（鳥類）



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 踏査ルート

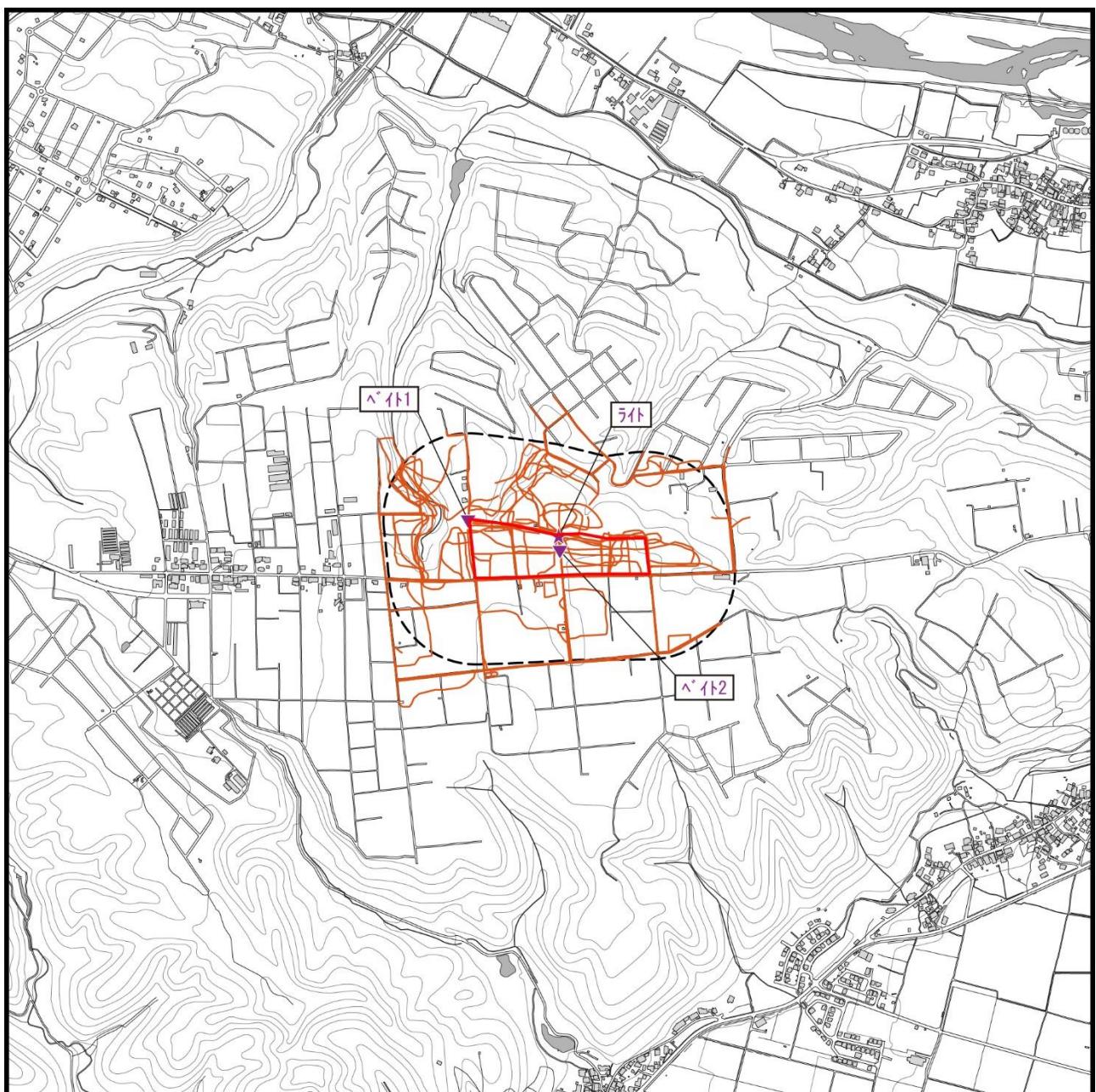


S=1:15,000

0 150 300 600 m

地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図5-10-1 (3) 動物の現況調査地点（両生・爬虫類）



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- ▼ : ベイトトラップ調査地点
- ★ : ライトトラップ調査地点
- : 踏査ルート

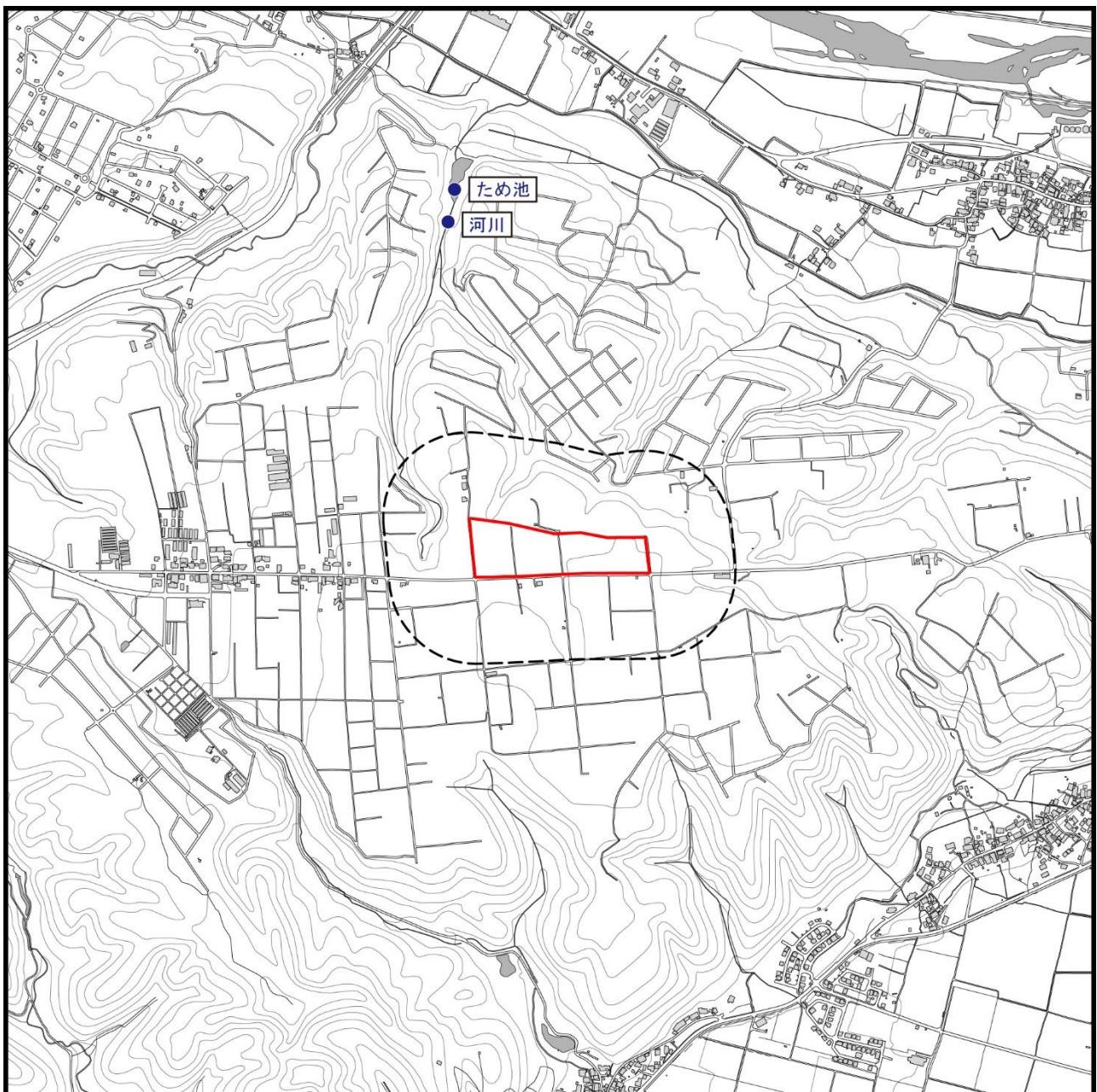


S=1:15,000

0 150 300 600 m

地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図5-10-1 (4) 動物の現況調査地点（昆虫類）

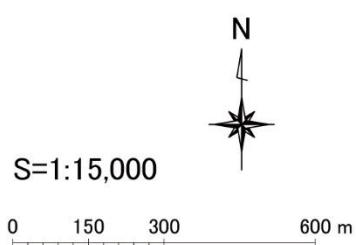


凡 例

■ : 建設予定地

□ : 200m範囲

● : 魚類調査・底生生物調査地点



地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図5-10-1 (5) 動物の現況調査地点（魚類・底生生物）

(4) 調査結果

1) 確認種

動物の調査結果の概要は、表5-10-3に示すとおりである。

表 5-10-3 調査結果の概要

調査項目	建設予定地				調査時期								全体	
	内		外		秋季		冬季		春季		夏季			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
哺乳類	7	8	12	18	10	14	8	11	12	13	8	12	12	18
鳥類	22	42	30	67	19	37	19	40	23	34	24	33	30	69
爬虫類	1	1	4	10	4	6			4	4	5	7	6	10
両生類	1	1	4	6	4	4			2	2	4	6	4	6
昆虫類	150	448	151	536	121	340			107	309	139	384	196	737
魚類	0	0	1	1	1	1					1	1	1	1
底生生物	0	0	50	100	40	68			36	69			50	100
合計	181種	500種	252種	738種	199種	470種	27種	51種	184種	431種	181種	443種	299種	941種

① 哺乳類

哺乳類の確認種一覧は、表5-10-4に示すとおりである。

現況調査の結果、7目12科18種の哺乳類を確認した。

表 5-10-4 哺乳類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}			
					内	外	秋季	冬季	春季	夏季
1	モグラ目	モグラ科	モグラ属の一種 ^{注3)}	<i>Mogera</i> sp.	●	●	■	■	■	■
2	コウモリ目	-	コウモリ目の一一種 ^{注4)}	<i>Chiroptera</i> sp.		●			★	
3			コウモリ目の一一種 ^{注5)}	<i>Chiroptera</i> sp.		●			★	
4	サル目	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	●	●	■◆	◆	■◆	
5	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	●	●	◆	■◆	■◆	■◆
6	ネズミ目	ネズミ科	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	●	●	■	▲	▲	▲
7			ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>		●		▲		▲
8			カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	●	●	■	■▲	■	■
9	ネコ目	アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>		●	◆			
10			イヌ科	<i>Nyctereutes procyonoides</i>		●	■◆	■◆	◆	■◆
11		イタチ科	キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>		●	■◆	■◆		◆
12			テン	<i>Martes melampus</i>		●	■◆	◆		■◆
13			イタチ属の一種 ^{注6)}	<i>Mustela</i> sp.		●	■			
14			アナグマ	<i>Meles anakuma</i>	●	●	■◆		■◆	■◆
15		ジャコウネコ科	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>		●	■		◆	■◆
16			ネコ科	<i>Felis catus</i>		●			■◆	
17	ウシ目	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	●	●	■◆	■	■◆	■◆
18		シカ科	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	●	●	■◆	■◆	■◆	■◆
合計	7 目	12 科	18 種	8 種	18 種	■:12 種	■:7 種	■:8 種	■:9 種	
						★:0 種	★:実施無し	★:2 種	★:0 種	
						▲:0 種	▲:3 種	▲:1 種	▲:2 種	
						◆:9 種	◆:6 種	◆:8 種	◆:8 種	
						秋季:14 種	冬季:11 種	春季:13 種	夏季:12 種	

注1)種名及び配列は令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表中表記の詳細

■:フィールドサイン法

★:夜間調査

▲:捕獲調査

◆:センサーダミ設置

注3)塚・坑道のみの確認であり種の特定に至らなかったが、塚・坑道の大きさ及び分布状況からコウベモグラと考えられる。

注4)バットディテクター(20~30kHz)のみの確認であったため、種の同定に至らなかった。

注5)バットディテクター(60~70kHz)のみの確認であったため、種の同定に至らなかった。

注6)目視確認であったが、ニホンイタチまたはシベリアイタチの判断ができなかった。

② 鳥類

鳥類の確認種一覧は、表5-10-5に示すとおりである。

現況調査の結果、11目30科69種の鳥類を確認した。

表 5-10-5 (1) 鳥類の確認種一覧

No	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}			
					内	外	秋季	冬季	春季	夏季
1	キジ目	キジ科	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	●	●	◆	◆	■▲◆	◆
2	カモ目	カモ科	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>		●			◆	
3	ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	●	■◆	■◆	▲◆	■▲◆
4			アオバト	<i>Trogon sieboldii</i>		●	◆		◆	■◆
5	カツオドリ目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●	●	◆			
6	ペリカン目	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>		●				■★
7	カッコウ目	カッコウ科	ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	●	●				■◆
8			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>		●			▲◆	
9	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		●				▲
10		タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		●				▲
11			トビ	<i>Milvus migrans</i>	●	●	■▲◆	▲◆	■◆	■▲◆
12			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		●	◆			
13			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		●	◆	■◆		
14			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	●	●			◆	▲◆
15			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	●	●	▲◆	◆		
16			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	●	●		◆		
17	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>		●			★	
18			コミミズク	<i>Asio flammeus</i>		●			★	
19	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>		●				■
20	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>		●	■			
21			コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●	●	◆	■▲◆	▲◆	■◆
22			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	●	●	■	◆		
23			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	●	●	◆	◆		◆
24	スズメ目	サンショウウクイ科	サンショウウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	●	●			◆	◆
25		カササギヒタキ科	サンコウチヨウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>		●				◆
26		モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●	●	■▲◆	■▲◆	▲◆	◆
27		カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>		●		◆		
28			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	●	●	▲◆	■▲◆	■▲◆	■▲◆
29			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	■▲◆	■▲◆	■▲◆	■▲◆
30		シジュウカラ科	コガラ	<i>Poecile montanus</i>		●			◆	
31			ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>		●	◆	■◆	◆	■◆
32			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>		●		◆		
33			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	●	●	◆	■◆	■◆	■◆
34	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>		●	●	■▲◆	■▲◆	■▲◆	■▲◆
35	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>		●	●			■◆	■▲◆
36		コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>		●	●	▲◆		◆	▲◆
37		イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>		●					▲
38	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>		●	●	■▲◆	■▲◆	■▲◆	■▲◆
39	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>		●	●	◆	◆	■▲◆	■▲◆
40	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>		●			■◆	◆	◆
41	ムシクイ科	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		●	●	◆			
42	チメトリ科	ゾウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>		●			◆	■	◆
43	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>		●	●	■◆	■◆	▲◆	■◆
44	ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>		●	●		◆		
45	ヒタキ科	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>			●	◆		▲★	
46		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>		●	●		◆		
47		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		●	●		■▲◆	◆	
48		ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>			●		◆		
49		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>		●	●	◆	■◆		

表 5-10-5 (2) 鳥類の確認種一覧

No	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}			
					内	外	秋季	冬季	春季	夏季
50	スズメ目	ヒタキ科	ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	●	●	■▲◆			
51			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		●			◆	■◆
52			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>		●			◆	
53		スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>	●	●	■▲◆	■▲◆	■▲◆	■▲◆
54		セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●	●	◆			
55			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	●	●	■◆	▲◆		
56			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>		●	◆	■◆	◆	
57			ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		●	■▲◆			
58	アトリ科	アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	●	●	◆			
59			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	●	●	■◆	■◆	■◆	■▲◆
60			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	●	●		■▲◆		
61			イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>		●		◆		
62			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●	●	■◆	◆		
63			イカル	<i>Eophona personata</i>	●	●	■▲◆	◆	◆	■▲◆
64		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	●	■▲◆	■▲◆	■▲◆	■▲◆
65			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	●	●		■▲◆		
66			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>		●		◆		
67			ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>	●	●	◆			
68			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●	●		■◆		
69			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	●			◆		
合計	11 目	30 科	69 種		42 種	67 種	■:17 種 ▲:13 種 ★:0 種 ◆:35 種 秋季:37 種	■:21 種 ▲:13 種 ★:実施無し ◆:40 種 冬季:40 種	■:13 種 ▲:14 種 ★:3 種 ◆:30 種 春季:34 種	■:21 種 ▲:17 種 ★:1 種 ◆:28 種 夏季:33 種

注1)種名及び配列は令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表中表記の詳細

■:ラインセンサス法

▲:定点観察法

★:夜間調査

◆:任意観察(ラインセンサス法、定点観察法、夜間調査以外で確認する方法)

③ 両生・爬虫類

(ア) 爬虫類

爬虫類の確認種一覧は、表5-10-6に示すとおりである。

現況調査の結果、2目6科10種の爬虫類を確認した。

表 5-10-6 爬虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>		●	▲	▲	▲
2			クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>		●			▲
3	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>		●	■		
4			ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>		●		■	▲
5		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	●	●	■	■	■
6			シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>		●	■		■
7		ナミヘビ科	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>		●			■
8			ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>		●	■		
9			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>		●	■		■
10			クサリヘビ科	ニホンマムシ ^{注3)}	<i>Gloydius blomhoffii</i>		●	▲	
合計	2 目	6 科	10 種		1 種	10 種	■:5 種 ▲:1 種 秋季:6 種	■:2 種 ▲:2 種 春季:4 種	■:4 種 ▲:3 種 夏季:7 種

注1)種名及び配列は令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表中表記の詳細

■:目視観察法

▲:その他の項目時に確認

注3)5月に確認されたため、春季のデータとしてカウントした。

(イ) 両生類

両生類の確認種一覧は、表5-10-7に示すとおりである。

現況調査の結果、2目4科6種の両生類を確認した。

表 5-10-7 両生類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
1	有尾目	イモリ科	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>		●	▲■	▲	▲
2			ニホンアマガエル	<i>Dryophytes japonicus</i>		●	■		▲■
3	無尾目	アカガエル科	タゴガエル	<i>Rana tagoi</i>		●	■	■	▲■
4			ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>		●			▲
5		アオガエル科	シュレーベルアオガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i>		●			■
6			モリアオガエル	<i>Zhangixalus arboreus</i>	●	●	■		■
合計	2 目	4 科	6 種		1 種	6 種	■:4 種 ▲:1 種 秋季:4 種	■:1 種 ▲:1 種 春季:2 種	■:4 種 ▲:4 種 夏季:6 種

注1)種名及び配列は令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表中表記の詳細

■:目視観察法

▲:その他の項目時に確認

(ウ) 昆虫類

昆虫類の確認種一覧は、表5-10-8に示すとおりである。

現況調査の結果、20目196科737種の昆虫類を確認した。

表 5-10-8 (1) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
1	トビムシ目	アヤトビムシ科	アヤトビムシ科の一種	Entomobryidae	●	●		▲	▲
2	イシノミ目	イシノミ科	イシノミ科の一種	Machilidae		●			■
3	トンボ目	オオイトンボ科	オオアオイトンボ	<i>Lestes temporalis</i>	●	●	■		
4		イトンボ科	ホソミイトンボ	<i>Aciagrion migratum</i>	●	●	■		
5		カワトンボ科	ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>		●		■	
6			アサヒナカワトンボ	<i>Mnais pruinosa</i>		●			■
7		ヤンマ科	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>	●	●	■		■
8			カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>	●	●	■		
9			ミルンヤンマ	<i>Planaeschna milnei milnei</i>	●	●	■		
10			ヤブヤンマ	<i>Polycanthagyna melanictera</i>	●	●			■
11			サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryeri</i>	●	●		■	
12		ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ	<i>Tanypoteryx pryeri</i>	●	●		■	
13		オニヤンマ科	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	●	●	■		■
14		エゾトンボ科	コヤマトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	●	●			■
15		トンボ科	ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastera</i>	●			■	■
16			シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	●	●		■	■
17			オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania melania</i>	●	●			■
18			ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	●	●			■
19			ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>	●	●	■		
20			マユタデアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	●	●	■		
21			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	●	●	■		■
22			ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>	●	●	■		
23			リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>	●	●	■		
24	ゴキブリ目	オオゴキブリ科	オオゴキブリ	<i>Panesthia angustipennis spadica</i>	●	●	■	■	■
25		チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>	●	●	■▲	■▲	■▲
26			キスジゴキブリ	<i>Symploce striata striata</i>	●	●	■		
27	カマキリ目	ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ	<i>Acromantis japonica</i>	●	●	■		
28		カマキリ科	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>	●	●	■		
29			コカマキリ	<i>Statilia maculata</i>	●	●	■		
30			オオカマキリ	<i>Tenodera sinensis</i>	●	●	■		
-			Tenodera 属の一種	<i>Tenodera sp.</i>	○				■
31	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ	<i>Anisolabilla marginalis</i>	●	■▲		■▲	
32	カワゲラ目	オナシカワゲラ科	オナシカワゲラ科の一種	Nemouridae	●			■	
33		カワゲラ科	フタツメカワゲラ属の一種	<i>Neoperla sp.</i>	●				★
34	バッタ目	カマドウマ科	マダラカマドウマ	<i>Diestrammena japonica</i>	●	●	▲		▲
35		ケツワムシ科	ケツワムシ	<i>Mecopoda niponensis</i>	●	●	■		
36		ツユムシ科	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>	●	●	■		
37			ヤマクダマキモドキ	<i>Holochlora longifissa</i>	●	●	■		
-			クダマキモドキ属の一種	<i>Holochlora sp.</i>	○	□			
38			ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>	●	●	■		
39			アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>	●	●	■		
40		キリギリス科	ウシロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>	●	●	■		
41			ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>	●	●	■		
42			ササキリ	<i>Conocephalus melaenus</i>	●	●	■		
43			ヒメギス	<i>Eobiana engelhardtii subtropica</i>	●	●		■	■
44			クビキリギス	<i>Euconocephalus varius</i>	●	●	■		
45			キリギリス属の一種	<i>Gampsocleis sp.</i>	●	●			■
46			ウマオイ属の一種	<i>Hexacentrus sp.</i>	●	●	■		
47			クサキリ	<i>Ruspolia lineosa</i>	●	●	■		
48			ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>	●	●		■	■
49		ケラ科	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i>	●	●	■★		

表 5-10-8 (2) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
50	バッタ目	マツムシ科	スズムシ	<i>Meloimorpha japonica</i>		●	■		
51			カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>		●	■		
52			アオマツムシ	<i>Truljalia hibinonis</i>	●	●	■		
53			マツムシ	<i>Xenogryllus marmoratus marmoratus</i>	●	●	■		
54	コオロギ科	ハラオカメオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>		●	■			
55		ミツカドコオロギ	<i>Loxoblemmus doenitzi</i>		●	■			
-		オカメオロギ属の一種	<i>Loxoblemmus</i> sp.		●	▲			
56		クマコオロギ	<i>Mitius minor</i>		●	▲			
57		クマズズムシ	<i>Sclerogryllus puctatus</i>		●	■			
58		エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>		●	●	■		■
59		ツヅレサセコオロギ属の一種	<i>Velarifictorus</i> sp.		●		★		
-		コオロギ科の一種	<i>Gryllidae</i>		○		□		
60		カネタタキ科	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>	●	●	■★		
61	ヒバリモドキ科	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>		●	●	■		■
62		ヤチスズ	<i>Pteronemobius ohmachii</i>			●	■		
63		クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>			●	■		
64		キアシヒバリモドキ	<i>Trigonidium japonicum</i>		●			■	■
65	バッタ科	ショウリヨウバッタ	<i>Acria cinerea</i>		●	●	■		■
66		トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>		●	●	■		■
67		ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>		●				■
68		イボバッタ	<i>Trilophidia japonica</i>		●		■		
69	イナゴ科	ハネナガイナゴ	<i>Oxya japonica</i>		●		■		
70		コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i>		●	●	■		
71		ミヤマフキバッタ属の一種	<i>Parapodisma</i> sp.			●	■		
-		フキバッタ亜科の一種	<i>Melanoplinae</i>		●				■
72		ツチナゴ	<i>Patanga japonica</i>			●	■		■
73	オンブバッタ科	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>		●	●	■		
74	ヒシバッタ科	ノセヒシバッタ	<i>Alulatettix fornicatus</i>			●			■
75		トゲヒシバッタ	<i>Criotettix japonicus</i>			●			■
76		ハネナガヒシバッタ	<i>Euparatettix insularis</i>			●	■		
77		コバネヒシバッタ	<i>Formosatettix larvatus</i>		●	●	■		■
78		ヒメヒシバッタ	<i>Tetrix minor</i>		●		■		
79		モリヒシバッタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>		●			■	
80	ナナフシ目	ナナフシ科	ナナフシモドキ	<i>Ramulus mikado</i>	●	●			■
81	チャタテムシ目	チャタテムシ科	スジチャタテ	<i>Psococerastis tokyoensis</i>	●				■
82	カメムシ目	アブラムシ科	クリオオアブラムシ	<i>Lachnus tropicalis</i>		●			■
83		ウンカ科	ヒメビウンカ	<i>Laodelphax stratellus</i>		●	■		
84		テングスケバ科	テングスケバ	<i>Dictyophara patruelis</i>		●	■		
85		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	●		■★		
86		ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonicus</i>		●	■		
87		グンバイウンカ科	ミドリグンバイウンカ	<i>Kallitaxila sinica</i>	●		■		
88		セミ科	ツクツクボウソウ	<i>Meimuna opalifera</i>	●		■		
89			ニイニイゼミ	<i>Platyleura kaempferi</i>	●				■
90			ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>	●				■
91			ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	●	●		■	
92	アワフキムシ科	シロオビアワフキ	<i>Aphrophora intermedia</i>		●	●	■		
93		モンキアワフキ	<i>Aphrophora major</i>		●	●	■★		
94		ハママベアワフキ	<i>Aphrophora maritima</i>		●	●	■★		■
95		ホシアワフキ	<i>Aphrophora stictica</i>		●		■		
96		マダラアワフキ	<i>Awafukia nawae</i>		●	●	■		
97		コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ	<i>Eoscarta assimilis</i>		●			■
98	ヨコバイ科	ホシアオズキンヨコバイ	<i>Batracomorphus stigmaticus</i>		●		★		
99		ツマグロオオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i>		●	●	■	■	■
100		オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i>		●		★		
101		キスジカンムリヨコバイ	<i>Evacanthus interruptus</i>		●				■
102		マエジロオオヨコバイ	<i>Kolla atramentaria</i>		●			■	
103		クワキヨコバイ属の一種	<i>Pagaronia</i> sp.		●	●		■	

表 5-10-8 (3) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
104	カメムシ目	サシガメ科	ヨコヅナサシガメ	<i>Agriosphodrus dohrni</i>		●	■	■	
105			アカサンガメ	<i>Cydnocoris russatus</i>	●	●	■	■	■
106			クビグロアカサンガメ	<i>Haematoiochela delibuta</i>	●			■	
107			オオトビサンガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	●		■		
108			クロサンガメ	<i>Peirates cinctiventris</i>		●	■		
109			クロモンサンガメ	<i>Peirates turpis</i>	●	●		■	■
110			トゲサンガメ	<i>Polididus armatissimus</i>		●	■		
111			シマサンガメ	<i>Sphedanolestes impressicollis</i>		●		■	
112			ヤニサンガメ	<i>Velinus nodipes</i>		●	■		
113		グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>	●		■		■
114			ヤブガラシグンバイ	<i>Cysteochila consueta</i>		●		■	
115			ヒメグンバイ	<i>Uhlerites debilis</i>		●	■		
116	カスミカメムシ科	ブチヒグロカスミカメ	<i>Adelphocoris triannulatus</i>	●	●	■★			■
117		ツマグロアオカスミカメ	<i>Apolygus spinolae</i>		●		■		
-		ツヤマルカスミカメ属の一種	<i>Apolygus sp.</i>		○	■			
118		カシワカスミカメ	<i>Castanopsisides potanini</i>		●	■			
119		ヒメセダカカスミカメ	<i>Charagochilus angusticollis</i>	●				★	
120		ガマカスミカメ	<i>Coridromius chinensis</i>		●			■	
121		マダラカスミカメ	<i>Cyphodemidea saundersi</i>	●	●		■		■
122		オオクロトビカスミカメ	<i>Ectometopterus micantulus</i>	●				■	
123		ナガミドリカスミカメ属の一種	<i>Lygocoris sp.</i>	●		■			
124		コモンミドリカスミカメ	<i>Neolygus tiliicola</i>	●		★			
125	クロマルカスミカメ	クロマルカスミカメ	<i>Orthocephalus funestus</i>		●		■		
126		ヒメモギカスミカメ	<i>Plagiognathus yomogi</i>	●			■		
127		クヌギトビカスミカメ	<i>Psallus bagionicus</i>	●			■		
128		アカシジカスミカメ	<i>Stenotus rubrovittatus</i>	●	●	■		■	
-		カスミカメムシ科の一種	<i>Miridae</i>		○	□			
129	マキバサシガメ科	ハネナガマキバサシガメ	<i>Nabis stenoferus</i>	●	●	■		■	
130		キバネアシブトマキバサシガメ	<i>Prostemma kiborti</i>		●			■	
131		ヒラタカメムシ科	カドムネヒラタカメムシ	<i>Odontonotus sauteri</i>		●		■	
132		オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i>	●	●	★		■
133		ヒメホシカメムシ	<i>Physopelta parviceps</i>	●		★		■	
134		ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i>	●	●	■★		■
135		ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>	●	●	■		■
136		ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>	●	●	■		■	■
137		ハリカメムシ	<i>Cletus schmidti</i>	●	●	■		■	■
138		ハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus dilatatus</i>	●	●			■	
139	ヒメヘリカメムシ科	ホシハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus unipunctatus</i>	●	●		■		
140		ツマキヘリカメムシ	<i>Hygia opaca</i>	●	●		■	■	
141		アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus maculatus</i>		●			■	
142		ケブカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus sapporensis</i>	●	●	■		■	
143		ブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonervosus</i>	●	●	■	■	■	
144	ナガカムシ科	ニッポンコバネナガカムシ	<i>Dimorphopterus japonicus</i>		●	■			
145		コバネナガカムシ	<i>Dimorphopterus pallipes</i>		●			■	
-		コバネナガカムシ属の一種	<i>Dimorphopterus sp.</i>		○		■		
146		オオメナガカムシ	<i>Geocoris varius</i>	●	●	■	■	■	
147		キベリヒヨウタンナガカムシ	<i>Horridipamera lateralis</i>	●				★	
148		オオモンシロナガカムシ	<i>Metochus abbreviatus</i>	●	●	▲		▲	
149		ホソメダカナガカムシ	<i>Ninomimus flavipes</i>		●			■	
150		ヒメナガカムシ	<i>Nysius plebeius</i>	●	●	■	■	■	
151		クロスジヒゲナガカムシ	<i>Pachygrontha similis</i>		●	■			
152		アムールシロヘリナガカムシ	<i>Panaorus csikii</i>	●	●	■	■	■	
153		クロアシホソナガカムシ	<i>Paromius jejunus</i>	●	●	■		■	
154		コバネヒヨウタンナガカムシ	<i>Togo hemipterus</i>	●	●	■		■	
155		ヒメジュウジナガカムシ	<i>Tropidothorax sinensis</i>	●		■			
156	メダカナガカムシ科	メダカナガカムシ	<i>Chauliops fallax</i>	●	●	■		■	
157		ツノカムシ科	エサキモンキツノカムシ	<i>Sastragala esakii</i>	●		■		■

表 5-10-8 (4) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
158	カメムシ目	ツノカメムシ科	ミツボシツチカメムシ	<i>Adomerus triguttulus</i>	●	●	■	■	■★
159			ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i>		●	■		■
160		カメムシ科	ウズラカメムシ	<i>Aelia fieberi</i>		●		■	■
161			シロヘリカメムシ	<i>Aenaria lewisi</i>		●		■	
162			ムラサキカヌメムシ	<i>Carpocoris purpureipennis</i>		●			■
163			ブチヒゲカヌメムシ	<i>Dolycoris baccarum</i>	●				■
164			ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>		●		■	■
165			トゲシラホシカヌメムシ	<i>Eysarcoris aeneus</i>	●	●	■		■
166			ムラサキシラホシカヌメムシ	<i>Eysarcoris annamita</i>	●	●	■	■	
167			マルシラホシカヌメムシ	<i>Eysarcoris guttigerus</i>		●		■	■
168			シラホシカヌメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i>	●	●	■	■	■
169			クサギカヌメムシ	<i>Halyomorpha halys</i>	●	●	■	■	■★
170			アオクサカヌメムシ	<i>Nezara antennata</i>	●		★		
171			イネカヌメムシ	<i>Niphe elongata</i>	●	●	■★		
172			イチモンジカヌメムシ	<i>Piezodorus hybneri</i>		●	■		
173			チャバネアオカヌメムシ	<i>Plautia stali</i>	●	●	■★	■	■★
174			イネクロカヌメムシ	<i>Scotinophara lurida</i>	●				★
175			ルリクチブトカヌメムシ	<i>Zicrona caerulea</i>		●	■		
176		キンカメムシ科	チャイロカヌメムシ	<i>Eurygaster testudinaria</i>		●	■		
177		アメンボ科	ヒメアメンボ	<i>Gerris latiabdominis</i>		●		■	■
178			ヤスマツアメンボ	<i>Gerris insularis</i>		●	■	■	■
179			シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>		●	■		
180	ミズムシ科(昆)	コミズムシ	<i>Sigara substriata</i>	●					★
181		メミズムシ科	メミズムシ	<i>Ochtherus marginatus</i>		●		■	■
182		コオイムシ科	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>		●		■	■
-			コオイムシ属の一種	<i>Appasus sp.</i>	○			□	
183		タイコウチ科	タイコウチ	<i>Laccotrephes japonensis</i>	●	●	■		
184			ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>		●	■		
185		マツモムシ科	コマツモムシ	<i>Anisops ogasawarensis</i>		●	■		
186			マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>	●	●	■		■
187	アザミウマ目	クダアザミウマ科	クダアザミウマ科の一種	<i>Phlaeothripidae</i>		●			■
188	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>	●				★
189	アミカガロウ目	ヒロバカガロウ科	スカシヒロバカガロウ	<i>Osmylus hyalinatus</i>	●			■	
190		カマキリモドキ科	ヒメカマキリモドキ	<i>Mantispa japonica japonica</i>	●	●			■★
191		クサカガロウ科	ヤマトクサカガロウ	<i>Chrysoperla nipponensis</i>	●	●		■	■
192			ヨツボシクサカガロウ	<i>Chrysopa pallens</i>		●	■		
-			クサカガロウ科の一種	<i>Chrysopidae</i>	○	□			
193		ヒメカガロウ科	チャバネヒメカガロウ	<i>Micromus numerosus</i>	●	●		■	■
194	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	<i>Panorpa japonica</i>	●	●	■	■	■
195			ブライアシリアゲ	<i>Panorpa pryeri</i>	●	●		■	■
196	トリケラ目	シマトビケラ科	ガロアシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche galloisi</i>	●				★
197			ミヤマシマトビケラ属の一種	<i>Diplectrona sp.</i>	●			★	★
-			シマトビケラ科の一種	<i>Hydropsychidae</i>	○		★		☆
198		ヒゲナガカワトビケラ科	チャバネヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche sauteri</i>	●		★		★
199		ヤマトビケラ科	ヤマトビケラ科の一種	<i>Glossosomatidae</i>	●		★		
200		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ属の一種	<i>Goera sp.</i>	●		★	★	★
201		カクツツトビケラ科	カクツツトビケラ属の一種	<i>Lepidostoma sp.</i>	●		★	★	
202		ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ	<i>Mystacides azurea</i>	●		★		
203		エグリトビケラ科	トウヨウウスバキトビケラ	<i>Limnephilus orientalis</i>	●		★		
204	チョウ目	カザリバガ科	ベニモントガリホソガ	<i>Labdia semicoccinea</i>	●				★
205		ハマキガ科	チャハマキ	<i>Homona magnanima</i>	●		★		
206			トビハマキ	<i>Pandemis heparana</i>	●		★		
207		コシロモンヒメハマキ	<i>Statherotmantis shicotana</i>	●					★
208		スカシバガ科	ムナブトヒメスカシバ	<i>Entrichella constricta</i>		●			■
209			モモブトスカシバ	<i>Macroscelesia japonica</i>		●			■
210			ヒメアトスカシバ	<i>Nokona pernix</i>		●			■
211			マダラガ科	<i>Balataea octomaculata</i>	●				■

表 5-10-8 (5) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
212	チョウ目	マダラガ科	ホタルガ	<i>Pidorus atratus</i>		●			■
213			ミノウスバ	<i>Pryeria sinica</i>		●		■	
214		セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys tethys</i>	●	●		■	■
215			チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i>		●	■		■
216			オオチャバネセセリ	<i>Polytremis pellucida pellucida</i>	●	●			■
217			キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus flavus</i>		●			■
218			コチャバネセセリ	<i>Praethoressa varia</i>		●		■	■
219			シジミチョウ科	<i>Arhopala japonica</i>		●	■		
220			ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>	●	●	■	■	■
221			ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>		●	■		
222			ツバメシジミ	<i>Everes argiades argiades</i>	●	●		■	■
223			ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	●	●	■		
224			ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas chinensis</i>	●	●	■	■	■
225			ヤマトシジミ本土亜種	<i>Zizeeria maha argia</i>	●	●	■	■	■
226	タテハチョウ科	ツマグロヒヨウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>	●	●	■	■	■	■
227		オオウラギンシジヒヨウモン	<i>Argyronome ruslana</i>	●	●	■		■	
228		メスグロヒヨウモン	<i>Damora sagana liane</i>	●	●	■			
229		ゴマダラチョウ本土亜種	<i>Hestina persimilis japonica</i>		●	■		■	
230		ルリタテハ本土亜種	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>		●				■
231		クロヒカゲ本土亜種	<i>Lethe diana diana</i>	●	●	■	■	■	■
232		ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>		●	■			■
233		テングチョウ日本本土亜種	<i>Libythea lepita celtooides</i>		●	■			
234		アスマイチモンジ	<i>Limenitis glorifica</i>		●				■
235		ジャノメチョウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>	●	●		■		
236		サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>	●	●		■★	■	
237		ホシミスジ近畿地方以西亜種	<i>Neptis pryeri hamadai</i>		●				■
238		コミスジ本州以南亜種	<i>Neptis sappho intermedia</i>	●	●		■	■	
239		アサギマダラ	<i>Parantica sita niphonica</i>		●	■		■	
240		キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>	●	●	■	■	■	■
241		ヒメアカタテハ	<i>Vanessa cardui</i>	●	●	■	■	■	■
242		アカタテハ	<i>Vanessa indica indica</i>		●	■			
243		ヒメウラナミジヤノメ	<i>Ypthima argus argus</i>	●	●	■	■	■	
244	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nippounum</i>		●			■	
245		カラスアゲハ本土亜種	<i>Papilio dehaanii dehaanii</i>		●			■	
246		モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicola</i>		●			■	
247		ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i>		●			■	
248		ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon thunbergii</i>		●	■		■	
249		アゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	●	●	■	■	■	■
250	シロチョウ科	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographa</i>	●	●	■	■	■	■
251		キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>	●	●	■	■	■	■
252		モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>	●	●	■	■	■	■
253	ツトガ科	シロモンノマイガ	<i>Bocchoris inspersalis</i>	●		★			
254		キベリハネボソノマイガ	<i>Circobotys aurealis</i>	●			★		
255		シロエグリツトガ	<i>Glaucocharis exsectella</i>	●				★	
256		マメノマイガ	<i>Maruca vitrata</i>	●		★			
257		キンバネヤママイガ	<i>Micraglossa aureata</i>	●				★	
258		シロテンキノマイガ	<i>Nacoleia commixta</i>	●			★		
259		ホシオビホソノマイガ	<i>Nomis albopedalis</i>	●			★		
260		クロオビノマイガ	<i>Pycnarmon pantherata</i>	●				★	
261		シロオビノマイガ	<i>Spoladea recurvalis</i>	●	●	★		■★	
262		メイガ科	ヤマトタグロマダラメイガ	<i>Furcata nipponella</i>	●				★
263	トリバガ科	エゾギクトリバ	<i>Platyptilia farfarella</i>	●		★			
264		ヒルガオトリバ	<i>Emmelina argoteles</i>	●				★	
265	カギバガ科	ヤマトカギバ	<i>Nordstromia japonica</i>	●		★			
266	シャクガ科	ヒメマダラエダシャク	<i>Abraxas niphonibia</i>	●	●		■★		
267		ナカウスエダシャク	<i>Alcis angulifera</i>	●			★		
268		クロクモエダシャク	<i>Apocleora rimosa</i>	●		★			

表 5-10-8 (6) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
269	チョウ目	シャクガ科	ヒヨウモンエダシャク	<i>Arichanna gaschkevitchii gaschkevitchii</i>	●				★
270			トンボエダシャク	<i>Cystidia stratonice</i>		●			■
271			セスジナミシャク	<i>Evecliptopera illitata illitata</i>	●				★
272			ウラベニエダシャク	<i>Heterolocha aristonaria</i>	●			■	
273			ウスバミスジエダシャク	<i>Hypomecis punctinalis conferenda</i>		●		■	
274			オオウスモンキヒメシャク	<i>Idaea imbecilla</i>	●				★
275			クロズウスキエダシャク	<i>Lomographa simplicior simplicior</i>	●		★		
276			マエキトビエダシャク	<i>Nothomiza formosa</i>	●				★
277			エグリヅマエダシャク	<i>Odontopera arida arida</i>	●		★		
278			トビスジヒメナミシャク	<i>Orthonama obstipata</i>	●		★		
279			ウスキツバメエダシャク	<i>Ourapteryx nivea</i>	●		★		
280			ソトシロオビナミシャク	<i>Pasiphila excisa</i>	●		★		★
281			ニセオレクギエダシャク	<i>Protoboarmia faustinata</i>	●			★	
282			カギバアオシャク	<i>Tanaorhinus reciprocata confuciaria</i>	●		★		
283			ミスジツマキリエダシャク	<i>Xerodes rufescens</i>		●		■	
284			キマダラツマキリエダシャク	<i>Zanclidia testacea</i>	●				■
285	イカリモンガ科	イカリモンガ	<i>Pterodecta felderi</i>		●	■			
286		オビガ科	オビガ	<i>Apha aequalis</i>	●				★
287		ヤママユガ科	オオミズアオ本土亜種	<i>Actias aliena aliena</i>	●				★
288		スズメガ科	ブドウスズメ	<i>Acosmeryx castanea</i>	●				★
289			エビガラスズメ	<i>Agrius convolvuli</i>	●		★		
290			ホシホウジヤク	<i>Macroglossum pyrrhosticta</i>		●	■		
291			ホシヒメホウジヤク	<i>Neogurelca himachala sangaica</i>		●	■		
292	シャチホコガ科	シロシャチホコ	<i>Cnethodonta japonica</i>		●			★	
293		キシャチホコ	<i>Cutuza straminea</i>	●			■		
294		ツマキシャチホコ	<i>Phalera assimilis assimilis</i>	●				★	
295	ヒトリガ科	カノコガ	<i>Amata fortunei fortunei</i>		●	●			■
296		キシタホソバ	<i>Collita vetusta aegrota</i>		●		★		
297		ムジホソバ	<i>Katha deplana pavescens</i>		●				★
298		クビワウスグロホソバ	<i>Macrobrochis staudingeri staudingeri</i>		●				★
299		オビヒトリ	<i>Spilarctia subcarnea</i>		●			★	
300		キハラゴマダラヒトリ	<i>Spilosoma lubricipedum</i>		●			★	
301	ドクガ科	ドクガ	<i>Artaxa subflava</i>		●				★
302		マメドクガ	<i>Cifuna locuples confusa</i>		●				★
303		シロオビドクガ本土亜種	<i>Numenes albofascia albofascia</i>		●				★
304		モンシロドクガ	<i>Sphrageidus similis</i>		●				★
305	ヤガ科	タマナヤガ	<i>Agrotis ipsilon</i>		●				★
306		シロテンウスグロヨトウ	<i>Athetis albisignata</i>		●			★	
307		オオホシミヨトウ	<i>Condica illecta</i>		●		★		
308		ワタアカキリバ	<i>Cosmophila flava flava</i>		●		★		
309		モンムラサキクチバ	<i>Ercheia umbrosa</i>		●				★
310		タバコガ	<i>Helicoverpa assulta assulta</i>		●		★		
311		オオシラナミアツバ	<i>Hipoepa fractalis</i>		●		★		
312		クロキシタアツバ	<i>Hypena amica</i>		●			■	
313		タイワンキシタアツバ	<i>Hypena trigonalis</i>		●		★		
314		ヨモギコヤガ	<i>Phyllophilia oblitterata cretacea</i>		●				★
315		ウスアオヨトウ	<i>Polyphaenis subviridis</i>		●			★	
316		ハスモンヨトウ	<i>Spodoptera litura</i>		●		★		
317		シロスジアオヨトウ	<i>Trachea atriplicis</i>		●				■
318		マダラヨトウ	<i>Xenapamea pacifica</i>		●				★
319	コブガ科	クロスジシロコブガ	<i>Nola taeniata</i>		●		★		
320	ハエ目	ヒメガンボ科	キバラガガンボ	<i>Eutonia satsuma</i>		●			■
321			ミスジガガンボ	<i>Gymnastes flavitibia flavitibia</i>		●			■
-			ヒメガンボ科の一種	<i>Limoniidae</i>	●		★		
322		ガガンボ科	キリウジガガンボ	<i>Tipula aino</i>	●		★		
323			マダラガガンボ	<i>Tipula coquilletti</i>	●			■	
324			ヤチノコギリガガンボ	<i>Tipula serricauda</i>	●			★	

表 5-10-8 (7) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
-	ハエ目	ガガンボ科	ガガンボ科の一種	Tipulidae	○	●	■☆	□☆	
325		キノコバエ科	キノコバエ科の一種	Mycetophilidae	●		★		
326		クロバネキノコバエ科	クロバネキノコバエ科の一種	Sciariidae	●	●	★		■▲
327		タマバエ科	タマバエ科の一種	Cecidomyiidae	●			▲	
328		カバエ科	マダラカバエ	<i>Sylvicola japonicus</i>	●			★	
329		ヌカカ科	ヌカカ科の一種	Ceratopogonidae	●	●	★		■▲
330		ユスリカ科	ケブカユスリカ亜科の一種	Podonominae	●				★
331			モンユスリカ亜科の一種	Tanypodinae	●			★	★
-			ユスリカ科の一種	Chironomidae	○	●	■★	☆	■☆
332		ミズアブ科	Beris 属の一種	<i>Beris</i> sp.		●		■	
333			アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i>		●	■		
334			コウカアブ	<i>Pteicticus tenebrifer</i>		●	■		■
335			ルリミズアブ	<i>Sargus niphonensis</i>		●	■		
336		アブ科	シロフアブ	<i>Tabanus trigeminus</i>		●			■
337			ウシアブ	<i>Tabanus trigoetus</i>	●				★
338		ムシヒキアブ科	ハラボソムシヒキ	<i>Dioctria nakanensis</i>	●			■	
339			オオイシナアブ	<i>Laphria mitsukurii</i>	●	●	■		
340			ナミマガリケムシヒキ	<i>Neoitamus angusticornis</i>		●		■	
341			シオヤアブ	<i>Promachus yesonicus</i>	●	●		■	■
342			ヒサマツムシヒキ	<i>Tolmerus hisamatsui</i>		●	■		
343		セダカバエ科	セダカバエ科の一種	Hybotidae		●		■	
344		アシナガバエ科	アシナガキンバエ	<i>Dolichopus nitidus</i>		●			■
-			アシナガバエ科の一種	Dolichopodidae	○				□
345		オドリバエ科	Empis 属の一種	<i>Empis</i> sp.		●		■	
346		ノミバエ科	ノミバエ科の一種	Phoridae	●	●			▲
347		アタマアブ科	アタマアブ科の一種	Pipunculidae	●	●		■	■
348		ハナアブ科	ナガヒラタアブ属の一種	<i>Asarkina</i> sp.		●			■
349			ホソヒラタアブ	<i>Episyphus balteatus</i>	●	●	★	■	■
350			タテジマクロハナアブ	<i>Eristalinus sepulchralis</i>	●		■		
351			ホシメハナアブ	<i>Eristalinus tarsalis</i>	●	●			■
352			シマハナアブ	<i>Eristalis cerealis</i>		●	■	■	
353			ナミハナアブ	<i>Eristalis tenax</i>	●	●		■	
-			ナミハナアブ属の一種	<i>Eristalis</i> sp.	○			□	■
354			アシトハナアブ	<i>Helophilus eristaloideus</i>		●	■		
355			ツヤヒラタアブ属の一種	<i>Melanostoma</i> sp.	●	●			■
356			アリノスアブ	<i>Microdon japonicus</i>		●		■	
357			キアシマメヒラタアブ	<i>Paragus haemorrhouss</i>		●		■	
358			オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>	●	●	■	■	■
359			ハナナガモモブトハナアブ	<i>Rhinotropidia rostrata</i>	●	●	■		■
360			ミナミヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria indiana</i>	●	●		■	
-			ヒメヒラタアブ属の一種	<i>Sphaerophoria</i> sp.	○	○			■
361			モモブトチヒナアブ	<i>Syritta pipiens</i>		●	■		■
362			ハラナガハナアブ属の一種	<i>Xylota</i> sp.		●		■	
363		トゲハネバエ科	トゲハネバエ科の一種	Heleomyzidae	●				■
364		ショウジョウバエ科	ショウジョウバエ科の一種	Drosophilidae	●	●		▲★	■▲
365		ミギワバエ科	ミギワバエ科の一種	Ephydriidae	●				★
366		ツヤホソバエ科	Sepsis 属の一種	<i>Sepsis</i> sp.	●	●		■	
-			ツヤホソバエ科の一種	Sepsidae		○			□
367		クロツヤバエ科	クロツヤバエ科の一種	Lonchaeidae	●		★		
368		ハヤトビバエ科	ハヤトビバエ科の一種	Sphaeroceridae	●		★		▲★
369		キモグリバエ科	キモグリバエ科の一種	Chloropidae	●	●	★		■▲★
370		フンバエ科	ヒメフンバエ	<i>Scathophaga stercoraria</i>	●	●		■	
371		ハナバエ科	ハナバエ科の一種	Anthomyiidae	●	●	■	■★	
372		クロバエ科	キンバエ属の一種	<i>Lucilia</i> sp.	●				■
373			ツマグラキンバエ	<i>Stomorhina obsoleta</i>	●	●	■		■
-			クロバエ科の一種	Calliphoridae	○	○	□★	■	□
374		イエバエ科	イエバエ科の一種	Muscidae	●	●			■★

表 5-10-8 (8) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
375	ハエ目	ニクバエ科	ニクバエ科の一種	<i>Sarcophagidae</i>	●	●	■★	■	■
376		ヤドリバエ科	マルボシヒラタヤドリバエ	<i>Gymnosoma rotundata</i>	●				■
377			セスジヒラバエ	<i>Tachina nupta</i>	●	●	■		
-			ヤドリバエ科の一種	<i>Tachinidae</i>	○	○	□★		□
378	コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	オオホソクビゴミムシ	<i>Brachinus scutomedes</i>		●			▲
379			マイデラゴミムシ	<i>Pheropsophus jessoensis</i>	●	●	■▲	■▲	■▲
380		オサムシ科	ニセマルガタゴミムシ	<i>Amara congrua</i>		●		■▲	
381			オオマルガタゴミムシ	<i>Amara gigantea</i>	●	●	■★	■	■
382			ツヤマルガタゴミムシ	<i>Amara obscuripes</i>	●		★		
383			ホシボシゴミムシ	<i>Anisodactylus punctatipennis</i>	●	●		■	
384			キアシヌレチゴミムシ	<i>Archipatrus flavipes</i>	●	●	■▲		
385			オオフタモンズギワゴミムシ	<i>Bembidion bandotaro</i>		●		■	
386			ガロアミズギワゴミムシ	<i>Bembidion galloisi</i>	●		★		
387			エゾカタピロオサムシ	<i>Campalita chinense</i>	●	●	■▲	▲	■
388			マイマイカブリ	<i>Carabus blaptoides blaptoides</i>	●	●	■	■	■▲
389			マヤサンオサムシ	<i>Carabus maiyasanus maiyasanus</i>	●	●		■▲	■▲
390			クロナガオサムシ	<i>Carabus procerulus procerulus</i>	●	●	■▲		▲
391			ヤコンオサムシ	<i>Carabus yaconinus yaconinus</i>	●	●	■	▲	■▲
-			オサムシ属の一種	<i>Carabus sp.</i>	○	△			
392			オオアトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius micans</i>	●	●		▲	▲
393			アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius naeviger</i>		●	■	■	■▲
394			アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i>	●				▲
395			キボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius posticalis</i>	●	●	▲	■▲	■
396			コガシラアオゴミムシ	<i>Chlaenius varicornis</i>	●		▲		
397			サドモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes limodromoides</i>		●		■	
398			セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i>	●	●	■▲		■▲
399			ホソアトキリゴミムシ	<i>Dromius prolixus</i>	●	●	★	■	
400			クビボソゴミムシ	<i>Galerita orientalis</i>		●		■	
401			スジアオゴミムシ	<i>Haplochlaenius costiger</i>		●			▲
402			オオゴモクムシ	<i>Harpalus capito</i>	●		▲		
403			ヒメケゴモクムシ	<i>Harpalus jureceki</i>	●	●	■▲		▲
404			ウスアカクロゴモクムシ	<i>Harpalus sinicus</i>	●		▲		▲
405			アカアンマルガタゴモクムシ	<i>Harpalus tinctulus</i>		●		■	
406			コゴモクムシ	<i>Harpalus tridens</i>	●	●	■▲		■▲
407			ホシハネビロアトキリゴミムシ	<i>Lebia calyphora</i>		●			■
408			コルリアトキリゴミムシ	<i>Lebia viridis</i>	●		■		
409			ヤホシゴミムシ	<i>Lebidia octoguttata</i>		●		■	
410			オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i>	●			■	
411			クロヘリアトキリゴミムシ	<i>Parena nigrolineata nippensis</i>	●	●			■
412			オオヒラタゴミムシ	<i>Platynus magnus</i>	●		★		■
413			トックリナガゴミムシ	<i>Pterostichus haptoderoides japanensis</i>	●		▲		
414			オオクロナガゴミムシ	<i>Pterostichus japonicus</i>	●		▲		
415			コガシラナガゴミムシ	<i>Pterostichus microcephalus</i>	●	●	▲	▲	
416			キンナガゴミムシ	<i>Pterostichus planicollis</i>		●	■		
417			マルガタナガゴミムシ	<i>Pterostichus subovatus</i>		●			▲
418			アシミゾナガゴミムシ	<i>Pterostichus sulcitrassis</i>		●		■	
-			ナガゴミムシ属の一種	<i>Pterostichus sp.</i>	○		△		
419			ホソヒヨウタンゴミムシ	<i>Scarites acutidens</i>	●	●		■	
420			ナガヒヨウタンゴミムシ	<i>Scarites terricola pacificus</i>		●	■		
421			ヒメクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus congruus</i>	●	●		▲	
422			クロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus cycloderus</i>	●	●	▲	■▲	▲
423			ヒメツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus dulcigradus</i>	●	●	▲	▲	▲
424			コクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus melantho</i>		●	▲		
425			オオクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus nitidus</i>	●	●	▲	▲	▲
-			ツヤヒラタゴミムシ属の一種	<i>Synuchus sp.</i>		○	△		
426			クリロコミズギワゴミムシ	<i>Tachyura fumicata</i>	●				▲
427			ヨツモンコミズギワゴミムシ	<i>Tachyura laetifica</i>		●		■	

表 5-10-8 (9) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
428	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ	<i>Agabus conspicuus</i>		●	■		
429			マメゲンゴロウ	<i>Agabus japonicus</i>	●	●	■	■	■
430			クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>		●	■		
431			ハイイロゲンゴロウ	<i>Eretes griseus</i>	●	●	■		
432			シマゲンゴロウ	<i>Hydaticus bowringii</i>	●	●			■★
433			コシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus grammicus</i>	●	●			■★
434			オオヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus erraticus</i>		●			■
435			ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>	●	●	■★		★
436		ガムシ科	ウスモンケシガムシ	<i>Cercyon laminatus</i>	●		★		★
437			キバネケシガムシ	<i>Cercyon quisquilius</i>	●		★		
438			マルケシガムシ	<i>Cercyon rotundatus</i>	●				★
439			セマルケシガムシ	<i>Cryptopleurum subtile</i>	●				★
440			キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i>		●	■	■	■
441	エンマムシ科	ヒメツヤエンマムシ	<i>Hister simplicisternus</i>		●				■
442		コエンマムシ	<i>Margarinotus niponicus</i>		●				■
443		エンマムシ	<i>Merohister jekeli</i>		●				■
444	タマキノコムシ科	ホソムネコチビシデムシ	<i>Mesocatops japonicus</i>		●	▲			
445	シデムシ科	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i>	●	●	■	■▲	■▲	
446	ハネカクシ科	ヒゲブトセシジハネカクシ	<i>Anotylus crassicornis</i>	●		★			
447		ズグロアカヒメハネカクシ	<i>Atheta weisei</i>	●					▲
448		キンバネツツガタハネカクシ	<i>Aulacocypus gloriosus</i>		●	■			
449		カバイロハバビロハネカクシ	<i>Megarthurus hemipterus</i>	●		★			
450		ツヤケシヒメハネカクシ	<i>Nehemitropia lividipennis</i>	●		★			
451		クロサビイロマルズオオハネカクシ	<i>Ocyphus lewisius</i>		●				■
452		クロマルズオオハネカクシ	<i>Ocyphus nigroaeneus</i>	●					▲
453		ホソハネカクシ属の一種	<i>Othius sp.</i>	●		■			
454		クロオオコガシラハネカクシ	<i>Philonthus japonicus</i>		●				■
455		キアシチビコガシラハネカクシ	<i>Philonthus numata</i>	●					★
456		カクコガシラハネカクシ	<i>Philonthus rectangularis</i>	●					★
457		ニセヒゲナガコガシラハネカクシ	<i>Philonthus wuesthoffi</i>	●	●				■★
458		コガシラハネカクシ属の一種	<i>Philonthus sp.</i>	●		■			
459		Platydracus 属の一種	<i>Platydracus sp.</i>		●			■	
460		クビボソハネカクシ	<i>Rugilus rufescens</i>	●		★			★
-	マルハナノミ科	ハネカクシ科の一種	<i>Staphylinidae</i>	○	○		□		△
461		クロチビマルハナノミ	<i>Contacyphon mizoro</i>		●				■
-		チビマルハナノミ属の一種	<i>Contacyphon sp.</i>		○			□	
462		トビイロマルハナノミ	<i>Scirtes japonicus</i>	●	●		■		★
463	センチコガネ科	オオセンチコガネ	<i>Phelotrupes auratus auratus</i>		●				■
464		センチコガネ	<i>Phelotrupes laevistriatus</i>	●	●	■	■	■▲	
465	クワガタムシ科	コクワガタ	<i>Dorcus rectus rectus</i>		●	■			■
466		ノコギリクワガタ	<i>Prosopocoilus inclinatus inclinatus</i>		●	■			■
467	コガネムシ科	コイチャコガネ	<i>Adoretus tenuimaculatus</i>	●					★
468		ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i>	●					★
469		サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i>	●					■★
470		ヒラタアオコガネ	<i>Anomala octiescostata</i>		●		■		
471		ヒメアシナガコガネ	<i>Ectinohoplia obducta</i>		●		■		■
472		コアオハナムグリ	<i>Gametis jucunda</i>	●	●	■	■		■
473		ビロウドコガネ	<i>Maladera japonica</i>		●		■		
474		ヒメビロウドコガネ	<i>Maladera orientalis</i>		●				■
475		コフキコガネ	<i>Melolontha japonica</i>	●					★
476		コガネムシ	<i>Mimela splendens</i>	●	●				■★
477		コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i>	●	●	■	▲		
478		フトカドエンマコガネ	<i>Onthophagus fodiens</i>	●	●	■	■		■
479		カドマルエンマコガネ	<i>Onthophagus lenzii</i>	●	●	■★			★
480		ツヤエンマコガネ	<i>Parascatonomus nitidus</i>	●	●				▲
481		マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>	●	●				■
482		シロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis submarmorea</i>		●		■		■

表 5-10-8 (10) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
483	コウチュウ目	コガネムシ科	カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>		●	■		
484		マルトゲムシ科	シラフチビマルトゲムシ	<i>Simplocaria bicolor</i>	●		★		
485		ヒラタドロムシ科	チビヒゲナガハナノミ	<i>Ectopria opaca opaca</i>		●		■	
486		タマムシ科	ヒシモンナガタマムシ	<i>Agrilus discalis</i>		●	■	■	■
487			ムネアカナガタマムシ	<i>Agrilus imitans</i>		●		■	
488			ウバタマムシ	<i>Chalcophora japonica japonica</i>		●	■		
489			ムネアカチビナカボソタマムシ	<i>Nalanda rutilicollis rutilicollis</i>		●			■
490			クズノチビタマムシ	<i>Trachys auricollis</i>	●			■	
491			ダンダラチビタマムシ	<i>Trachys variolaris</i>		●		■	
492	コメツキムシ科	サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i>	●	●	■▲	■	■★	
493		ヒメクロコメツキ	<i>Ampedus carbunculus</i>	●			■		
494		アカハラクロコメツキ	<i>Ampedus hypogastricus hypogastricus</i>		●		■		
495		クロツヤハダコメツキ	<i>Hemicrepidius secessus secessus</i>	●	●			■★	
496		メダカツヤハダコメツキ	<i>Medakathous jactatus jactatus</i>		●			■	
497		クロツヤクシコメツキ	<i>Melanotus annosus</i>		●		■		
498		クシコメツキ	<i>Melanotus legatus legatus</i>	●				★	
499		クロクシコメツキ	<i>Melanotus senilis senilis</i>	●	●		■		
-		クシコメツキ属の一種	<i>Melanotus sp.</i>		○		□		
500		ヒゲコメツキ	<i>Pectocera hige hige</i>		●		■		
501		オオクロクシコメツキ	<i>Spheniscosomus cribricollis</i>		●		■		
502	コメツキダマシ科	コチャイロコメツキダマシ	<i>Fornax nipponicus</i>	●				★	
503	ヒゲブトコメツキ科	チャイロヒゲブトコメツキ	<i>Trixagus turgidus</i>	●			■		
504	ジョウカイボン科	クビボソジョウカイ属の一種	<i>Asiopodabrus sp.</i>		●		■		
505		ムネアカクロジョウカイ	<i>Lycocerus adusticollis</i>		●			■	
506		セスジジョウカイ	<i>Lycocerus magnius</i>	●			■		
507		ジョウカイボン	<i>Lycocerus suturellus suturellus</i>	●	●		■		
-		クビアカジョウカイ属の一種	<i>Lycocerus sp.</i>		○		□		
508	ホタル科	オオオバボタル	<i>Lucidina accensa</i>		●			■	
509		クロマドボタル	<i>Pyrocoelia fumosa</i>		●			■	
510	ベニボタル科	ツヤバネベニボタル属の一種	<i>Calochromus sp.</i>		●		■		
511		マエアカクロベニボタル	<i>Cautires zahradniki zahradniki</i>		●			■	
512		コクロハナボタル	<i>Libnetis granicollis</i>		●			■	
513		ベニボタル	<i>Lycostomus modestus</i>		●			■	
514	カッコウムシ科	アリモドキカッコウムシ	<i>Thanasimus lewisi</i>	●			■		
515	ジョウカイモドキ科	ケシジョウカイモドキ属の一種	<i>Dasytes sp.</i>		●		■		
516	ムクゲキスイムシ科	ハスモンムクゲキスイ	<i>Biphyllus rufopictus</i>	●			▲		
517		ムナグロムクゲキスイ	<i>Biphyllus sp.</i>		●		▲		
518	ツツキノコムシ科	ツツキノコムシ科の一種	<i>Ciidae</i>	●			▲		
519	テントウムシ科	アミダテントウ	<i>Amida tricolor</i>	●	●		■		
520		シロトホシテントウ	<i>Calvia decemguttata</i>	●				★	
521		ヒメアカホシテントウ	<i>Chilocorus kuwanae</i>		●			■	
522		ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	●	●	■	■	■	
523		フタモンクロテントウ	<i>Cryptogonus orbicularis</i>	●			■		
524		ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	●	●	■★	■	■	
525		ニジュウヤホシテントウ	<i>Henosepilachna vigintioctopunctata</i>		●			■	
526		キイロテントウ	<i>Kiuro koebelei koebelei</i>		●		■		
527		クロスジチャイロテントウ	<i>Micraspis kiotoensis</i>	●	●	■		■	
528		モンクチビルテントウ	<i>Platynaspidius maculosus</i>		●			■	
529		ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i>	●	●	■	■	■	
530		ヒメテントウ属の一種	<i>Scymnus sp.</i>	●			■		
531	ミジンムシ科	ナカグロミジンムシ	<i>Arthrolips lewisii</i>		●			■	
532	キスイムシ科	マルガタキスイ	<i>Curelius japonicus</i>	●				★	
533	テントウムシダマン科	ヨツボシテントウダマシ	<i>Ancylopus pictus asiaticus</i>	●	●	■	■		
534		ルリテントウダマシ	<i>Endomychus gorhami gorhami</i>	●		■	■		
535		キボシテントウダマシ	<i>Mycetina amabilis</i>	●		■			
536		イカリモンテントウダマシ	<i>Mycetina ancoriger</i>		●		■		
537		オオキノコムシ科	クロハバビロオオキノコムシ	<i>Neotriplax atrata</i>		●	■		

表 5-10-8 (11) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
538	コウチュウ目	コメツキモドキ科	キムネヒメコメツキモドキ	<i>Anadastus atriceps</i>		●			■
539		ケシキスイ科	クロハナケシキスイ	<i>Carpophilus chalybeus</i>	●		■		
540		マメヒラタケシキスイ		<i>Epuraea paulula</i>	●				★
541		ヨツボシケシキスイ		<i>Glischrochilus japonicus</i>	●				★
542		キベリチビケシキスイ		<i>Meligethes violaceus</i>		●			■
543		アカマダラケシキスイ		<i>Phenolia picta</i>	●	●			■▲★
544		クロキマダラケシキスイ		<i>Soronia lewisi</i>	●		★		
545		マルキマダラケシキスイ		<i>Stelidota multiguttata</i>	●	●			▲
546		ヒメハナムシ科	キロアシナガヒメハナムシ	<i>Augasmus nipponicus</i>		●	■		
547		アカボンチビヒメハナムシ		<i>Stilbus bipustulatus</i>	●	●			■
548	ホソヒラタムシ科	ミツモンセマルヒラタムシ		<i>Psammoecus trimaculatus</i>	●				★
549	アリモドキ科	ホソクビアリモドキ		<i>Formicomus braminus coiffaiti</i>	●	●	■	■	■
550		キアシクビボソムシ		<i>Macratria japonica</i>		●	■		
-		コクビボソムシ属の一種		<i>Macratria</i> sp.	○				■
551		ヨツボシホソアリモドキ		<i>Stricticomus valgipes</i>	●		■		
552	ニセクビボソムシ科	ヤマトニセクビボソムシ		<i>Pseudolotelus japonicus</i>		●			■
553	ツチハンミョウ科	キュウシュウツチハンミョウ		<i>Meloe auriculatus</i>		●	■		
554	ハナノミ科	ノムラヒメハナノミ属の一種		<i>Falsomordellina</i> sp.		●			■
555		クロズヒメハナノミ		<i>Mordellina longula</i>	●				■
556		クロヒメハナノミ属の一種		<i>Mordellistena</i> sp.	●	●		■	■
-		ハナノミ科の一種		<i>Mordellidae</i>	○				□
557	カミキリモドキ科	キイロカミキリモドキ		<i>Nacerdes hilleri</i>	●	●			■
558		キバネカミキリモドキ		<i>Nacerdes luteipennis</i>	●	●			■★
559		アオカミキリモドキ		<i>Nacerdes waterhousei</i>	●				★
560		モモブトカミキリモドキ		<i>Oedemera lucidicollis</i>		●		■	
561	ハナノミダマシ科	クロフナガタハナノミ		<i>Anaspis marseuli</i>	●			■	
-		ハナノミダマシ科の一種		<i>Scaptiidae</i>		●			□
562	ゴムシダマシ科	ホンドトビイロクチキムシ		<i>Borboresthes cruralis</i>	●	●			■
563		ヒメナガニジゴムシダマシ		<i>Ceropria induta</i>	●			■	
564		コスナゴムシダマシ		<i>Gonocephalum coriaceum</i>		●			■
565		スジコガシラゴムシダマシ		<i>Heterotarsus carinula</i>		●		■	
566		アカツヤバネクチキムシ		<i>Hymenalia rufipennis</i>	●	●		■	■
567		オオメキバネハムシダマシ		<i>Lagria rufipennis</i>		●			■
568		ヒゲブトゴムシダマシ		<i>Luprops orientalis</i>	●				★
569		ニホンキマワリ本土亜種		<i>Plesiophthalmus nigrocyanus nigrocyanus</i>	●	●			■
570		サトユミアシゴムシダマシ		<i>Promethis valgipes</i>		●	■	■	■
571		ホンドニジゴムシダマシ		<i>Tetraphyllus paykullii</i>		●	■		
572		ナミクチキムシ		<i>Upinella melanaria</i>	●	●	■	■★	▲
573	カミキリムシ科	センノキカミキリ		<i>Acalolepta luxuriosa luxuriosa</i>	●		■		
574		ゴマダラカミキリ		<i>Anoplophora malasiaca</i>		●	■		
575		キクスイモドキカミキリ		<i>Asaperda rufipes</i>	●				■
576		エグリトラカミキリ		<i>Chlorophorus japonicus</i>	●				■
577		アトモンマルケシカミキリ		<i>Exocentrus lineatus</i>	●	●			■
578		ムネアカクロハナカミキリ		<i>Leptura dimorpha</i>	●			■	
579		ヘリグロリンゴカミキリ		<i>Nupserha marginella</i>		●			■
580		リンゴカミキリ		<i>Oberea japonica</i>	●	●		■	■
581		ラミーカカミキリ		<i>Paraglenea fortunei</i>		●			■
582		セスジヒメハナカミキリ		<i>Pidonia amentata amentata</i>		●		■	
583		ヒメナガサビカカミキリ		<i>Pterolophia leiopodina</i>	●			■	
584		ニイジマトラカカミキリ		<i>Xylotrechus emaciatus</i>		●			■
585	ハムシ科	アカガネサルハムシ		<i>Acrothrinium gaschkevitchii gaschkevitchii</i>		●			■
586		カミナリハムシ属の一種		<i>Altica</i> sp.	●		■		
587		ツブノミハムシ		<i>Aphthona perminuta</i>		●		■	
588		サメハダツブノミハムシ		<i>Aphthona strigosa</i>	●	●	■		
589		ホソルレリビハムシ		<i>Aphthonalictica angustata</i>	●	●		■	
590		ウリハムシモドキ		<i>Atrachya menetriesi</i>		●	■		
591		ウリハムシ		<i>Aulacophora indica</i>	●	●	■	■	

表 5-10-8 (12) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
592	コウチュウ目	ハムシ科	クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis nigripennis</i>	●	●	■	■	■
593			アオバネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>		●			■
594			カメノコハムシ	<i>Cassida nebulosa</i>	●	●	▲		■
595			ヒメカメノコハムシ	<i>Cassida piperata</i>	●	●	■		■
596			ヒメドウガネトビハムシ	<i>Chaetocnema concinnicollis</i>	●	●		■	■
597			クサイチゴトビハムシ	<i>Chaetocnema granulosa</i>	●	●	■		■
598			ヒサゴトビハムシ	<i>Chaetocnema ingenua</i>	●			■	
599			テンサイトイビハムシ	<i>Chaetocnema picipes</i>		●			■
600			ハラグロヒメハムシ	<i>Charaea cyaneus</i>		●		■	
601			ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>	●	●	■	■	
602			ヒトミヒメサルハムシ	<i>Cleoporus variabilis</i>		●			■
603			イモサルハムシ	<i>Colasposoma dauricum</i>	●	●			■
604			ヤツボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus japonicus</i>		●			■
605			カサハラハムシ	<i>Demotina modesta</i>		●			■
606			クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i>	●	●		■	■
607			コガタルリハムシ	<i>Gastrophysa atrocyanea</i>	●	●		■	
608			ヤツボシハムシ	<i>Gonioctena nigroplagiata</i>	●	●		■	■
609			ヒメトイビハムシ	<i>Hermaeophaga adamsii</i>	●	●	■	■	
610			クロオビカサハラハムシ	<i>Hyperaxis fasciata</i>		●	■		
611			ヤマイモハムシ	<i>Lema honorata</i>	●				■
612			アカクビナガハムシ	<i>Lilioceris subpolita</i>	●			■	
613			クロボシトイビハムシ	<i>Longitarsus bimaculatus</i>	●	●	■	■	
614			イヌノフグリトイビハムシ	<i>Longitarsus holsaticus</i>		●	■		
615			オオバコトイビハムシ	<i>Longitarsus scutellaris</i>	●			■	
616			キアシノミハムシ	<i>Luperomorpha tenebrosa</i>	●			■	
617			ホタルハムシ	<i>Monolepta dichroa</i>	●	●	■		■
618			コマルノミハムシ	<i>Nonarthra tibialis</i>	●	●			■
619			ドウガネツヤハムシ	<i>Oomorphoides cupreatus</i>	●	●		■	■
620			ヒメツヤハムシ	<i>Oomorphus japonicus</i>		●		■	
621			ブタクサハムシ	<i>Ophraella communis</i>	●		■		
622			ムネアカキバネサルハムシ	<i>Pagria consimile</i>		●		■	■
623			アトボシハムシ	<i>Paridea angulicollis</i>		●		■	
624			アサトイビハムシ	<i>Psylliodes attenuata</i>		●		■	
625			ルリナガスネトイビハムシ	<i>Psylliodes brettinghami</i>		●			■
626			ナスナガスネトイビハムシ	<i>Psylliodes viridana</i>	●	●	■	■	■
-			ナガスネトイビハムシ属の一種	<i>Psylliodes sp.</i>	○			□	
627			キイロタマノミハムシ	<i>Sphaeroderma unicolor</i>		●		■	
628		ヒゲナガゾウムシ科	ヒゲナガゾウムシ属の一種	<i>Choragus sp.</i>		●			■
629			ホソクチゾウムシ科	ケブカホソクチゾウムシ	<i>Sergiolus griseopubescens</i>		●		■
630			オトシブミ科	ヒメクロオトシブミ	<i>Apoderus erythrogaster</i>	●	●		■
631				エゴツルクビオトシブミ	<i>Cycnotrachelus roelofsi</i>	●			■
632				カシリリオトンブミ	<i>Euops splendidus</i>		●		■
633		ゾウムシ科	ナカスジカレキゾウムシ	<i>Acicnemis suturalis</i>	●			■	
634			ツヤツチゾウムシ	<i>Asphaltus japonicus</i>		●		▲	
635			マダラヒメゾウムシ	<i>Baris scolopacea</i>	●	●			■
636			シロコブゾウムシ	<i>Episomus turritus turritus</i>	●				■
637			コフキゾウムシ	<i>Eugnathus distinctus</i>	●	●			■
638			カナムグラトゲサルゾウムシ	<i>Homorosoma chinense</i>		●		■	
639			コカシワクチブトゾウムシ	<i>Lepidepistomodes griseoides</i>		●			■
640			ハスジカツオゾウムシ	<i>Lixus acutipennis</i>	●	●		■	
641			Macrocyrus属の一種	<i>Macrocyrus sp.</i>		●		■	■
642			ネジキトゲムネサルゾウムシ	<i>Mecysmoderes brevicarinatus</i>		●	■		
643			トゲハラヒラセクモゾウムシ	<i>Metialma cordata</i>	●			■	
644			クワヒメゾウムシ	<i>Moreobaris deplanata</i>		●			■
645			ヒゲボソゾウムシ属の一種	<i>Phyllobius sp.</i>	●	●		■	
646			オオクチブトゾウムシ	<i>Phyllolytus variabilis</i>		●			■
647			アカアシクチブトサルゾウムシ	<i>Rhinoncus cribricollis</i>		●		■	■

表 5-10-8 (13) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
653	コウチュウ目	ゾウムシ科	ギシギシクチブトサルゾウムシ	<i>Rhinoncus jakovlevi</i>		●			■
654			タデノクチブトサルゾウムシ	<i>Rhinoncus sibiricus</i>	●				■
655			Sympiezomias 属の一種	<i>Sympiezomias</i> sp.	●	●			■
656		オサゾウムシ科	オオゾウムシ	<i>Sipalinus gigas gigas</i>	●				■
657	ハチ目	コマユバチ科	コマユバチ科の一種	<i>Braconidae</i>	●		★	■★	■
658			タマゴクロバチ科	<i>Scelionidae</i>	●	●			■▲
659			ノミバチ科	<i>Elasmus</i> sp.	●			■	
660			ヒメバチ科	<i>Coelichneumon lividus</i>	●			■	
661			ミフシハバチ科	<i>Arge nigronodosa</i>	●				■
662			ニホンチュウレンジ	<i>Arge nipponensis</i>	●			■	
663		ハバチ科	ハグロハバチ	<i>Allantus luctifer</i>		●			■
664			セグロカブラハバチ	<i>Athalia infumata</i>		●		■	
665			ニホンカブラハバチ	<i>Athalia japonica</i>		●		■	
666			イスノフグリハバチ	<i>Athalia kashmirensis</i>		●	■		
667			カブラハバチ	<i>Athalia rosae ruficornis</i>		●	■	■	
668			クロムネハバチ	<i>Lagidina irritans</i>		●		■	
669			キコシホソハバチ	<i>Tenthredo mortivaga</i>	●			■	
670			アシプトコバチ科	<i>Brachymeria lasus</i>	●		■	■	
671		アリガタバチ科	ムカシアリガタバチ属の一種	<i>Acrepyris</i> sp.	●			■	
-			アリガタバチ科の一種	<i>Bethylidae</i>		●			■
672	ヒメバチ科	Exetastes 属の一種	<i>Exetastes</i> sp.	●			■		
673		マダラヒメバチ	<i>Ichneumon yumyum</i>		●				■
674		トガリヒメバチ亜科の一種	<i>Cryptinae</i>		●			■	
675		Mesochorus 属の一種	<i>Mesochorus</i> sp.	●	●		■★		
676		ウスグロアメバチ属の一種	<i>Ophion</i> sp.	●	●	★	■		
-		ヒメバチ科の一種	<i>Ichneumonidae</i>	○	○	□	□★	□★	
677	アリ科	アシナガアリ	<i>Aphaenogaster famelica</i>		●			▲	
678		ヤマトアシナガアリ	<i>Aphaenogaster japonica</i>		●	▲	▲	▲	
679		クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i>	●	●	■	■	■	
680		ケブカツヤオアリ	<i>Camponotus nipponensis</i>		●			■	
681		ヒラズオオアリ	<i>Camponotus nipponicus</i>		●			■	
682		ムネアカオオアリ	<i>Camponotus obscuripes</i>		●			■	
683		ヨツボシオオアリ	<i>Camponotus quadrimaculatus</i>	●	●			■	
684		ウメマツオオアリ	<i>Camponotus vitiosus</i>	●	●	■★	■	■	
685		ハリブトシリアゲアリ	<i>Crematogaster matsumurai</i>	●	●			■	
686		ツヤシリアゲアリ	<i>Crematogaster nawai</i>		●	■	■	■	
687		キイロシリアゲアリ	<i>Crematogaster osakensis</i>	●	●	■▲	▲	▲	
688		テラニシシリアゲアリ	<i>Crematogaster teranishi</i>	●	●			■	
-		シリアゲアリ属の一種	<i>Crematogaster</i> sp.		○	□			
689		シベリアカタアリ	<i>Dolichoderus sibiricus</i>	●	●		■	■	
690		クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>	●	●	■	■	■	
691		トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>	●	●	■▲	■▲	■▲	
692		ヒラアシクサアリ	<i>Lasius spathepus</i>		●	■	■	■	
693		ヒメアリ	<i>Monomorium intrudens</i>		●			▲	
694		キイロヒメアリ	<i>Monomorium triviale</i>	●	●			▲	
695		アメイロアリ	<i>Nylanderia flavipes</i>	●	●	■▲	■▲	■▲	
696		アズマオオズアリ	<i>Pheidole fervida</i>	●	●	▲	▲	■▲	
697		トゲアリ	<i>Polyrhachis lamellidens</i>		●	■			
698		アミメアリ	<i>Pristomyrmex punctatus</i>	●	●	■▲	■▲	■▲	
699		トフシアリ	<i>Solenopsis japonica</i>	●				▲	
700		ヒラタウコアリ	<i>Strumigenys canina</i>		●			▲	
701		トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i>	●	●	■		■▲	
702		ウメマツアリ	<i>Vollenhovia emeryi</i>	●			▲		
703	スズメバチ科	ミカドトックリバチ	<i>Eumenes micado</i>		●			■	
704		ムモントックリバチ	<i>Eumenes rubronotatus</i>		●			■	
705		カバオビドロバチ本土亜種	<i>Euodynerus dantici violaceipennis</i>		●			■	
706		スズバチ	<i>Oreumenes decoratus</i>		●	■			■

表 5-10-8 (14) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注2)}		
					内	外	秋季	春季	夏季
707	ハチ目	スズメバチ科	ムモンホソアシナガバチ	<i>Parapolybia crocea</i>		●	■	■	
708			フタモンアシナガバチ本土亜種	<i>Polistes chinensis antennalis</i>		●	■		
709			ヤマトアシナガバチ	<i>Polistes japonicus</i>	●	●	■		■
710			セグロアシナガバチ本土亜種	<i>Polistes jokahamae jokahamae</i>	●	●	■	■	
711			キボシアシナガバチ	<i>Polistes nipponensis</i>	●		■		
712			コガタスズメバチ	<i>Vespa analis</i>	●	●	■	■	
713			モンスズメバチ	<i>Vespa crabro</i>		●		■	
714			ヒメスズメバチ	<i>Vespa ducalis</i>	●	●	■		■
715			オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia</i>	●	●	■	■	
716			キイロスズメバチ	<i>Vespa simililima</i>	●	●	■		
717			クロスズメバチ	<i>Vespula flaviceps</i>		●	■		
718		クモバチ科	オオモンクロクモバチ	<i>Anoplius samariensis</i>	●	●	■		■
719			ヒゲクモバチ属の一種	<i>Dipogon sp.</i>		●		■	
720			オオシロフクモバチ	<i>Episyron arrogans</i>		●			■
721	ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ	<i>Megacampsomeris prismatica</i>		●	■			
722		キオビツツチバチ	<i>Scolia oculata</i>		●				■
723	ギングチバチ科	ヒメコオロギバチ本土亜種	<i>Liris festivans japonicus</i>		●			■	
724	ヒメハナバチ科	ニッポンヒメハナバチ	<i>Andrena nippon</i>	●				■	
-		ヒメハナバチ属の一種	<i>Andrena sp.</i>		●			□	
725	ミツバチ科	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana japonica</i>	●	●	■			
726		トラマルハナバチ本土亜種	<i>Bombus diversus diversus</i>	●		■			
727		クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>		●			■	
728		キオビツヤハナバチ	<i>Ceratina flavipes</i>		●			■	
729		ヤマツツヤハナバチ	<i>Ceratina japonica</i>		●				■
-		ツヤハナバチ属の一種	<i>Ceratina sp.</i>	●					□
730		ニッポンヒゲナガハナバチ	<i>Eucera nipponensis</i>		●			■	
731		ダイミョウキマダラハナバチ	<i>Nomada japonica</i>		●			■	
732		キムネクマバチ	<i>Xylocopa appendiculata circumvolans</i>	●	●	■		■	■
733		タイワンタケクマバチ	<i>Xylocopa tranquebarorum</i>	●	●				■
734	ムカシハナバチ科	ニッポンメンハナバチ	<i>Hylaeus transversalis</i>	●					■
735	コハナバチ科	アカガネコハナバチ	<i>Halictus aerarius</i>	●	●	■		■	
736		コハナバチ属の一種	<i>Lasioglossum sp.</i>		●			■	■
737	ケアシハナバチ科	ケアシハナバチ属の一種	<i>Melitta sp.</i>		●			■	
合計		20 目	196 科	737 種	448 種	536 種	■:262 種 ▲:33 種 ★:79 種 秋季:340 種	■:270 種 ▲:32 種 ★:24 種 春季:309 種	■:298 種 ▲:49 種 ★:78 種 夏季:384 種

注1)種名及び配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表中表記の詳細

■:見つけ取り法

▲:ベイトラップ法

★:ライトラップ法

注3)○、□、△、☆:同一種の可能性があり、種数にカウントしなかった。

④ 魚類

魚類の確認種一覧は、表5-10-9に示すとおりである。

現況調査の結果、1目1科1種の魚類を確認した。

表 5-10-9 魚類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査時期 ^{注2)}	
					内	外	秋季	夏季
1	コイ目	コイ科	カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>		●	■	■
合計	1 目	1 科	1 種		0 種	1 種	1 種	1 種

注 1)種名及び配列は「令和 6 年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、令和 6 年)に準拠した。

注 2)表中表記の詳細

■:タモ網、モンドリ等による捕獲

⑤ 底生生物

底生生物の確認種一覧は、表5-10-10に示すとおりである。

現況調査の結果、4門6綱16目50科100種の底生生物を確認した。

表 5-10-10 (1) 底生生物の確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注1)}	
							内	外	秋季	春季
1	類線形動物門	ハリガネムシ綱	ハリガネムシ目	-	ハリガネムシ目の一種	<i>Gordioidea</i>		●	■	■
2	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	カワニナ科	カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>		●	■	■
3		二枚貝綱	マルスダレガイ目	ドブシジミ科	マメンジミ属の一種	<i>Pisidium sp.</i>		●		■
4	環形動物門	ミズ綱	オヨギミズ目	オヨギミズ科	オヨギミズ科の一種	<i>Lumbircidae</i>		●	■	■
5			イトミズ目	ミズミズ科	ユリミミズ	<i>Limnodrilus hoffmeisteri</i>		●	■	■
6					ナミミズミズ	<i>Nais communis</i>		●	■	■
7					ミズミミズ	<i>Nais variabilis</i>		●		■
8					ハヤセミズミズ	<i>Piguetiella denticulata</i>		●	■	■
-					ミズミミズ科の一種	<i>Naididae</i>	○		□	
9		厚環帶目	ツリミミズ科	ツリミミズ科の一種	<i>Lumbriidae</i>		●	■		
10	節足動物門	軟甲綱	ワラジムシ目	ミズムシ(甲)	ミズムシ(甲)	<i>Asellus hilgendorfi hilgendorfi</i>		●	■	■
11			エビ目	サワガニ科	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>		●	■	■
12		昆蟲綱	カゲロウ目	トビイロカゲロウ科	トビイロカゲロウ属の一種	<i>Paraleptophlebia sp.</i>		●	■	■
13				モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>		●	■	■
14					トウヨウモンカゲロウ	<i>Ephemera orientalis</i>		●	■	
15			マダラカゲロウ科	オオクママダラカゲロウ		<i>Cincticostella elongatula</i>		●		■
16			ヒメタオカゲロウ科	ヒメタオカゲロウ属の一種		<i>Ameletus sp.</i>		●		■
17			コカゲロウ科	ヨシノコカゲロウ		<i>Alainites yoshinensis</i>		●	■	■
18				シロハラコカゲロウ		<i>Baetis thermicus</i>		●		■
19				ウスイロフトヒゲコカゲロウ		<i>Labiobaetus atrebatinus orientalis</i>		●		■
20				ヒメウスバコカゲロウ属の一種		<i>Procloeon sp.</i>		●	■	■
21			ヒラタカゲロウ科	ミヤマタニガワカゲロウ属の一種		<i>Cinygmulia sp.</i>		●		■
22				キブネタニガワカゲロウ		<i>Ecdyonurus kibunensis</i>		●		■
-				タニガワカゲロウ属の一種		<i>Ecdyonurus sp.</i>	○	■		
23				ナミヒラタカゲロウ		<i>Epeorus ikanonis</i>		●		■
24				ユミモンヒラタカゲロウ		<i>Epeorus nipponicus</i>		●	■	
25		トンボ目	イトトンボ科	アジアイトトンボ		<i>Ischnura asiatica</i>		●	■	
26				クロイトトンボ		<i>Paracercion calamorum calamorum</i>		●	■	■
27			モノサントンボ科	モノサントンボ		<i>Copera annulata</i>		●	■	
28			カワトンボ科	アサヒナカワトンボ		<i>Mnais pruinosa</i>		●	■	

表 5-10-10 (2) 底生生物の確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注1)}		
							内	外			
29	節足動物門	昆蟲綱	トンボ目	ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>		●	■		
30					ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>		●	■		
31					コシボソヤンマ	<i>Boyeria macrachlani</i>		●	■	■	
32					ミルンヤンマ	<i>Planaeschna milnei milnei</i>		●	■		
33				サナエトンボ科	ヤマサナエ	<i>Asiagomphus melaenops</i>		●	■		
34					ヒメクロサナエ	<i>Lanthus fujiacus</i>		●	■		
35					オジロサナエ	<i>Stylogomphus suzukii</i>		●	■	■	
36				オニヤンマ科	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>		●	■	■	
37				エゾトンボ科	エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiaenea</i>		●	■		
38				トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>		●	■	■	
39				カワゲラ目	オナシカワゲラ科	フサオナシカワゲラ属の一種	<i>Amphinemura sp.</i>		●	■	■
40					オナシカワゲラ科	オナシカワゲラ属の一種	<i>Nemoura sp.</i>		●		■
41					ミドリカワゲラ科	ミドリカワゲラ科の一種	<i>Chloroperlidae</i>		●		■
42					カワゲラ科	カミムラカワゲラ	<i>Kamimuria tibialis</i>		●		■
43					カワゲラ科	ウエノカワゲラ	<i>Kamimuria uenoii</i>		●		■
-					カミムラカワゲラ科	カミムラカワゲラ属の一種	<i>Kamimuria sp.</i>	○	■		
44					カワゲラ科	フタツメカワゲラ属の一種	<i>Neoperla sp.</i>		●	■	■
45					カワゲラ科	ヤマトカワゲラ	<i>Niponiella limbarella</i>		●	■	■
46					カワゲラ科	オオヤマカワゲラ	<i>Oyamia lugubris</i>		●	■	
47					アミカワゲラ科	アミカワゲラ科の一種	<i>Perlodidae</i>		●		■
48	カメムシ目	アメンボ科	アメンボ	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>		●	■			
49				シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>		●	■			
50		タイコウチ科	タイコウチ	<i>Laccotrephes japonensis</i>		●	■				
51		マツモムシ科	マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>		●	■				
52		ヘビトンボ科	ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>		●	■				
53			センブリ科	ネグロセンブリ	<i>Sialis japonica</i>		●	■			
54		トビケラ目	シマトビケラ科	キブネミヤマシマトビケラ	<i>Diplectrona kibuneana</i>		●	■			
-				ミヤマシマトビケラ属の一種	<i>Diplectrona sp.</i>	○		□			
55			カワトビケラ科	ヒメタニガワトビケラ属の一種	<i>Wormaldia sp.</i>		●		■		
56			イワトビケラ科	ミヤマイワトビケラ属の一種	<i>Plectrocennia sp.</i>		●		■		
57			ナガレトビケラ科	ムナグロナガレトビケラ	<i>Rhyacophila nigrocephala</i>		●		■		
-				ナガレトビケラ属の一種	<i>Rhyacophila sp.</i>	○		□			
58			アシエダトビケラ科	コバントビケラ	<i>Anisocentropus kawamurai</i>		●	■	■		
59			ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ属の一種	<i>Goera sp.</i>		●	■			
60			カクツツトビケラ科	オオカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma crassicornis</i>		●		■		
-				カクツツトビケラ属の一種	<i>Lepidostoma sp.</i>	○	■		□		
61			フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ	<i>Perissoneura paradoxa</i>		●	■			
62			ケトビケラ科	トウヨウガマガトビケラ	<i>Gumaga orientalis</i>		●	■			
63	ハエ目	ヒメガンボ科	ヒメガンボ	ヒメガンボ属の一種	<i>Hexatoma sp.</i>		●	■	■		
64			ガガンボ科	ガガンボ属の一種	<i>Tipula sp.</i>		●		■		
65		ヌカ力科	ヌカ力科の一種	<i>Ceratopogonidae</i>		●	■				
66			ユスリカ科	クロユスリカ	<i>Benthalia dissidens</i>		●		■		
67				ケブカエリユスリカ属の一種	<i>Brillia sp.</i>		●	■	■		
68				ユスリカ属の一種	<i>Chironomus sp.</i>		●	■			
69				トラフニユスリカ属の一種	<i>Conchapelopia sp.</i>		●	■	■		
70				コナユスリカ属の一種	<i>Corynoneura sp.</i>		●		■		
71				ツヤユスリカ属の一種	<i>Cricotopus sp.</i>		●		■		
72				エラノリユスリカ属の一種	<i>Epoicocladius sp.</i>		●		■		
73				テンマクエリユスリカ属の一種	<i>Eukiefferiella sp.</i>		●		■		
74				セボリユスリカ属の一種	<i>Glyptotendipes sp.</i>		●		■		
75				ウンモンエリユスリカ属の一種	<i>Heleniella sp.</i>		●		■		
76				フユユスリカ属の一種	<i>Hydrobaenus sp.</i>		●		■		
77				ヒカゲユスリカ属の一種	<i>Kiefferulus sp.</i>		●	■			
78				Macropelopia sp.	<i>Macropelopia sp.</i>		●		■		
79				ツヤムネユスリカ属の一種	<i>Microtendipes sp.</i>		●		■		
80				モンヌマユスリカ属の一種	<i>Natarsia sp.</i>		●	■			
81				ニイツマホソケブカエリユスリカ	<i>Neobrilla longistyla</i>		●	■	■		

表 5-10-10 (3) 底生生物の確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査方法 ^{注1)}	
							内	外	秋季	春季
82	節足動物門	昆虫綱	ハエ目	ユスリカ科	エリユスリカ属の一種	<i>Orthocladius</i> sp.		●		■
83					Paratrissocladius 属の一種	<i>Paratrissocladius</i> sp.		●	■	
84					ハモンユスリカ属の一種	<i>Polypedilum</i> sp.		●	■	■
85					カユスリカ属の一種	<i>Procladius</i> sp.		●	■	
86					イズミエリユスリカ属の一種	<i>Psilometriocnemus</i> sp.		●		■
87					ウスギヌヒメユスリカ属の一種	<i>Rheopelopia</i> sp.		●	■	
88					ナガレユスリカ属の一種	<i>Rheotanytarsus</i> sp.		●	■	
89					アシマダラユスリカ属の一種	<i>Stictochironomus</i> sp.		●		■
90					Synendotendipes 属の一種	<i>Synendotendipes</i> sp.		●	■	
91					ヒゲユスリカ属の一種	<i>Tanytarsus</i> sp.		●	■	■
92					ニセテンマクエリユスリカ属の一種	<i>Tvetenia</i> sp.		●	■	■
93				カ科	カ科の一種	<i>Culicidae</i>		●	■	
94				ブユ科	ツノマユブユ属の一種	<i>Eusimulium</i> sp.		●	■	■
95					アシマダラブユ属の一種	<i>Simulium</i> sp.		●		■
96				ナガレアブ科	クロモンナガレアブ	<i>Asuragina caerulescens</i>		●		■
97					サツマモンナガレアブ	<i>Suragina satsumana</i>		●		■
98				アブ科	アブ科の一種	<i>Tabanidae</i>		●	■	
99			コウチュウ目	ヒメドロムシ科	マルヒメツヤドロムシ	<i>Zaitzeviaria ovata</i>		●	■	
-					ヒメツヤドロムシ属の一種	<i>Zaitzeviaria</i> sp.		○		■
100				ホタル科	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>		●	■	
合計	4 門	6 綱	16 目	50 科	100 種		0 種	100 種	68 種	69 種

注1)種名及び配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表中表記の詳細

■:定性調査

注3)○、□:同一種の可能性があり、種数にカウントしなかった。

2) 重要種

① 重要種の選定基準

重要種の選定基準は、表5-10-11に示すとおりである。

表 5-10-11 (1) 重要種の選定基準

記号	法律・文献	カテゴリー等
I	文化財保護法 (昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)	特別天然記念物：天然記念物のうち特に重要なもの 天然記念物：動物、植物及び地質鉱物で我が国にとって学術上価値の高いもの
II	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)	国内希少野生動植物種：国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（または亜種・変種）
III	ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例 (平成 19 年 2 月 28 日 滋賀県規則第 5 号)	希少野生動植物種：県内に生息し、または生育する野生動植物の種（亜種または変種がある種にあっては、その亜種または変種とする。以下同じ。）であつて、次のいずれかに該当するもの。 (1) 滋賀県内におけるその種の存続に支障を来す程度にその種の個体の数が著しく少ない野生動植物の種 (2) 滋賀県内におけるその種の個体の数が著しく減少しつつある野生動植物の種 (3) 滋賀県内におけるその種の個体の主要な生息地または生育地が消滅しつつある野生動植物の種 (4) 滋賀県内におけるその種の個体の生息または生育の環境が著しく悪化しつつある野生動植物の種 (5) 上記に掲げるもののほか、滋賀県内におけるその種の存続に支障を来す事情がある野生動植物の種 指定希少野生動植物種：「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」における「希少野生動植物種」のうち、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく「国内希少野生動植物種」を除き、県内の生息状況等を踏まえて特に保護を図る必要がある希少な種と判断され指定された種。
IV	環境省レッドリスト 2020 の公表について (令和 2 年 3 月 27 日報道発表、環境省)	絶滅 (EX) : 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 野生絶滅 (EW) : 飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 絶滅危惧 I 類 (CR+EN) : 絶滅の危機に瀕している種 絶滅危惧 IA 類 (CR) : ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの 絶滅危惧 IB 類 (EN) : IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの 絶滅危惧 II 類 (VU) : 絶滅の危険が増大している種 準絶滅危惧 (NT) : 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 情報不足 (DD) : 評価するだけの情報が不足している種 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) : 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

表 5-10-11 (2) 重要種の選定基準

記号	法律・文献	カテゴリー等
V	滋賀県で大切にすべき 野生生物 滋賀県レッド データブック 2020 年版 (令和 3 年 3 月)	<p>絶滅危惧種：滋賀県内において絶滅の危機に瀕している種。もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、その存続は困難なもの。</p> <p>絶滅危機増大種：滋賀県内において絶滅の危機が増大している種。もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、近い将来、絶滅危惧種のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。</p> <p>希少種：滋賀県内において存続基盤が脆弱な種。現在のところ絶滅危惧種にも絶滅危機増大種にも該当しないが、生息・生育条件の変化によって容易にこれらのかたごりに移行するような脆弱性を有するもの。</p> <p>要注目種：滋賀県内において評価するだけの情報が不足しているため注目が必要な種。</p> <p>分布上重要種：滋賀県内において分布上重要な種。絶滅の危機をもたらす圧迫要因や存続基盤の脆弱性は認められないが、分布が特定の地域に限定される希少性や固有種、準固有種等学術的に重要性を有するもの。</p> <p>その他重要種：全国及び近隣府県の状況から県内において注意が必要な種。</p> <p>絶滅種：滋賀県内において野生で絶滅したと判断される種。</p>

②選定した重要種

(ア) 哺乳類

選定した重要種は表5-10-12、重要種の確認状況は表5-10-13、重要種の確認位置は、図5-10-2に示すとおりである。

表 5-10-12 重要種（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査時期				重要性 ^{注3)}				
					内	外	秋季	冬季	春季	夏季	I	II	III	IV	V
1	コウモリ目	-	コウモリ目の一種 ^{注4)}	Chiroptera sp.		●			2					注4	注4
2			コウモリ目の一種 ^{注5)}	Chiroptera sp.		●			1					注5	注5
3	サル目	オナガザル科	ニホンザル	Macaca fuscata	●	●	2	1	2						要注
4	ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ	Micromys minutus	●	●	2	5	3	2			○		希少
合計	3 目	3 科	4 種		2 種	4 種	2 種	2 種	4 種	1 種	0 種	0 種	3 種	1 種	4 種

注1)種名及び配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表内の数値は、種が確認された地点数を示す。

注3)重要種の判定基準

I:「文化財保護法」(昭和25年5月30日、法律第214号)

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日、法律第75号)

III:「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例施行規則」(平成19年2月28日、滋賀県規則第5号)

○(希少野生動植物種)

IV:「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省)

V:「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック」(令和3年3月、滋賀県)

希少(希少種)、要注(要注目種)

注4)バットディテクターによる周波数(20~30kHz)及び音声のみの確認であったため、種の同定に至らなかった。

なお、該当する可能性のある重要種は以下のとおりである。

ヤマコウモリ IV:VU(絶滅危惧Ⅱ類) V:要注(要注目種)

ヒナコウモリ III:指定(指定希少野生動植物種) V:絶危(絶滅危惧種)

オヒキコウモ IV:VU(絶滅危惧Ⅱ類) V:要注(要注目種)

注5)バットディテクターによる周波数(60~70kHz)及び音声のみの確認であったため、種の同定に至らなかった。

なお、該当する可能性のある重要種は以下のとおりである。

キクガシラコウモリ III:希少(希少野生動植物種) V:絶危(絶滅危惧種)

モモジロコウモリ III:希少(希少野生動植物種) V:絶危(絶滅危惧種)

ユビナガコウモリ III:希少(希少野生動植物種) V:絶危(絶滅危惧種)

テングコウモリ III:指定(指定希少野生動植物種) V:絶危(絶滅危惧種)

表 5-10-13 (1) 重要種確認状況（コウモリ目の一種（20～30kHz））

種名	コウモリ目の一種					
学名	Chiroptera sp.					
科名	—					
選定基準	I	—	現地撮影画像なし			
	II	—				
	III	—				
	IV	—				
	V	—				
分布・生態学的特徴	【ヤマコウモリ（学名： <i>Nyctalus aviator</i> ） IV：絶滅危惧種II類 V：要注目種】 北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。					
	【ヒナコウモリ（学名： <i>Vespertilio sinensis</i> ） III：指定希少野生動植物種 V：絶滅危惧種】 北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では比叡山、余呉町、多賀町に分布する。					
	【オヒキコウモリ（学名： <i>Tadarida insignis</i> ） IV：絶滅危惧II類 V要注目種】 北海道、埼玉、神奈川、三重、京都、兵庫、広島、愛媛、熊本、福岡などに分布する。 県内では多賀町で確認されている。					
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）					
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況		
①	春季	令和6年5月16日	1	落葉広葉樹林上空を飛翔している個体の超音波を確認。		
②	春季	令和6年5月16日	2	落葉広葉樹林上空を飛翔している個体の超音波を確認。		

表 5-10-13 (2) 重要種確認状況（コウモリ目の一一種 (60~70kHz)）

種名	コウモリ目の一一種					
学名	Chiroptera sp.					
科名	—					
選定基準	I	—	現地撮影画像なし			
	II	—				
	III	—				
	IV	—				
	V	—				
分布・生態学的特徴	【キクガシラコウモリ（学名： <i>Rhinolophus ferrumequinum</i> ） III：希少野生動植物種 V：絶滅危惧種】 北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では志賀町、朽木村、マキノ町、余呉町、木之本町、高月町、浅井町、多賀町、永源寺町に分布する。					
	【モモジロコウモリ（学名： <i>Myotis macrodactylus</i> ） III：希少野生動植物種 V：絶滅危惧種】 北海道、本州、四国、九州、佐渡、対馬、壱岐、福江島、種子島、徳之島に分布する。 県内では大津市、朽木村、志賀町、余呉町、木之本町、高月町、浅井町、多賀町、永源寺町に分布している。					
	【ユビナガコウモリ（学名： <i>Miniopterus fuliginosus</i> ） III：希少野生動植物種 V：絶滅危惧種】 本州（愛知を除く）、四国、九州、佐渡、対馬、隠岐、福江島、屋久島に分布する。 県内では朽木村、余呉町、木之本町、高月町、多賀町に分布する。					
	【テングコウモリ（学名： <i>Murina hilgendorfi</i> ） III：指定希少野生動植物種 V：絶滅危惧種】 北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では志賀町、マキノ町、山東町、多賀町、日野町、長浜市、余呉町に分布する。					
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）					
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況		
①	春季	令和6年5月16日	1	落葉広葉樹林上空を飛翔している個体の超音波を確認。		
				建設予定地外		

表 5-10-13 (3) 重要種確認状況（ニホンザル）

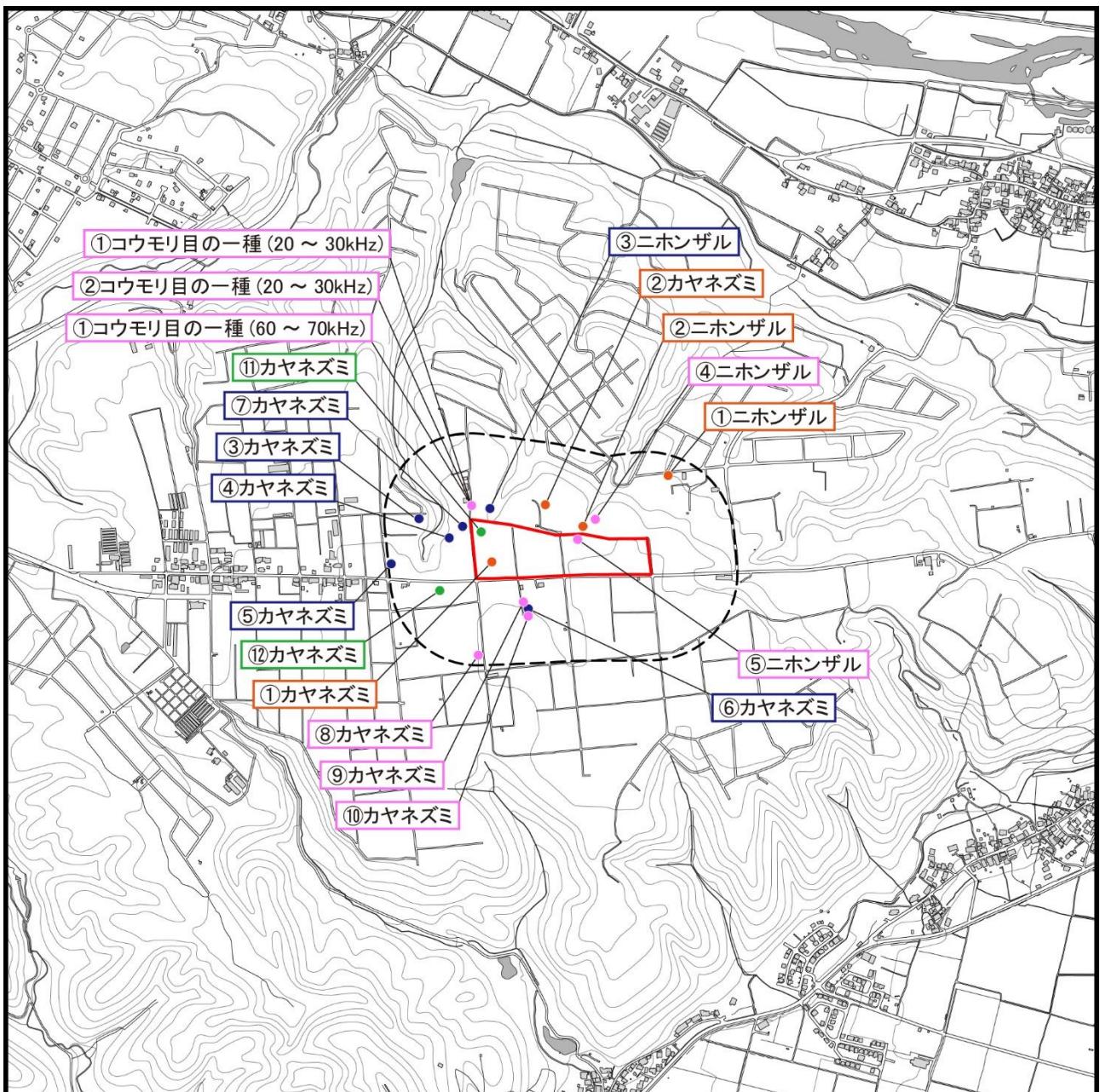
種名	ニホンザル						
学名	<i>Macaca fuscata</i>						
科名	オナガザル科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	要注目種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	本州、四国、九州、屋久島に分布する。 県内では、大津市、志賀市、信楽町、甲賀町、土山町、日野町、湖東町、愛東町、永源寺町、秦荘町、甲良町、彦根市、多賀町、米原町、近江町、山東町、伊吹町、長浜市、浅井町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町、マキノ町、今津町、新旭町、安曇川町、高島町、朽木村に126郡の生息が確認されており、湖南地域を除き山地帯に連続的に分布している。 頭胴長 47~60cm。尾長 7~12cm、体重 8~18kg で、雌の方がやや小さい。毛は茶褐色～灰褐色で、腹と手足の内側がやや白く、尾は短い。 植食性であるが、針葉樹の葉はほとんど食べず、常緑広葉樹林と落葉広葉樹林が重要な生息地であり、山地帯を中心には生息する。十数頭から百数十頭までの群で一帯の遊動域内を移動する。遊動域の面積は、個体群の大きさと餌資源量により変化する。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	秋季	令和5年10月17日	1	太陽光発電施設の敷地内を移動する成獣を確認。	建設予定地外		
②	秋季	令和5年10月7日	4	針葉樹植林を移動する個体（成獣2個体、幼獣2個体）を確認。	建設予定地外		
③	冬季	令和6年2月2日	6	針葉樹植林を移動する個体（成獣6個体）を確認。	建設予定地外		
④	春季	令和6年4月25日	1	針葉樹植林を移動する個体（成獣1個体）を確認。	建設予定地外		
⑤	春季	令和6年5月16日	1	草地で糞を確認。	建設予定地内		

表 5-10-13 (4) 重要種確認状況（カヤネズミ）

種名	カヤネズミ						
学名	<i>Micromys minutus</i>						
科名	ネズミ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
<p>本州(宮城県以南の太平洋側、石川県以南の日本海側)、四国、九州に分布する。 県内では水口町、信楽町、甲南町、甲賀町、土山町、日野町、永源寺町、愛東町、湖東町、多賀町、高島町、朽木村、安曇川町、今津町に分布する。 日本で一番小さなネズミで、尾の先端の一部は毛におおわれていない。頭胴長 50~80mm、尾長 61~83mm、後足長 14~16.7mm 体重 7~14g である。 5~11月頃、繁殖のために、オギ、チガヤ、ススキ、ヨシなどの高茎草本の葉を編んで、地上巣をつくり中で繁殖するという特異な習性をもっている。冬は地上に降りて地下で巣をつくり生活する。草に登るのが得意で、尾をものに巻き付けて草から草へと地上を使わずに移動する。子供の巣立ちは早く約2週間である。親は繁殖期間中複数の巣を利用して巣間を移動する。 食性は昆虫や草本の種子等雑食性である。主に平野の河川敷、農耕地に分布するが、山でも高茎の草本があれば約1,000mまでは生息することもある。</p>							
<p>【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）</p>							
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	秋季	令和5年10月16日	1	草地で球巣を確認。	建設予定地内		
②	秋季	令和5年10月17日	1	落葉広葉樹林で崩れた球巣を確認。	建設予定地外		
③	冬季	令和6年1月22日	2	草地で球巣を確認。	建設予定地外		
④	冬季	令和6年1月22日	1	草地で古い球巣を確認。	建設予定地外		
⑤	冬季	令和6年1月22日	1	草地で球巣を確認。	建設予定地外		
⑥	冬季	令和6年1月23日	4	草地で球巣を確認。	建設予定地外		
⑦	冬季	令和6年1月24日	1	草地でトラップにより捕獲した個体を確認。	建設予定地外		
⑧	春季	令和6年5月16日	2	草地で古い球巣を確認。	建設予定地外		
⑨	春季	令和6年5月16日	1	草地で球巣を確認。	建設予定地外		
⑩	春季	令和6年5月16日	1	草地で崩れた球巣を確認。	建設予定地外		
⑪	夏季	令和6年6月27日	7	草地で球巣を確認。	建設予定地内		
⑫	夏季	令和6年6月27日	1	草地で球巣を確認。	建設予定地外		

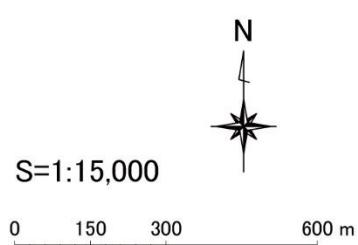


現地確認状況（球巣）



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（秋季）
- : 確認地点（冬季）
- : 確認地点（春季）
- : 確認地点（夏季）



地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-2 重要種確認位置図（哺乳類）

(イ) 鳥類

選定した重要種は表5-10-14、重要種の確認状況は表5-10-15、重要種の確認位置は、図5-10-3に示すとおりである。

表 5-10-14 重要種（鳥類）

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査時期				重要性 ^{注3)}				
					内	外	秋季	冬季	春季	夏季	I	II	III	IV	V
1	ハト目	ハト科	アオバト	<i>Treron sieboldii</i>		●	1		4	4			○		希少
2	カッコウ目	カッコウ科	ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	●	●				6			○		希少
3			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>		●			3				○		希少
4	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		●				1			○	NT	希少
5			ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		●				1			○	NT	絶増
6		タカ科	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		●	1						○		希少
7			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		●	1	3					○	NT	希少
8			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	●	●			1	3			○	VU	希少
9			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	●	●	2	3					○		希少
10			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	●	●		2				国内	○	EN	絶危
11	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>		●			14				○		希少
12			コミミズク	<i>Asio flammeus</i>		●			1				◎		絶危
13	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>		●				1			○		希少
14	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>		●	1						○		希少
15	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	●	●			2	3			○	VU	希少
16		カササギヒタキ科	サンコウチヨウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>		●				3			○		希少
17		ツバメ科	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	●	●	3		1	5					その他
18		ムシクイ科	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	●	●	3							DD	
19		ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	●	●		2					○		希少
20		ヒタキ科	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>		●	1		3				○		希少
21			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>		●		2					○		希少
22			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		●			5	2			○		希少
23			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>		●			2				○		希少
24		アトリ科	ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	●	●		9					○		希少
25			イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>		●		1					○		希少
26	ホオジロ科	ノジコ		<i>Emberiza sulphurata</i>	●	●	4						○	NT	希少
27		クロジ		<i>Emberiza variabilis</i>	●			2					○		希少
合計	7 目	15 科	27 種		11 種	26 種	9 種	8 種	10 種	10 種	0 種	1 種	25 種	8 種	26 種

注1)種名及び配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表内の数値は、種が確認された地点数を示す。

注3)重要種の判定基準

I :「文化財保護法」(昭和25年5月30日、法律第214号)

II :「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日、法律第75号)

　　国内(国内希少野生動植物種)

III :「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例施行規則」(平成19年2月28日、滋賀県規則第5号)

　　◎(指定希少野生動植物種)、○(希少野生動植物種)

IV :「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省)

　　EN(絶滅危惧 I B類)、VU(絶滅危惧 II 類)、NT(準絶滅危惧種)、DD(情報不足)

V :「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック」(令和3年3月、滋賀県)

　　絶危(絶滅危惧種)、絶増(絶滅危機増大種)、希少(希少種)、その他(その他重要種)

表 5-10-15 (1) 重要種確認状況（アオバト）

種名	アオバト						
学名	<i>Treron sieboldii</i>						
科名	ハト科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では全域の平地・丘陵地・山地に分布する。 全長約33cm、上面が暗緑色で顔から胸にかけて明るい黄緑色のハト。腹は白く、嘴は青灰色、足は赤紫色。雄は翼の上面の雨覆が赤褐色。 山地の森林、特に広葉樹林に周年生息している。冬期には平地や琵琶湖岸でもみられる。樹上で採餌し、ドングリ類や液果を好んで食べる。つがいか小群で行動することが多い。「アーオー、ウーウァー」などとうなるような声で鳴く。海のそばでは、海岸の岩場に出て海水を飲むことが知られている。 産卵期は6月頃、産卵数は2個。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）						
	No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点	
	①	秋季	令和5年10月16日	1	針葉樹植林で鳴声を確認。	建設予定地外	
	②	春季	令和6年5月16日	2	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外	
	③	春季	令和6年5月17日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外	
	④	春季	令和6年5月17日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外	
	⑤	春季	令和6年5月17日	1	草地で休息する個体を確認。	建設予定地外	
	⑥	夏季	令和6年6月26日	1	針葉樹植林でさえずりを確認。	建設予定地外	
	⑦	夏季	令和6年6月27日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外	
	⑧	夏季	令和6年6月27日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外	
	⑨	夏季	令和6年6月27日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外	

表 5-10-15 (2) 重要種確認状況（ホトトギス）

種名	ホトトギス					
学名	<i>Cuculus poliocephalus</i>					
科名	カツコウ科					
選定基準	I	—	現地撮影画像なし			
	II	—				
	III	希少野生動植物種				
	IV	—				
	V	希少種				
分布・生態学的特徴	北海道（南部）、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地に分布する。 全長約 28cm。カツコウ類の中では一番小さい。全身が青灰色で腹部は白く、黒い横斑がある。雌には全身が赤褐色をした個体もみられる。日本には春に渡来し、森林に生息する。県内には 5 月中旬に渡来する。 托卵習性があり、主な仮親であるウグイスの棲む低山から山地のササ藪のある自然林に生息する。「テッペンカケタカ、特許許可局」と聞こえる大きな声で鳴く。 餌は昆虫を主食とし、毛虫をよく食べる。9 月には越冬地の東南アジアに向かって渡去する。					
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）					
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況		
①	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1	針葉樹植林でさえずりを確認。		
②	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。		
③	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。		
④	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	1	落葉広葉樹林で飛翔を確認。		
⑤	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。		
⑥	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	1	落葉広葉樹林で飛翔を確認。		

表 5-10-15 (3) 重要種確認状況（ツツドリ）

種名	ツツドリ					
学名	<i>Cuculus optatus</i>					
科名	カツコウ科					
選定基準	I	—	現地撮影画像なし			
	II	—				
	III	希少野生動植物種				
	IV	—				
	V	希少種				
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地に分布する。 全長約 33cm。ハトより少し小さい。全体が青灰色で腹部は白く、黒い横斑がある。雌には全身が赤褐色をした赤色型と呼ばれる個体もみられる。日本には春に渡来し、森林に生息する。県内には 4 月に渡来し、5~6 月頃に繁殖する。托卵習性があり、主な仮親であるセンダイムシクイが棲む丘陵地や低山の広葉樹林に生息する。「ポボ、ポボ」と竹筒を鳴らすような声で鳴く。 昆虫類を餌とし、秋の渡りの時には桜の木の毛虫を食べるため、公園などにも飛来する。					
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）					
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況		
①	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。		
②	春季	令和 6 年 5 月 17 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。		
③	春季	令和 6 年 5 月 17 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。		

表 5-10-15 (4) 重要種確認状況（ミサゴ）

種名	ミサゴ					
学名	<i>Pandion haliaetus</i>					
科名	ミサゴ科					
選定基準	I	—	現地撮影画像なし			
	II	—				
	III	希少野生動植物種				
	IV	準絶滅危惧種				
	V	希少種				
分布・生態学的特徴						
<p>北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では琵琶湖や大きな河川・湖沼周辺に分布し、近江八幡市、彦根市、多賀町、湖北町、余呉町、マキノ町、高島町で繁殖記録がある。 全長が雄：約 55cm、雌：約 60cm。トビくらいの大きさの中型猛禽。上面は黒褐色で後頭部に短い冠羽がある。腹部は白く、胸には黒褐色の帶がある。 海岸地帯や大きな湖沼に生息し、水面上空で低空飛行を行いながら魚を探し、急降下して中型の魚を捕らえる。 海岸、湖岸の岩棚や大木に営巣することが多いが、鉄塔などの人工物を利用することもある。産卵は 3 月下旬～4 月で、産卵数は 1～4 個。抱卵期間は約 37 日で、孵化後 50～60 日で巣立つ。</p> <p>【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）</p>						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況		
①	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1	落葉広葉樹林上空で飛翔を確認。	建設予定地外	

表 5-10-15 (5) 重要種確認状況（ハチクマ）

種名	ハチクマ					
学名	<i>Pernis ptilorhynchus</i>					
科名	タカ科					
選定基準	I	—	現地確認個体			
	II	—				
	III	希少野生動植物種				
	IV	準絶滅危惧種				
	V	絶滅危機增大種				
分布・生態学的特徴						
<p>北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では全域の丘陵地・山地に分布するが、大津市、土山町、甲南町、信楽町、日野町、竜王町、永源寺町、多賀町、湖北町、木之本町で繁殖の記録がある。 全長が雄：約 57cm、雌：約 61cm の中型猛禽。全身は地味な褐色で、尾羽には幅広い黒色の横縞が 2～3 本ある。県内には 5 月中旬頃に渡来し、大半はより北方に移動するが、少数が繁殖する。産卵数は 2～3 個で、孵化後 35～45 日で巣立つ。 主な獲物は地中のハチであるが、その他の昆虫、小型の両生類、爬虫類、ネズミなども捕食する。9 月中旬頃から 10 月初旬には、越冬地の東南アジア渡る群が主に県北部の山間部を北東から南西に飛行しているのを観察できる。</p> <p>【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）</p>						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況		
①	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1	草地上空で飛翔を確認。	建設予定地外	



表 5-10-15 (6) 重要種確認状況 (ツミ)

種名	ツミ			
学名	<i>Accipiter gularis</i>			
科名	タカ科			
選定基準	I	—		
	II	—		
	III	希少野生動植物種		
	IV	—		
	V	希少種		
現地確認個体				
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では比良山地、比叡山地、田上山地、三国山地、伊吹山地、鈴鹿山脈に記録があり、繁殖の記録は永源寺町、多賀町にある。 全長が雄：約 27cm、雌：約 32cm。日本最小のタカで、雌が雄よりかなり大きい。雄は上面が濃いアイ灰色で下面是汚白色、胸から脇腹は淡い赤褐色。雌は上面が濃いスレート色で、下面に黒褐色の横縞がある。 獲物のほとんどは小鳥類であるが、小型哺乳類や昆虫なども捕食する。山間部の森林に生息し繁殖するが、冬期には平地や河畔林にも出現する。産卵は 4 月下旬～5 月上旬で、産卵数は 2～5 個。抱卵期間は 26～29 日間で、孵化後約 1 ル月で巣立つ。			
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）			
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況
①	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	民家上空で飛翔を確認。
				建設予定地外

表 5-10-15 (7) 重要種確認状況 (ハイタカ)

種名	ハイタカ			
学名	<i>Accipiter nisus</i>			
科名	タカ科			
選定基準	I	—		
	II	—		
	III	希少野生動植物種		
	IV	準絶滅危惧種		
	V	希少種		
現地確認個体				
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では余呉町で繁殖の記録があるが、冬期には大津市、草津市、栗東市、野洲町、永源寺町、彦根市、多賀町、浅井町、ひわ町、湖北町で記録があり、山麓部から平野部に分布する。 全長 30～40cm。森林性の小型猛禽類。雌が雄よりかなり大きい。雄の上面は暗青灰色で、下面是白色に赤褐色の細い横斑がある。尾羽には数本の黒帯がある。雌の上面は灰褐色で下面是白色に褐色の横斑がある。 丘陵地から山間部に生息し、林内や林縁部で主として飛行追跡によって小型の鳥類を捕食する。産卵時期は 5 月頃で、産卵数は 4～5 個。			
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）			
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況
①	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	落葉広葉樹林上空で飛翔を確認。
②	冬季	令和 6 年 1 月 23 日	1	落葉広葉樹林上空で飛翔を確認。
③	冬季	令和 6 年 1 月 23 日	1	落葉広葉樹林上空で飛翔を確認。
④	冬季	令和 6 年 1 月 30 日	1	草地上空で飛翔を確認。

表 5-10-15 (8) 重要種確認状況（サシバ）

種名	サシバ						
学名	<i>Butastur indicus</i>						
科名	タカ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	絶滅危惧 II 類					
	V	希少種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	<p>本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では大津市、志賀町、野洲町、土山町、甲南町、信楽町、日野町、竜王町、永源寺町、彦根市、多賀町、米原町、西浅井町、今津町、高島町で繁殖の記録がある。 全長 47~51cm。翼はやや細長く、飛行中は赤褐色で透けるように見える。夏鳥として九州、四国、本州に渡来する。 主に林縁部や水田の畔、湿地、草地などで、小型の両生類、爬虫類、昆虫などを捕食する。丘陵地から標高800m付近の山地で繁殖することが多い。県内では、丘陵地から山麓部の水田付近や山間部の水系に渡来して繁殖する。秋には、多くの個体が群を成して北東から南西へ渡っていくのが山間～山麓部で観察され、湖東から湖南地方を渡る個体が多い。</p> <p>【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）</p>						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	春季	令和6年5月17日	1	草地上空で飛翔を確認。			
②	夏季	令和6年6月26日	1	草地上空で飛翔を確認。			
③	夏季	令和6年6月27日	1	落葉広葉樹林上空で飛翔を確認。			
④	夏季	令和6年6月27日	1	草地上空で飛翔を確認。			
確認地点							
建設予定地内外							
建設予定地外							
建設予定地外							
建設予定地内							

表 5-10-15 (9) 重要種確認状況（ノスリ）

種名	ノスリ			
学名	<i>Buteo buteo</i>			
科名	タカ科			
選定基準	I	—		
	II	—		
	III	希少野生動植物種		
	IV	—		
	V	希少種		
現地確認個体				
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では土山町で繁殖の記録があり、冬期には全域に分布する。 全長が 51~59cm の中型猛禽類。翼は幅広く、尾羽は短い。上面は暗褐色で、飛行中の翼下面是白っぽく一様に見える。色彩には個体特異が多い。 草地、伐採地、農耕地などの開けた場所で、空中に停飛したり、電柱に止まったりして、地上のノネズミなどの小型の哺乳類や小鳥、爬虫類、昆虫を捕食する。 主として本州中部以北の山麓部から山間部の森林で繁殖する。産卵時期は 4 月頃で、産卵数は 2~4 個。北方で繁殖する個体は、冬期に本州以南に移動して越冬するものが多い。県内では山間部の森林で繁殖し、冬期は平野から山間部に広く出現する。渡りの時期には多くの個体が山間部を通過する。			
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）			
	No.	調査時期	年月日	確認数等
	①	秋季	令和 5 年 10 月 16 日	1
	②	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1
	③	冬季	令和 6 年 1 月 23 日	1
	④	冬季	令和 6 年 1 月 30 日	1
	⑤	冬季	令和 6 年 1 月 30 日	1
確認状況				
確認地点				



現地確認個体

表 5-10-15 (10) 重要種確認状況（クマタカ）

種名	クマタカ			
学名	<i>Nisaetus nipalensis</i>			
科名	タカ科			
選定基準	I	—		
	II	国内希少野生動植物種		
	III	希少野生動植物種		
	IV	絶滅危惧 I B 類		
	V	絶滅危惧種		
現地確認個体				
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州に分布。 県内では比良・比叡・三国・伊吹・田上の各山地と鈴鹿山脈に分布する。 全長が雄：70~76cm、雌：75~83cm の大型猛禽類。成鳥は全体が暗褐色で頭部は黒い。後頭部に冠羽がある。 山岳森林帯に周年生息し、小型～中型のさまざまな動物を捕食する。胸高直径 60cm 以上の大木に営巣することが多い。2~4 月頃に 1 卵を産卵し、巣立ちちは 7~8 月。幼鳥は巣立ち後、少なくとも翌年の 2 月頃までは巣の周囲 1km 以内に留まることが多い。			
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）			
	No.	調査時期	年月日	確認数等
	①	冬季	令和 6 年 1 月 23 日	1
	②	冬季	令和 6 年 1 月 23 日	1
確認状況				
確認地点				



現地確認個体

表 5-10-15 (11) 重要種確認状況（フクロウ）

種名	フクロウ						
学名	<i>Strix uralensis</i>						
科名	フクロウ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地・平地に分布し、大津市、守山市、水口町、土山町、甲賀町、日野町、蒲生町、能登川町、浅井町、湖北町、高月町、木之本町、高島町で繁殖の記録がある。 全長が約 50cm の中型のフクロウ。平地から亜高山帯の大木のある森林に生息する。待ち伏せ型のハンティングを行い、主に小型の哺乳類を捕食する。 2~3 月に枯れ木の洞に営巣し、3~4 個産卵する。県内でも、平地の社寺林丘陵地から山間部に周年生息し、主に樹洞に営巣する。石垣や家屋の屋根裏、巣箱などに営巣することもある。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	春季	令和 6 年 3 月 27 日	1	針葉樹林及び落葉広葉樹林で飛翔を確認。	建設予定地内		
②	春季	令和 6 年 3 月 27 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外		
③	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
④	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑤	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑥	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑦	春季	令和 6 年 4 月 17 日	2	落葉広葉樹林で成鳥の鳴声及び雛の餌乞いによる鳴声を確認。	建設予定地外		
⑧	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑨	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外		
⑩	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑪	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑫	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑬	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外		
⑭	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外		

表 5-10-15 (12) 重要種確認状況（コミミズク）

種名	コミミズク						
学名	<i>Asio flammeus</i>						
科名	フクロウ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	指定希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	絶滅危惧種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では大津市、草津市、守山市、中主町、近江八幡市、能登川町、びわ町、湖北町、安曇川町、新旭町に分布する。 全長約 38cm。頭上に短い羽角があるフクロウ類で、全身黄褐色の地色に黒褐色の粗大な縦斑がある。雌雄同色。日本には秋に冬鳥として渡来し、広い草原やヨシ原、農耕地などで越冬する。県内では琵琶湖岸や内湖、河川敷の草地、水田地帯などに単独または小規模な群れで生息する。 主に夕方から活発に行動し、ネズミ、モグラ、小鳥などを捕食する。フクロウの仲間としては珍しく昼間に飛行したり、杭に止まつたりする姿がみられる。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	春季	令和 6 年 3 月 27 日	1	湿地で休息を確認。			
				建設予定地外			

表 5-10-15 (13) 重要種確認状況（カワセミ）

種名	カワセミ						
学名	<i>Alcedo atthis</i>						
科名	カワセミ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では全域に分布する。 全長約 17cm。上面は金属光沢のある瑠璃色で、特に背、上尾筒は金属光沢が強い。下面是オレンジ色で、目の周囲に模様がある。全国に生息するが、北方のものは冬期南方に移動する。県内では周年みられ、ため池や河川、琵琶湖岸に生息する。冬期は、街中の小さな水路などでもみられることがある。 河川やため池、湖岸などの水辺で生活し、杭や木、岩などにとまって水中の動物を探し、ダイビングして捕らえる。ときには空中で止まる停空飛翔を行い、そこからダイビングする。4~8 月にかけて崖など土が露出したところに穴を掘って巣をつくり、繁殖する。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1	落葉広葉樹林で飛翔を確認。			
				建設予定地外			

表 5-10-15 (14) 重要種確認状況（アリスイ）

種名	アリスイ				
学名	<i>Jynx torquilla</i>				
科名	キツツキ科				
選定基準	I	—			
	II	—			
	III	希少野生動植物種			
	IV	—			
	V	希少種			
<p>北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では大津市、草津市、守山市、野洲町、近江八幡市、びわ町、湖北町、余呉町、安曇川町に分布する。 全長約18cm。雌雄同色。全身茶褐色で頭から背にかけて灰褐色時に黒い縦線があり、樹皮によく似た色をしている。キツツキ類だが尾羽はかたくなく、木の幹に縦に止まることはない。餌はアリが主食で、成虫から幼虫、卵まで採食する。</p> <p>北海道と東北地方北部で繁殖し、本州中・南部、四国、九州などで越冬する。県内には10月頃に渡来し、越冬する。琵琶湖畔、内湖林縁、ヨシ原周辺、池沼周辺など、開けた雑木林の林縁や河畔林、池沼林縁でみられる。渡来初期には「キイーキキキ」とモズの高鳴きに似た声で鳴くため、秋の観察例が比較的多い。</p> <p>【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）</p>					
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点
①	秋季	令和5年10月17日	1	草地で休息を確認。	建設予定地外



現地確認個体

表 5-10-15 (15) 重要種確認状況（サンショウクイ）

種名	サンショウクイ						
学名	<i>Pericrocotus divaricatus</i>						
科名	サンショウクイ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	絶滅危惧 II 類					
	V	希少種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	<p>本州、四国、九州、沖縄に分布する。</p> <p>県内では全域の山地・丘陵地に分布する。大津市、志賀町、草津市、栗東市、土山町、甲賀町、甲南町、信楽町、日野町、永源寺町、愛東町、彦根市、多賀町、山東町、伊吹町、米原町、浅井町、湖北町、木之本町、余呉町、西浅井町、マキノ町、今津町、朽木村、安曇川町、高島町に記録がある。</p> <p>全長約 20cm。雌雄同色。体は細く尾は長めで、頭は黒、背面は灰色、下面是白く、全身が白黒でスマートに見える。県内には夏鳥として 4 月下旬に渡来し、山麓から山地の落葉広葉樹林に好んで生息する。樹齢が高い大径木の林を好み、山地に近い社寺林などで繁殖していることが多い。高い木の梢上を飛びながら「ヒリヒリン、ヒリヒリン」と繰り返しよくさえずる。</p> <p>餌は樹上で昆虫類やクモなどを採食する。繁殖期は 5~7 月、高い木の横枝に一見こぶのように見える椀型の巣をつくり、4~5 卵産む。地上に降りることはほとんどなく、さえずりによって生息を確認することが多い。</p>						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1	落葉広葉樹林上空でさえずり及び飛翔を確認。	建設予定地内		
②	春季	令和 6 年 5 月 17 日	1	落葉広葉樹林上空で飛翔を確認。	建設予定地外		
③	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	1	落葉広葉樹林でさえずり及び飛翔を確認。	建設予定地外		
④	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	2	草地上空で飛翔を確認。	建設予定地外		
⑤	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		

表 5-10-15 (16) 重要種確認状況（サンコウチョウ）

種名	サンコウチョウ						
学名	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>						
科名	カササギヒタキ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	本州、四国、九州に分布する。 県内では全域の丘陵地・山地に分布する。大津市、栗東市、水口町、土山町、日野町、多賀町、伊吹町、浅井町、余呉町、西浅井町、朽木村に繁殖記録がある。 全長雄約45cm、雌約17.5cm。頭部から胸が黒く、背は赤褐色で腹は白い。目の周りと嘴はコバルトブルーの美しいヒタキの仲間。雄も雌も尾羽は長く、特に雄の尾羽は30cmを超える長さがある。日本には夏鳥として渡来し、低山帯の落葉広葉樹林や常緑広葉樹林に生息する。県内では、丘陵地から山地のよく茂った針広混交林で繁殖する。雄は「ツキ、ヒ、ホシ、ホイホイホイ」と特徴的な声でさえずり、声から生息確認できることが多い。 餌は飛翔する昆虫類をフライングキャッチする。5~7月に高い木の横枝に円錐形の巣をつくる。9月には越冬地の東南アジアに向けて渡去する。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	夏季	令和6年6月27日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
②	夏季	令和6年6月27日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
③	夏季	令和6年6月27日	1	針葉樹植林でさえずりを確認。	建設予定地外		

表 5-10-15 (17) 重要種確認状況（コシアカツバメ）

種名	コシアカツバメ						
学名	<i>Hirundo daurica</i>						
科名	ツバメ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	その他重要種					
現地確認個体							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地・平地に分布する。比叡山、大津市、中主市、能登川町、彦根市、多賀町に集団繁殖地がある。						
	全長約 19cm。スズメよりやや大きいツバメの仲間。体の上面は光沢のある黒色で、尾羽の外側が長く燕尾型をしている。喉から下面全体と翼の下面是淡褐色で、細い縦斑がある。腰と顔の側面が赤褐色となるのが特徴。 夏鳥で、春にツバメより遅く渡来する。ツバメと同様建造物に泥や枯れ草で巣をつくるが、巣の形はとっくり状で入口が狭い。コンクリートのビルや橋など大きな建造物に集団で営巣する。						
【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）							
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	秋季	令和 5 年 10 月 16 日	1	草地上空で飛翔を確認。	建設予定地内外		
②	秋季	令和 5 年 10 月 16 日	72	草地上空で飛翔を確認。	建設予定地内外		
③	秋季	令和 5 年 10 月 16 日	1	落葉広葉樹林上空で飛翔を確認。	建設予定地外		
④	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1	草地上空で飛翔を確認。	建設予定地外		
⑤	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1	草地上空で飛翔を確認。	建設予定地外		
⑥	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	2	草地上空で飛翔を確認。	建設予定地外		
⑦	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	3	草地上空で飛翔を確認。	建設予定地外		
⑧	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	6	草地上空で飛翔を確認。	建設予定地内		
⑨	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	2	草地付近の電線で休息を確認。	建設予定地外		



表 5-10-15 (18) 重要種確認状況（オオムシクイ）

種名	オオムシクイ						
学名	<i>Phylloscopus examinandus</i>						
科名	ムシクイ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	情報不足					
	V	—					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	<p>カムチャッカ半島から千島列島、サハリンそして北海道東部で繁殖する。渡りの時期に本州を通過して東南アジアで越冬する。</p> <p>全長 12~13cm、メボソムシクイとオオムシクイ、コムシクイの3種は酷似していて目視による識別は困難。メボソムシクイが最大でコムシクイが最小である。上面はオリーブ色、黄白色の眉斑があり、大・中雨覆の先端がわずかに灰白色。下面是淡黄緑色。識別は鳴き声による。オオムシクイはジジ、ジジロジジロ・・・と聞こえる。</p>						
	【参考文献】岡山県版レッドデータブック 2020 動物編（令和2年3月、岡山県）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	秋季	令和5年10月16日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外		
②	秋季	令和5年10月16日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外		
③	秋季	令和5年10月17日	1	針葉樹植林で鳴声を確認。	建設予定地内		

表 5-10-15 (19) 重要種確認状況（ミソサザイ）

種名	ミソサザイ						
学名	<i>Troglodytes troglodytes</i>						
科名	ミソサザイ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	<p>北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。</p> <p>県内では全域の山地に分布するが、主な生息場所は溪流沿いに限られる。大津市、日野町、永源寺町、多賀町、長浜市、木之本町、余呉町で繁殖の記録がある。</p> <p>全長約 11cm。国内最小の鳥の一つ。全身が焦げ茶色で目立たない。上面には黒褐色の横斑があり、下面には黒と汚白色の細かい波状斑がある。</p> <p>山間部の渓谷や沢筋の広葉樹林、針広混交林、亜高山針葉樹林に周年生息し、苔のある岩が重なる斜面、倒木の多い所で繁殖する。甲虫などの昆虫やクモ類などを捕食する。雄は初春に谷間に響きわたる大きな声でさえずる。複数の巣をつくり、1羽の雄が複数の雌を獲得することもある。繁殖期は4~7月、産卵数は3~6個、抱卵期間は14~15日間。孵化後16~17日ほどで巣立つ。冬期には平地の藪などにも現れる。</p>						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和3年3月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	冬季	令和6年1月30日	1	針葉樹植林で鳴声を確認。	建設予定地内		
②	冬季	令和6年1月30日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外		

表 5-10-15 (20) 重要種確認状況（クロツグミ）

種名	クロツグミ						
学名	<i>Turdus cardis</i>						
科名	ヒタキ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地・平地に分布する。 全長約 22cm。雌雄異色。雄は全身が黒く、腹部は白地に黒の斑点が目立つ。雌は全身が褐色で、胸から腹にかけて白地に黒の斑点がある。 山麓から山地の落葉広葉樹林に生息し、森林の地面でミミズや昆虫を探食する。県内には夏鳥として 4 月下旬に渡来する。繁殖期は 5~7 月で、雄は明るい大きな声でよくさえずる。落葉広葉樹の枝上に巣をつくり、3~4 卵を産む。春と秋の渡りの時期には、平地の林や公園なども通過する。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	秋季	令和 5 年 10 月 16 日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。			
②	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1	草地で鳴声を確認。			
③	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1	草地で鳴声を確認。			
④	春季	令和 6 年 5 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。			

表 5-10-15 (21) 重要種確認状況（ルリビタキ）

種名	ルリビタキ						
学名	<i>Tarsiger cyanurus</i>						
科名	ヒタキ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
現地確認個体							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地・平地に分布する。 全長約 14cm。成鳥雄の上面は美しいルリ色、下面は灰白色で脇はオレンジ色。雌と幼鳥は上面がオリーブ褐色で脇はオレンジ色。尾は青みがかったり。雌は成鳥羽になるまでに数年かかるとされている。 亜高山帯から高山帯で繁殖し、冬期は暖地の山麓や丘陵地へ移動する。県内では、冬期に低山や平野部に生息し、都市公園などの林にも飛来する。針葉樹などの交じった暗い森を好む傾向がある。 主として森林の下層で行動し、下枝にとまって昆虫やクモなどを捕らえて食べる。湖北や湖西の山地では、繁殖期に本種のさえずりが聞かれるところがある。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	冬季	令和 6 年 1 月 30 日	1	落葉広葉樹林で休息を確認。			
②	冬季	令和 6 年 1 月 30 日	2	落葉広葉樹林で採餌行動を確認。			



表 5-10-15 (22) 重要種確認状況（キビタキ）

種名	キビタキ						
学名	<i>Tarsiger cyanurus</i>						
科名	ヒタキ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地・平地に分布する。大津市、志賀町、栗東市、野洲町、土山町、甲賀町、甲南町、信楽町、日野町、永源寺町、彦根市、多賀町、伊吹町、米原町、木之本町、余呉町、今津町、朽木村、高島町に繁殖記録がある。						
	全長約14cm。雄は上面が黒く、眉斑と腰が黄色で、喉から胸にかけての橙色が目立つ。下面是白色で、翼に白斑がある。雌と幼鳥は全身が暗オリーブ褐色。県内には夏鳥として4月下旬に渡来し、落葉広葉樹林や針広混交林で繁殖する。特にブナ林や山麓の社寺林などの大木を好み、主に昆虫類をフライングキャッチで採食する。 繁殖期に雄は「ピッコロロ、ピッコロロ」と美しい音色でさえずる。巣は樹洞や繁った葉の間などに椀型の巣をつくり、4~5卵を産む。渡り時期には低山の林を通過するが、平地の公園でもみられることがある。秋の渡り時には木の実なども食べる。						
【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）							
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	春季	令和6年5月16日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
②	春季	令和6年5月17日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
③	春季	令和6年5月17日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
④	春季	令和6年5月17日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑤	春季	令和6年5月17日	1	草地でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑥	夏季	令和6年6月26日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		
⑦	夏季	令和6年6月27日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		

表 5-10-15 (23) 重要種確認状況（オオルリ）

種名	オオルリ						
学名	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>						
科名	ヒタキ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地・平地に分布する。大津市、志賀町、栗東市、野洲町、水口町、土山町、甲賀町、甲南町、信楽町、日野町、永源寺町、多賀町、山東町、伊吹町、米原町、浅井町、湖北町、木之本町、余呉町、西浅井町、マキノ町、今津町、朽木村、高島町に繁殖記録がある。 全長約 16cm。雄の上面には青色の美しい光沢がある。下面是顔と喉、胸は黒く、腹部は白い。雌と幼鳥は全身が地味なオリーブ褐色。県内には夏鳥として 4月下旬に渡来し、夏緑広葉樹林や針葉樹林に生息する。渓谷に沿った林を好む。 餌は主に昆虫類をフライングキャッチで採食する。繁殖期に雄は枝先に止まって大きな声でさえずる。巣は崖地の窪みに苔を集めて椀状の巣をつくり、4~5 卵を産む。渡り時期には低山の林を通過する。平地の公園などでもみられる。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	春季	令和 6 年 4 月 17 日	1	落葉広葉樹林で飛翔を確認。	建設予定地外		
②	春季	令和 6 年 5 月 17 日	1	落葉広葉樹林でさえずりを確認。	建設予定地外		

表 5-10-15 (24) 重要種確認状況（ベニマシコ）

種名	ベニマシコ						
学名	<i>Uragus sibiricus</i>						
科名	アトリ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地・平地に分布する。 全長約15cm。スズメくらいの大きさのアトリの仲間。尾が短めで両側が白く、翼に2本の白帯がある。雄の夏羽は全体に紅色がかかった褐色で、胸、額、腰が紅色、頭と喉が銀白色。冬羽は夏羽と比べ全体に淡い褐色がかかった色になる。雌は全体に淡褐色で、黒褐色の縦斑がある。 冬鳥として広葉樹林や低木林、藪、草地、ヨシ原などに生息する。体を動かし尾をふって、活発に藪や林縁などを移動し、羽音や声を立てたりもする。冬には、イネ科やタデ科などの植物の種子を食べる。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	冬季	令和5年1月30日	1	落葉広葉樹林で休息を確認。	建設予定地外		
②	冬季	令和5年1月30日	2	草地で採餌行動を確認。	建設予定地外		
③	冬季	令和5年1月30日	3	落葉広葉樹林で採餌行動を確認。	建設予定地外		
④	冬季	令和5年1月30日	1	草地で鳴声を確認。	建設予定地外		
⑤	冬季	令和5年1月30日	1	草地で鳴声を確認。	建設予定地内		
⑥	冬季	令和5年1月30日	1	草地で休息を確認。	建設予定地外		
⑦	冬季	令和5年1月30日	1	落葉広葉樹林で休息を確認。	建設予定地外		
⑧	冬季	令和5年1月30日	1	落葉広葉樹林で鳴声を確認。	建設予定地外		
⑨	冬季	令和5年1月30日	1	草地で鳴声を確認。	建設予定地内		

表 5-10-15 (25) 重要種確認状況（イスカ）

種名	イスカ							
学名	<i>Loxia curvirostra</i>							
科名	アトリ科							
選定基準	I	—						
	II	—						
	III	希少野生動植物種						
	IV	—						
	V	希少種		現地撮影画像なし				
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地に分布する。 全長約 16.5cm。スズメより少し大きく、頭が大きく、尾羽が短く見える。嘴は太く、先が上下に曲がり、くいちゃっている。雄は赤レンガ色で翼と尾は黒褐色、雌は雄の赤レンガ色の部分が黄緑色をしている。 日本には秋に渡来し、山地の針葉樹林や針広混交林で越冬する。例外的に繁殖する場合がある。県内では、特にアカマツなどの針葉樹林に好んで生息し、特徴的な嘴でマツカサの中の種子を取り出して食べている。 常に群れで行動し、「キヨッキヨッ」と鳴きながらよく飛びまわる。他のスズメ目の鳥に比べ繁殖期が不規則で、稀に冬に巣立ち間もない雛が観察される例がある。							
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）							
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況				
①	冬季	令和 6 年 1 月 30 日	8	針葉樹植林で飛翔を確認。				
				確認地点				
				建設予定地外				

表 5-10-15 (26) 重要種確認状況（ノジコ）

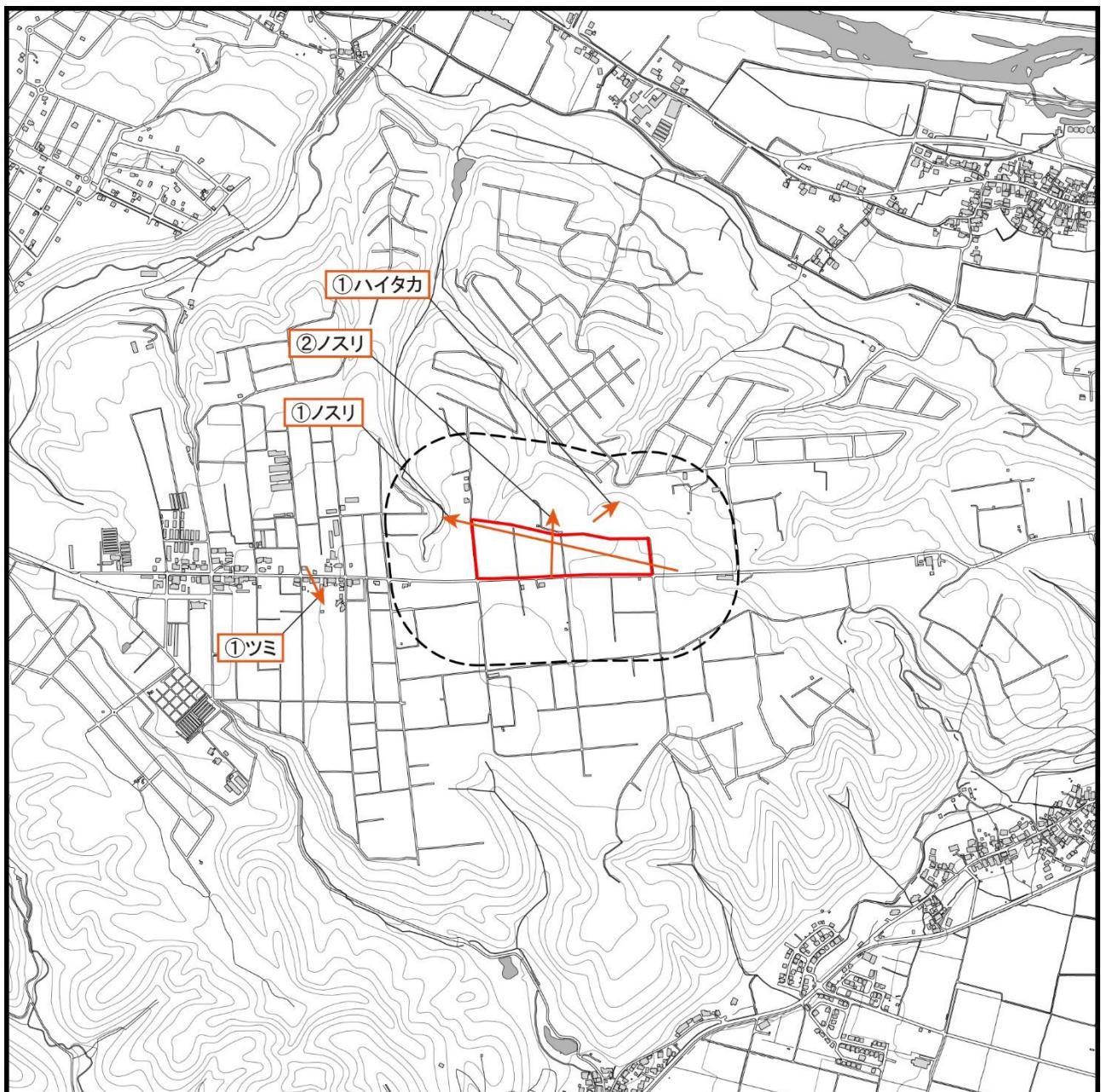
種名	ノジコ			
学名	<i>Emberiza sulphurata</i>			
科名	ホオジロ科			
選定基準	I	—		
	II	—		
	III	希少野生動植物種		
	IV	準絶滅危惧種		
	V	希少種		
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では琵琶湖岸に記録がある。 全長約 14cm。全体的に上面は緑色味の強い褐色で、下面是黄色い。脇に灰緑色の縦斑がある。雄の緑色は特に鮮やかで、眼先は黒色。アオジに似るが、アオジに比べて腹部の黒い縦斑が少なく、眼の周囲の白いアイリングが目立つ。雌は雄に比べて鈍い色をしている。 本州中部低山帯の落葉広葉樹林や灌木の多い草原で局地的に繁殖し、冬期は中国南部から台湾、フィリピンなどに渡る。県内では旅鳥として、春秋の渡りの時期に水田の畔や河原、ヨシ原、ヤナギ・ハンノキ林などに生息し、主に植物の種子を食べている。			
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）			
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況
①	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	草地で休息を確認。
②	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	草地で休息を確認。
③	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	針葉樹植林で休息を確認。
④	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	落葉広葉樹林で休息を確認。
確認地点				
建設予定地外				
建設予定地内				
建設予定地内				
建設予定地外				



現地確認個体

表 5-10-15 (27) 重要種確認状況（クロジ）

種名	クロジ						
学名	<i>Emberiza variabilis</i>						
科名	ホオジロ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州に分布する。 県内では全域の山地・丘陵地・平地に分布する。 全長約 17cm。スズメより少し大きいホオジロの仲間。雄は全体的に青灰色で、雌はオリーブ褐色に濃茶色の縦斑がある。 林床植物がよく茂った森林に生息する。山地のササの多い林で繁殖し、この時期、雄は目立つ所に止まり「ホーイ、チョリチョリ」という特徴的なさえずりで鳴く。県内には周年生息し、1,000m 以上の高山で繁殖期に雄のさえずりが複数個体確認されている。秋から冬は、平地から山地の暗く茂った樹林地で、数羽単位の群れでいることが多い。 地上でタデ科やイネ科植物の種子を食べる。						
【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）							
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	冬季	令和6年1月23日	2	針葉樹植林で鳴声を確認。			
②	冬季	令和6年1月30日	1	草地で採餌行動を確認。			
確認地点							
				建設予定地内			
				建設予定地内			



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 飛翔軌跡（秋季）

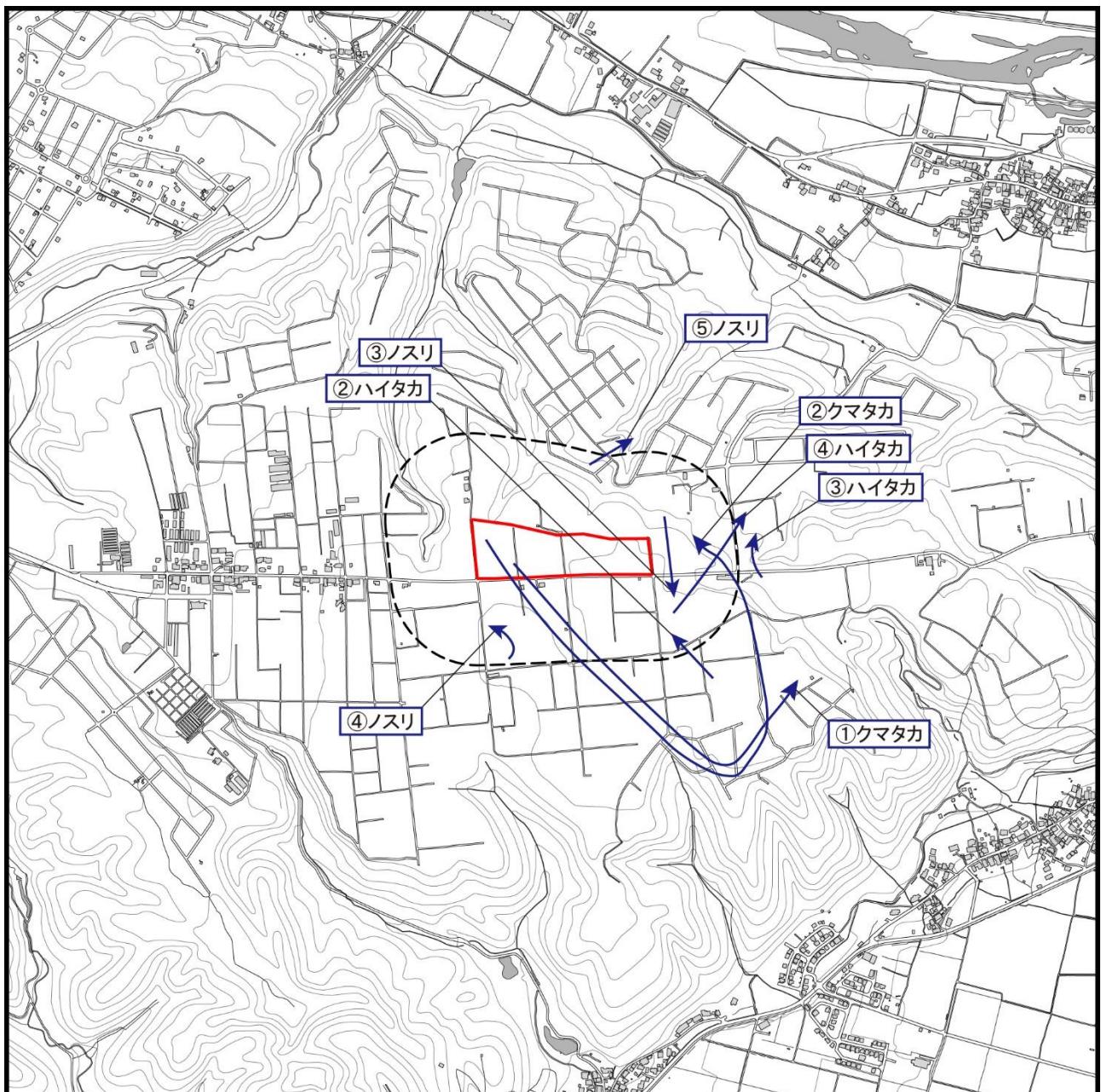


S=1:15,000

0 150 300 600 m

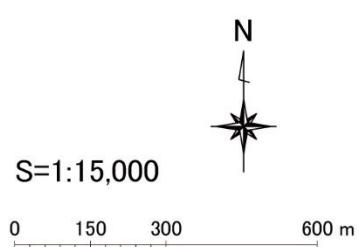
地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-3 (1) 重要種確認位置図（鳥類【タカ目】 秋季）



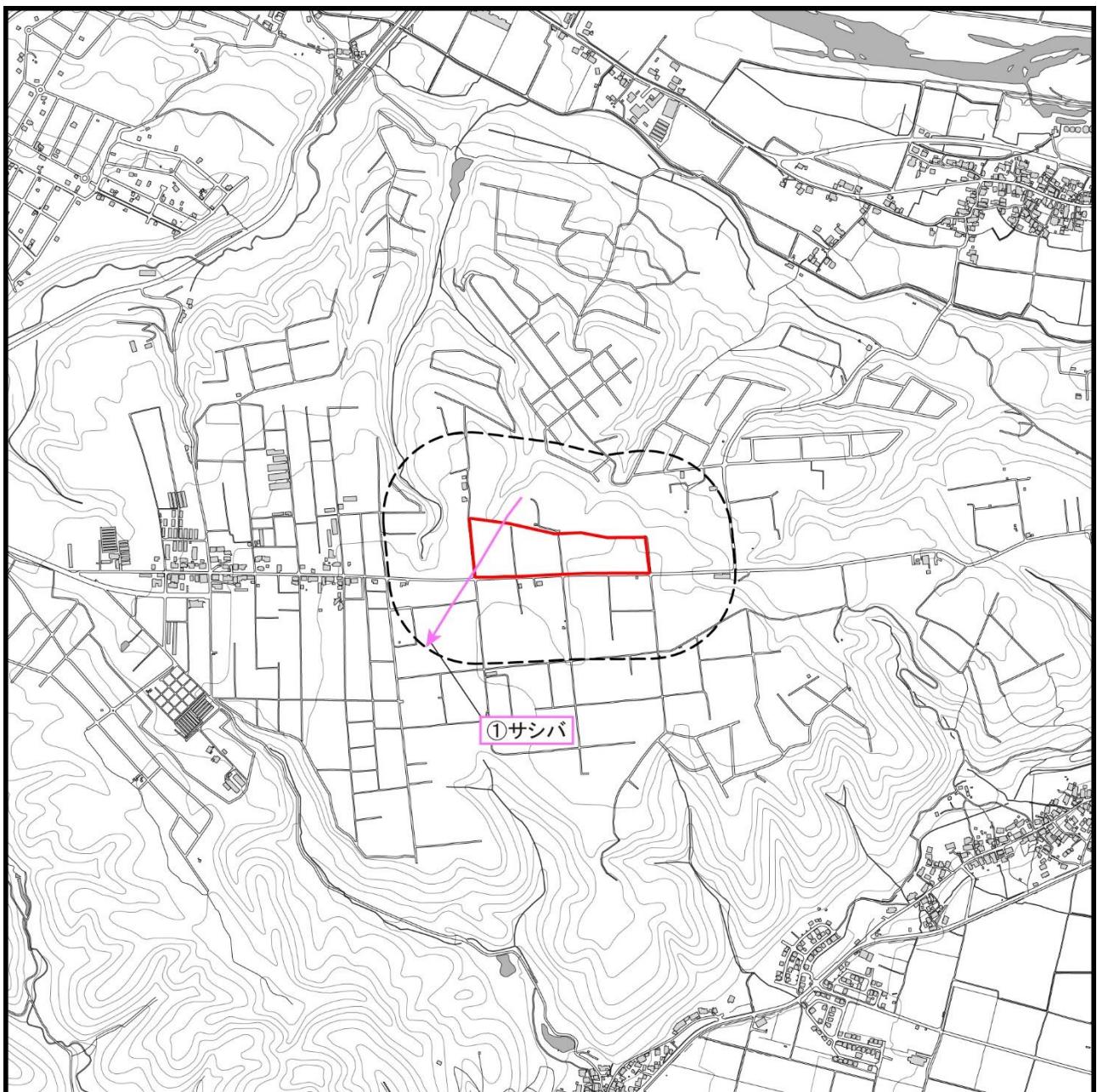
凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 飛翔軌跡 (冬季)



地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-3 (2) 重要種確認位置図（鳥類【タカ目】 冬季）



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 飛翔軌跡（春季）

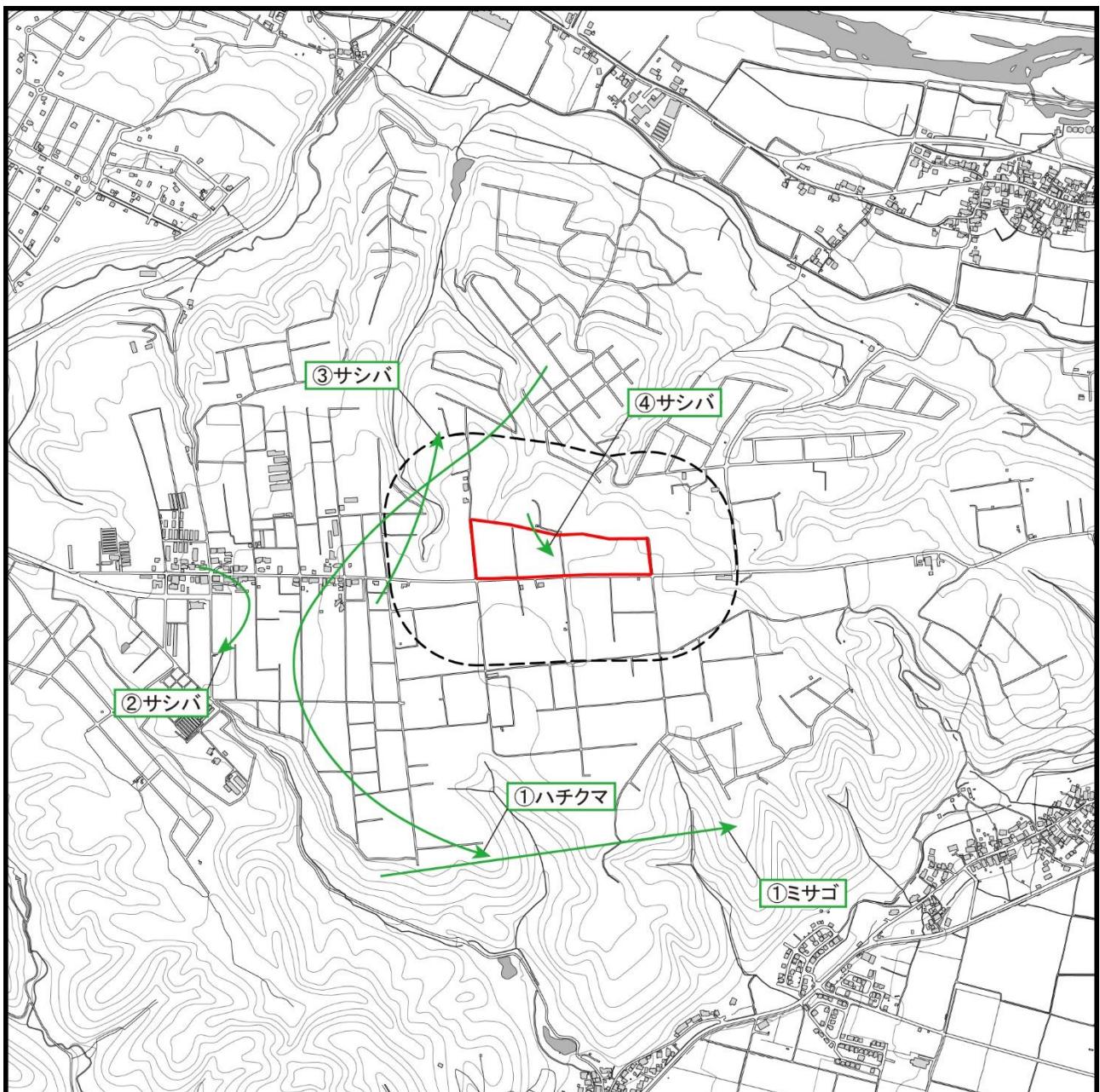


S=1:15,000

0 150 300 600 m

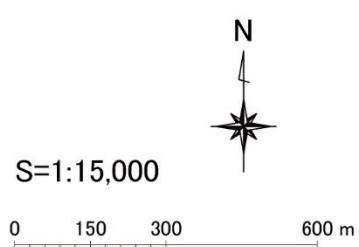
地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-3 (3) 重要種確認位置図（鳥類【タカ目】 春季）



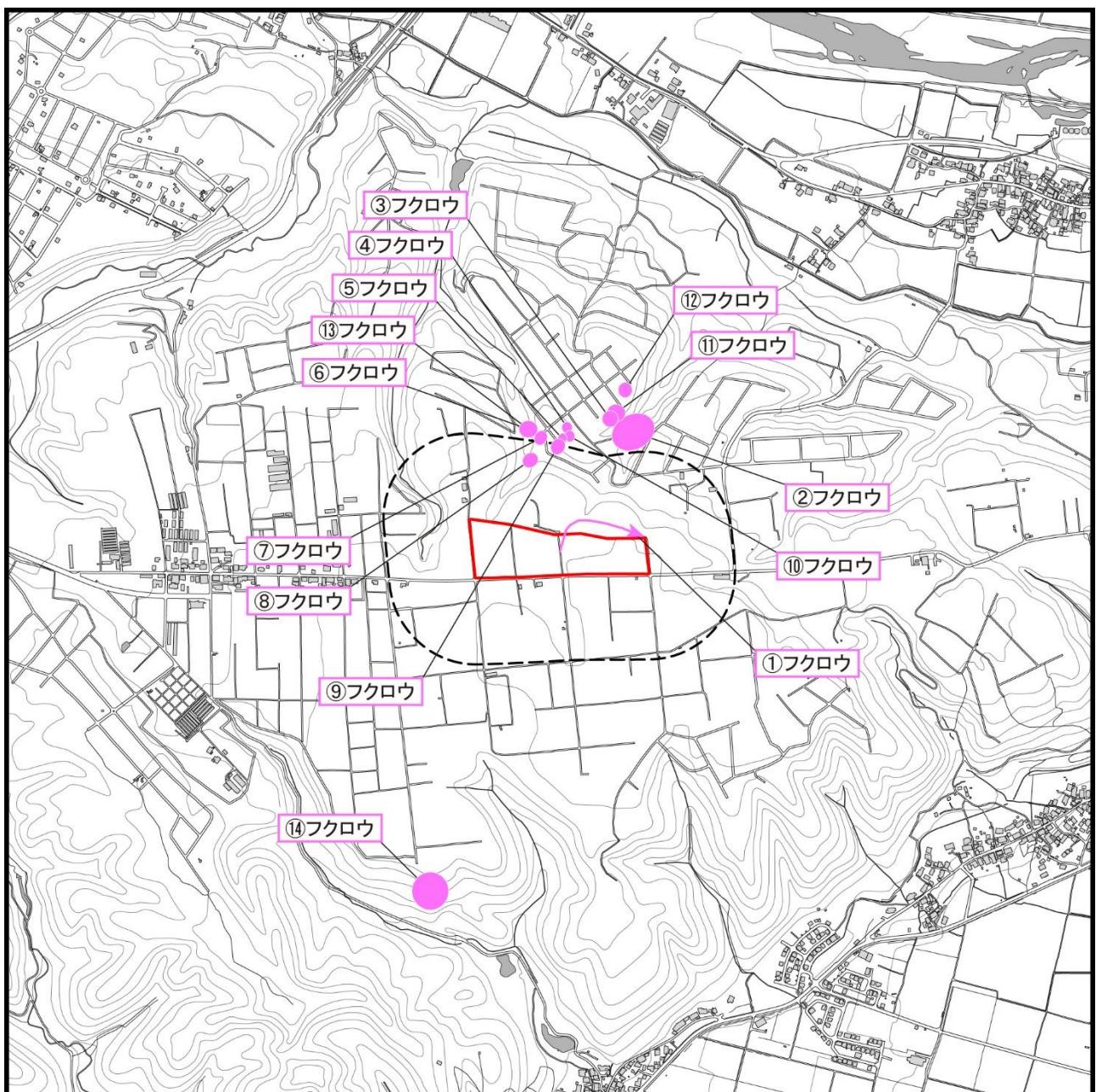
凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 飛翔軌跡（夏季）



地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-3 (4) 重要種確認位置図（鳥類【タカ目】 夏季）



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（春季）
- : 飛翔軌跡（春季）

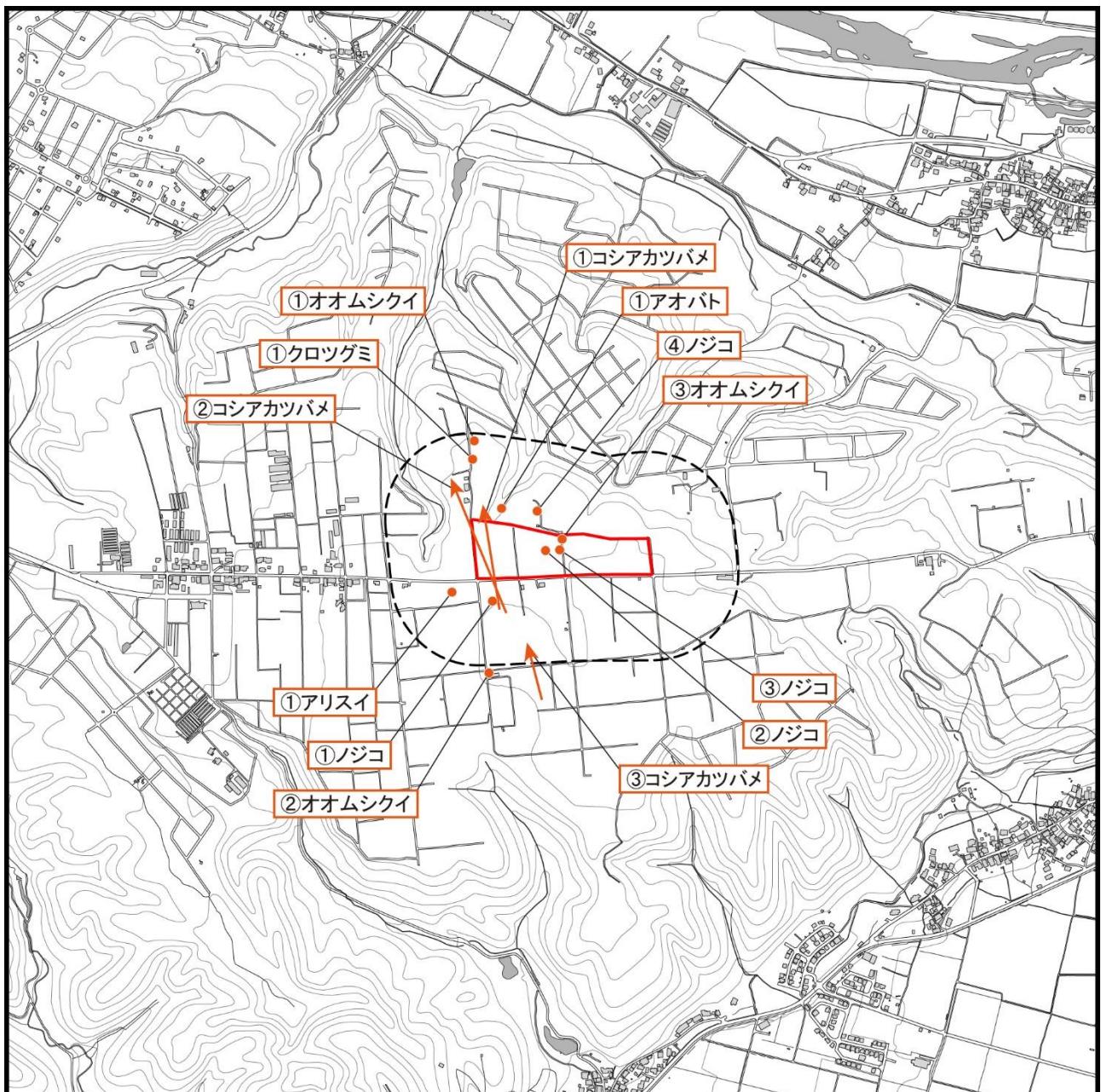


S=1:15,000

0 150 300 600 m

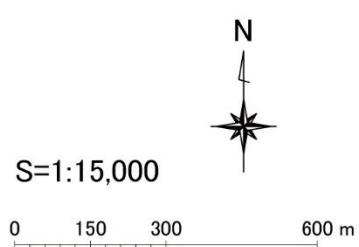
地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-3 (5) 重要種確認位置図（鳥類【フクロウ】 春季）



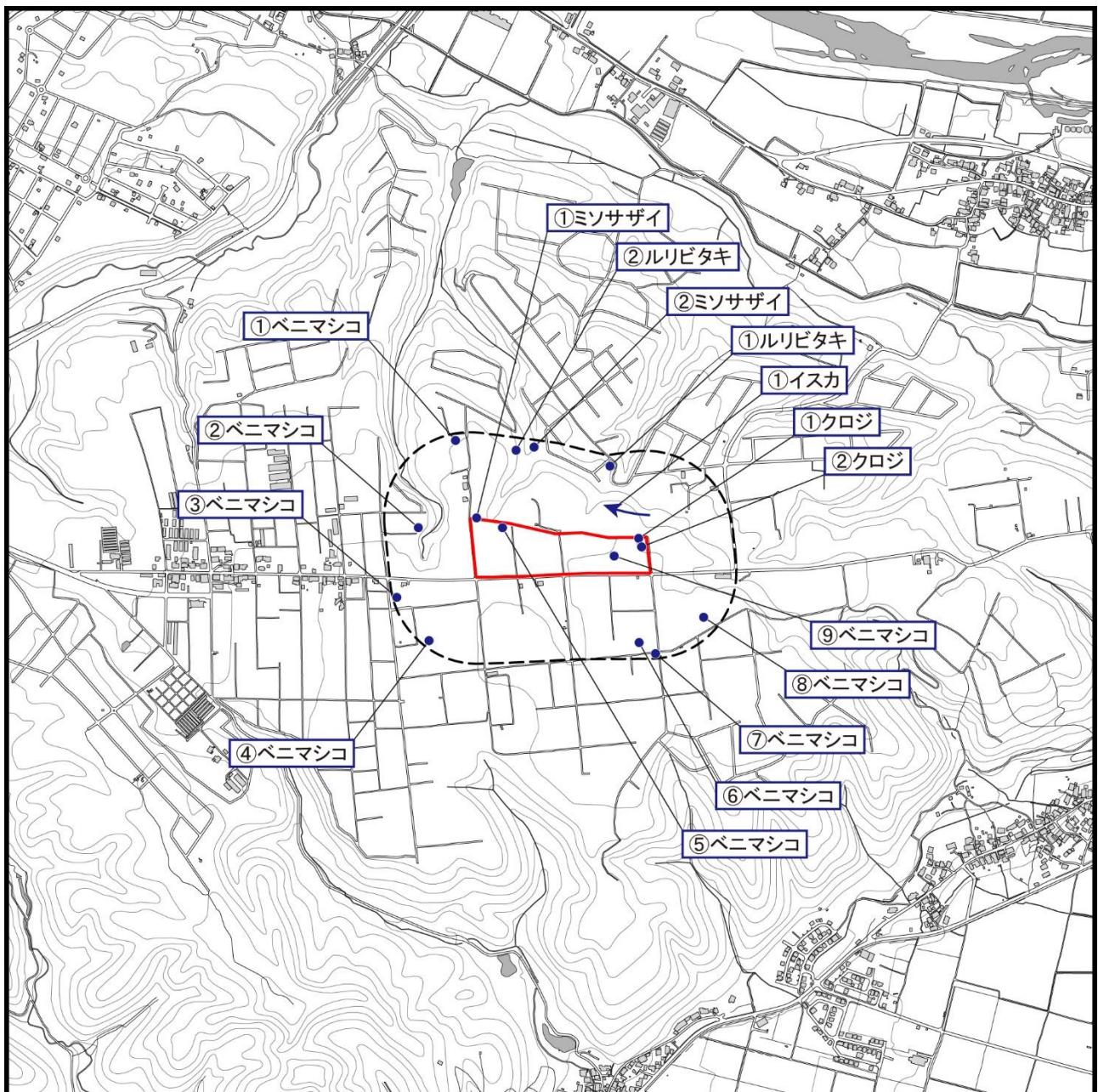
凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点 (秋季)
- : 飛翔軌跡 (秋季)



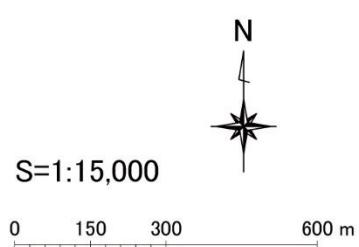
地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-3 (6) 重要種確認位置図（鳥類【タカ目、フクロウ以外】 秋季）



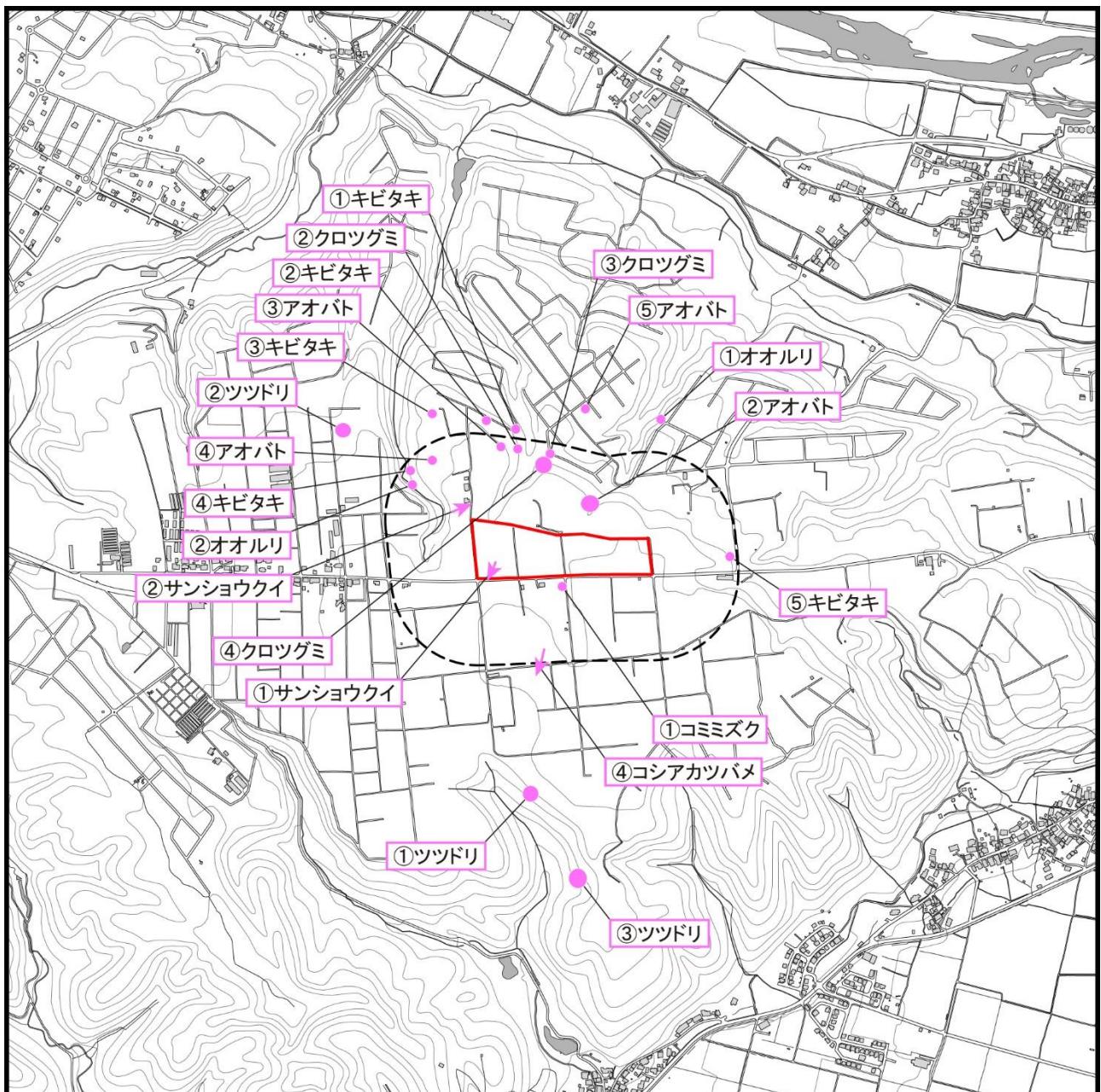
凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点 (冬季)
- : 飛翔軌跡 (冬季)



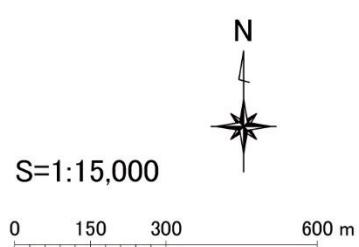
地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-3 (7) 重要種確認位置図（鳥類【タカ目、フクロウ以外】 冬季）



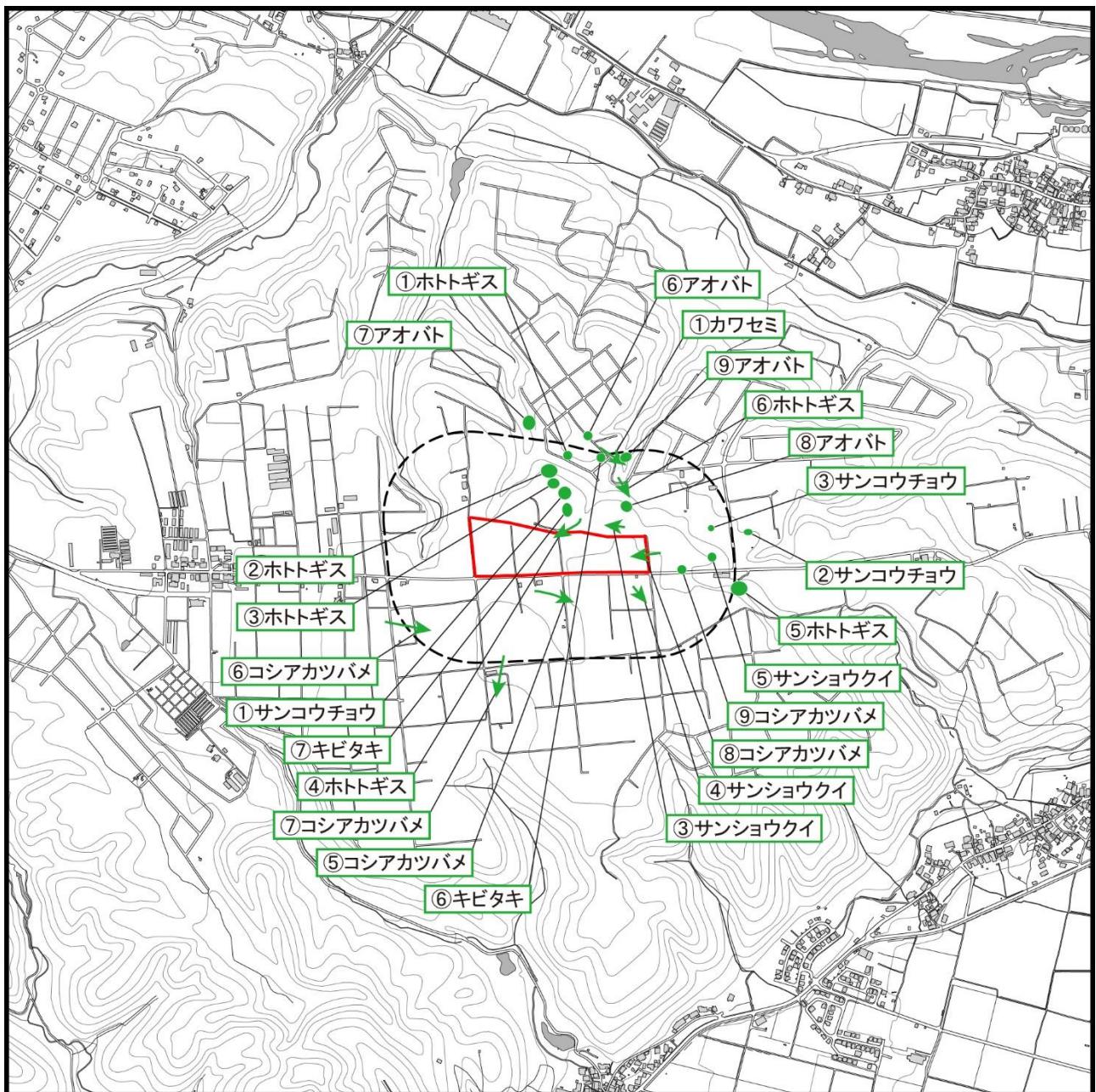
凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（春季）
- : 飛翔軌跡（春季）



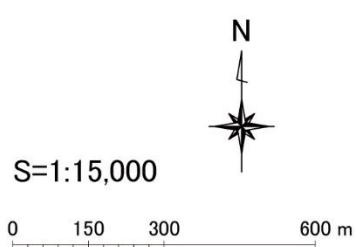
地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-3 (8) 重要種確認位置図（鳥類【タカ目、フクロウ以外】 春季）



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（夏季）
- : 飛翔軌跡（夏季）



地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-3 (9) 重要種確認位置図（鳥類【タカ目、フクロウ以外】 夏季）

(ウ) 両生・爬虫類

ア) 爬虫類

選定した重要種は表5-10-16、重要種の確認状況は表5-10-17、重要種の確認位置は、図5-10-4に示すとおりである。

表 5-10-16 重要種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査時期			重要性 ^{注3)}				
					内	外	秋季	春季	夏季	I	II	III	IV	V
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>		●	1	1	1			○	NT	希少
2	有鱗目	トカゲ科	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>		●		1	1					要注
3		ナミヘビ科	ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>		●	1							要注
4			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>		●	4		1					要注
5		クサリヘビ科	ニホンマムシ ^{注4)}	<i>Gloydius blomhoffii</i>		●		1						要注
合計	2 目	4 科	5 種		0 種	5 種	3 種	3 種	3 種	0 種	0 種	1 種	1 種	5 種

注1)種名及び配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表内の数値は、種が確認された地点数を示す。

注3)重要種の判定基準

I :「文化財保護法」(昭和25年5月30日、法律第214号)

II :「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日、法律第75号)

III :「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例施行規則」(平成19年2月28日、滋賀県規則第5号)

○(希少野生動植物種)

IV :「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省)

NT(準絶滅危惧種)

V :「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック」(令和3年3月、滋賀県)

希少(希少種)、要注(要注目種)

注4)5月に確認されたため、春季のデータとしてカウントした。

表 5-10-17 (1) 重要種確認状況（ニホンイシガメ）

種名	ニホンイシガメ							
学名	<i>Mauremys japonica</i>							
科名	イシガメ科							
選定基準	I	—						
	II	—						
	III	希少野生動植物種						
	IV	準絶滅危惧種						
	V	希少種						
現地確認個体								
分布・生態学的特徴	本州、佐渡、四国、九州、五島、種子島に分布する。 県下では、大津市、近江八幡市、草津市、守山市、八日市市、余呉町、愛東町、日野町、竜王町、石部町、甲賀町、甲西町、土山町、水口町、山東町、志賀町、安曇川町、今津町、新旭町、高島町、マキノ町に分布する。 甲長は雄で150mm、雌で210mm程度。背甲は黄褐色で腹甲は黒褐色。背甲の後縁は鋸歯状。 河川、湖沼、水田、水路などに生息する。水辺に生息していることが多いが、陸上をかなりの距離移動することがある。秋から春にかけて水中で交尾し、5月から8月頃、地中に産卵する。産卵数は1~12個。卵は長楕円型で、卵殻は柔らかい。雑食性で、魚類、甲殻類、ミミズ、水生植物などを食べる。							
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）							
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況				
①	秋季	令和5年9月22日	1	ため池で幼体を確認。				
②	春季	令和6年3月28日	1	ため池で死骸を確認。				
③	夏季	令和6年6月27日	1	ため池で成体を確認。				
建設予定地外								

表 5-10-17 (1) 重要種確認状況（ニホントカゲ）

種名	ニホントカゲ							
学名	<i>Plestiodon japonicus</i>							
科名	トカゲ科							
選定基準	I	—						
	II	—						
	III	—						
	IV	—						
	V	要注目種						
現地確認個体								
分布・生態学的特徴	本州西部、四国、九州、隠岐、五島、大隅諸島に分布する。 県内では、野洲町および今津町以西の大津市、草津市、栗東市、甲賀町、信楽町、水口町、志賀町、今津町に分布する。 全長160~210mm、頭胴長60~90mm。尾は全長の2/3程度。成体の背面は光沢のある褐色で、体側に黒褐色の筋がある。若い雌や幼体の背面には5本の金色の筋があり、尾は光沢のある青色。繁殖期の雄は、下顎から腹部に赤橙色の婚姻色を生じる。頭部左右にある前額板が接している個体が多いことの他は、ヒガシニホントカゲと極めてよく似ている。 低山から山地のさまざまな環境に生息する。4~5月にかけて交尾し、6月頃、地中に産卵する。産卵数は5~16個。卵は鶏卵形で卵殻は柔らかい。雌は孵化するまでの間卵の世話ををする。昆虫、クモ、ミミズなどを捕食する。							
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）							
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況				
①	春季	令和6年3月27日	2	草地で成体を確認。				
②	夏季	令和6年6月27日	1	ため池周辺で幼体を確認。				
建設予定地外								

表 5-10-17 (2) 重要種確認状況（ヒバカリ）

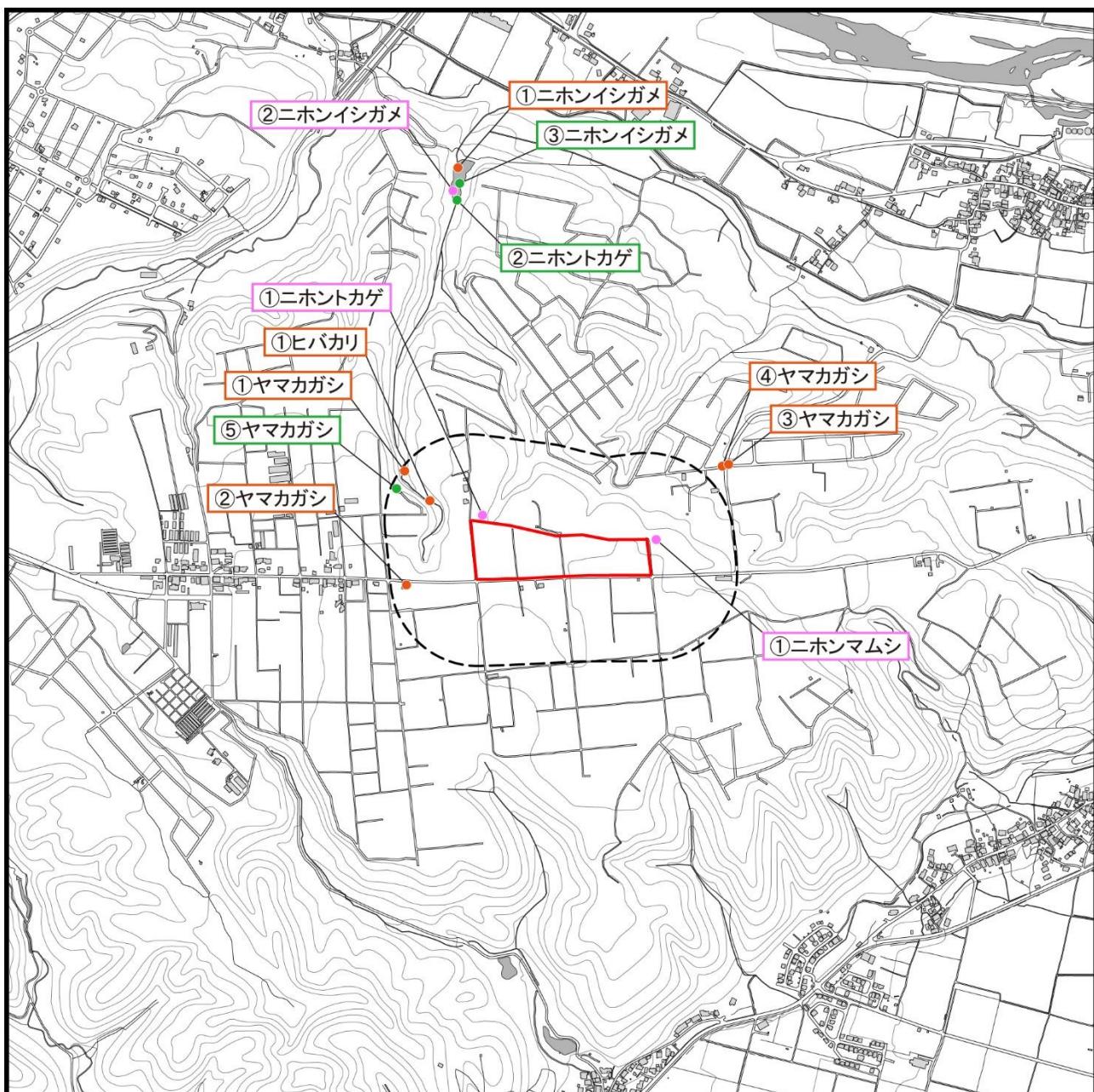
種名	ヒバカリ						
学名	<i>Hebius vibakari vibakari</i>						
科名	ナミヘビ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	要注目種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	本州、四国、九州、佐渡、隱岐、壱岐、五島列島、大隅諸島に分布する。 県内では、大津市、近江八幡市、草津市、彦根市、西浅井町、余呉町、多賀町、豊郷町、愛知川町、日野町、能登川町、信楽町、土山町、水口町、志賀町、新旭町、朽木村に分布する。						
	全長 300~600mm。背面は黒褐色から淡褐色で、成長するにつれて色が薄れるものもいる。腹面は淡いクリーム色で、体側に沿ってミシン目状の点線斑紋がある。頸部付近には淡黄色のエリ模様がある。体鱗列数は19列。卵は長径 25mm ほどの長楕円形で、卵殻は柔らかい。						
	低地から山地の水辺に生息する。夕方や曇りの日に特によく活動するが、小型で物陰に潜んでいることが多いため、人目に触れる機会は少ない。5~6月にかけて交尾し、6~8月にコケや草の中に2~10卵を産卵する。35日前後で孵化し、150mm ほどの小ヘビが出てくる。水によく入ってカエルや、オタマジャクシ、小魚、ミミズなどを好食する。寿命は5~6年。性格はおとなしく、噛むことはほとんどない。他のヘビよりも乾燥に弱い。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）						
	No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点	
①	秋季	令和5年10月17日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外		

表 5-10-17 (3) 重要種確認状況（ヤマカガシ）

種名	ヤマカガシ						
学名	<i>Rhabdophis tigrinus</i>						
科名	ナミヘビ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	要注目種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	本州、四国、九州に分布する。 県内では、大津市、草津市、西浅井町、多賀町、日野町、石部町、土山町、志賀町、高島町、朽木村、浅井町に分布する。						
	体長 700~1,500mm。背面は緑色をおびた暗茶褐色で、頸部に大黒斑、胴の黒斑がある。胴前半部に赤模様が並ぶのがふつう。腹面は前半が黄色で後方ほど暗色になり、黒斑が散在する。鱗に竜骨突起があるため、背面はざらざらしていて光沢がない。上顎後方に毒牙をもち、頸部の皮膚からも毒液を分泌する。						
	水田の周辺で見かけることが多いが、山地にも生息している。通常秋に交尾し、6~8月頃に2~30個の卵を産む。産卵後約1ヶ月で孵化する。食物の大部分をカエル類が占めるが、ドジョウなどの小魚も捕食する。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）						
	No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点	
①	秋季	令和5年10月16日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外		
②	秋季	令和5年10月16日	1	草地で成体を確認。	建設予定地外		
③	秋季	令和5年10月17日	1	道路で成体を確認。	建設予定地外		
④	秋季	令和5年10月17日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外		
⑤	夏季	令和6年6月27日	1	草地で成体を確認。	建設予定地外		

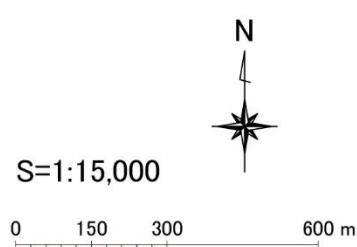
表 5-10-17 (4) 重要種確認状況（ニホンマムシ）

種名	ニホンマムシ						
学名	<i>Gloydius blomhoffii</i>						
科名	クサリヘビ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	要注目種					
現地撮影画像なし							
分布・生態学的特徴	国内では本州、四国、九州と属島に分布する。 県内では、大津市、彦根市、八日市市、余呉町、日野町、石部町、信楽町、志賀町、マキノ町に分布する。 体は太短く、全長約 250~500mm。背面は頭部から尾部にかけて、灰褐色の地に、20 個前後の暗褐色の錢形斑紋が不規則な対をなして並ぶ、腹面は黒色で肌色の斑点が散在する。幼体の尾部は赤褐色ないし黄色。太短い体形と錢形模様で他のヘビ類と区別できる。アオダイショウの幼体と違い、眼の後ろに太い黒帯がある。 山林や周辺の田畠・水辺や湿地に生息し、特に山地のガレ場、田畠の畦や草むらに多く、カエル、ネズミ、トカゲなどを捕食する。夜行性だが、日中に日光浴する姿を見かけることがある。交尾期は8~9月。卵胎生で、翌年8~10月に全長約 200mm の幼体を 2~13 匹産む。寿命は 7~10 年。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	春季	令和 6 年 5 月 17 日	1	草地で成体を確認。			
				建設予定地外			



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（秋季）
- : 確認地点（春季）
- : 確認地点（夏季）



地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図5-10-4 重要種確認位置図（爬虫類）

イ) 両生類

選定した重要種は表5-10-18、重要種の確認状況は表5-10-19、重要種の確認位置は、図5-10-5に示すとおりである。

表 5-10-18 重要種（両生類）

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査時期			重要性 ^{注3)}				
					内	外	秋季	春季	夏季	I	II	III	IV	V
1	有尾目	イモリ科	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>		●	3	1	1				NT	要注
2	無尾目	アカガエル科	タゴガエル	<i>Rana tagoi</i>		●	7	1	5					要注
3			ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>		●			1					要注
4		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i>		●			1					要注
5			モリアオガエル	<i>Zhangixalus arboreus</i>	●	●	2	1	9					要注
合計	2 目	3 科	5 種		1 種	5 種	3 種	3 種	5 種	0 種	0 種	0 種	1 種	5 種

注1)種名及び配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表内の数値は、種が確認された地点数を示す。

注3)重要種の判定基準

I :「文化財保護法」(昭和25年5月30日、法律第214号)

II :「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日、法律第75号)

III :「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例施行規則」(平成19年2月28日、滋賀県規則第5号)

IV :「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省)

NT(準絶滅危惧種)

V :「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック」(令和3年3月、滋賀県)

要注(要注目種)

表 5-10-19 (1) 重要種確認状況（アカハライモリ）

種名	アカハライモリ						
学名	<i>Cynops pyrrhogaster</i>						
科名	イモリ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	準絶滅危惧種					
	V	要注目種					
<p>本州、四国、九州に分布する。 県内では、大津市、彦根市、八日市市、木之本町、西浅井町、余呉町、多賀町、愛東町、日野町、石部町、土山町、伊吹町、米原町、志賀町、今津町、朽木村、浅井町に分布する。 全長 100~120mm、頭胴長 50~56mm。頭は、後部にある耳腺の発達が良いため角張って見える。胴の背中線上に明瞭な隆起があり、尾は著しく側偏する。四肢は細く指は長い。背面は一様に黒く、腹面は赤で網状の黒斑をもち、黒斑上には白色顆粒の多いのがふつう。腹面に赤色が出ることで、サンショウウオ類と区別される。</p> <p>5~7月上旬に水田や池、小川で繁殖する。一腹卵数は100~400個で、雌は産卵期間中に何回も産卵し、1回ごとの産卵数は40個以下。卵は一粒ずつ水草や枯れ葉などに産みつけられる。幼生は水生の小動物を捕食し、夏から秋にかけて変態するが、一部は越冬し翌年変態する。変態後数年間は陸上で生活し、ミミズや昆虫などの小動物を捕食する。成熟後は再び水中で生活することが多い。</p>							
<p>【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）</p>							
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	秋季	令和5年9月21日	1	ため池で成体を確認。	建設予定地外		
②	秋季	令和5年10月17日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外		
③	秋季	令和5年10月17日	1	針葉樹植林の水たまりで成体を確認。	建設予定地外		
④	春季	令和6年3月28日	7	ため池で成体を確認。	建設予定地外		
⑤	夏季	令和6年6月27日	50	ため池で成体を確認。	建設予定地外		



現地確認個体

表 5-10-19 (2) 重要種確認状況（タガエル）

種名	タガエル						
学名	<i>Rana tagoi</i>						
科名	アカガエル科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	要注目種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	本州、四国、九州に分布する。 県内では、大津市、草津市、栗東市、木之本町、西浅井町、余呉町、多賀町、日野町、永源寺町、石部町、甲賀町、土山町、伊吹町、志賀町、安曇川町、今津町、高島町、マキノ町、朽木村、浅井町に分布する。						
	大小2系統があり、体長は小型で雄36mm、雌32mm、大型で雄48mm、雌46mm程度。背面は赤褐色、腹面は黄白色で、顎の周囲に黒褐色の細点が密集する。幼生は小型で黒色素が少ない。ヤマアカガエルとは小型でみずかきの発達が悪く、顎の周囲が黒点で覆われること、ニホンアカガエルとは吻が鈍く、背側線隆条が鼓膜の後ろで外方へ曲がることで区別される。						
	小型は3~4月、大型は5月に、小溪流の縁にある岩の隙間や、湿地帯の地下にある伏流水で繁殖し、雄は巣穴の中で「グッグッ……」と鳴き、姿を見つけるのは難しい。それぞれ約53個、約140個を含む球体の卵塊を産む。卵は大きく卵黄に富む。幼生は卵黄を消費するだけで変態できる。7月頃変態して林床で生活し、水中で冬眠する。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）						
	No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点	
	①	秋季	令和5年10月16日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外	
	②	秋季	令和5年10月16日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外	
	③	秋季	令和5年10月17日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外	
	④	秋季	令和5年10月17日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外	
	⑤	秋季	令和5年10月17日	1	針葉樹植林で成体を確認。	建設予定地外	
	⑥	秋季	令和5年10月17日	1	針葉樹植林で亜成体を確認。	建設予定地外	
	⑦	秋季	令和5年10月17日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外	
	⑧	春季	令和6年3月27日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外	
	⑨	夏季	令和6年6月26日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外	
	⑩	夏季	令和6年6月26日	1	針葉樹植林で亜成体を確認。	建設予定地外	
	⑪	夏季	令和6年6月26日	1	落葉広葉樹林で亜成体を確認。	建設予定地外	
	⑫	夏季	令和6年6月26日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外	
	⑬	夏季	令和6年6月27日	2	ため池で成体を確認。	建設予定地外	

表 5-10-19 (3) 重要種確認状況（ツチガエル）

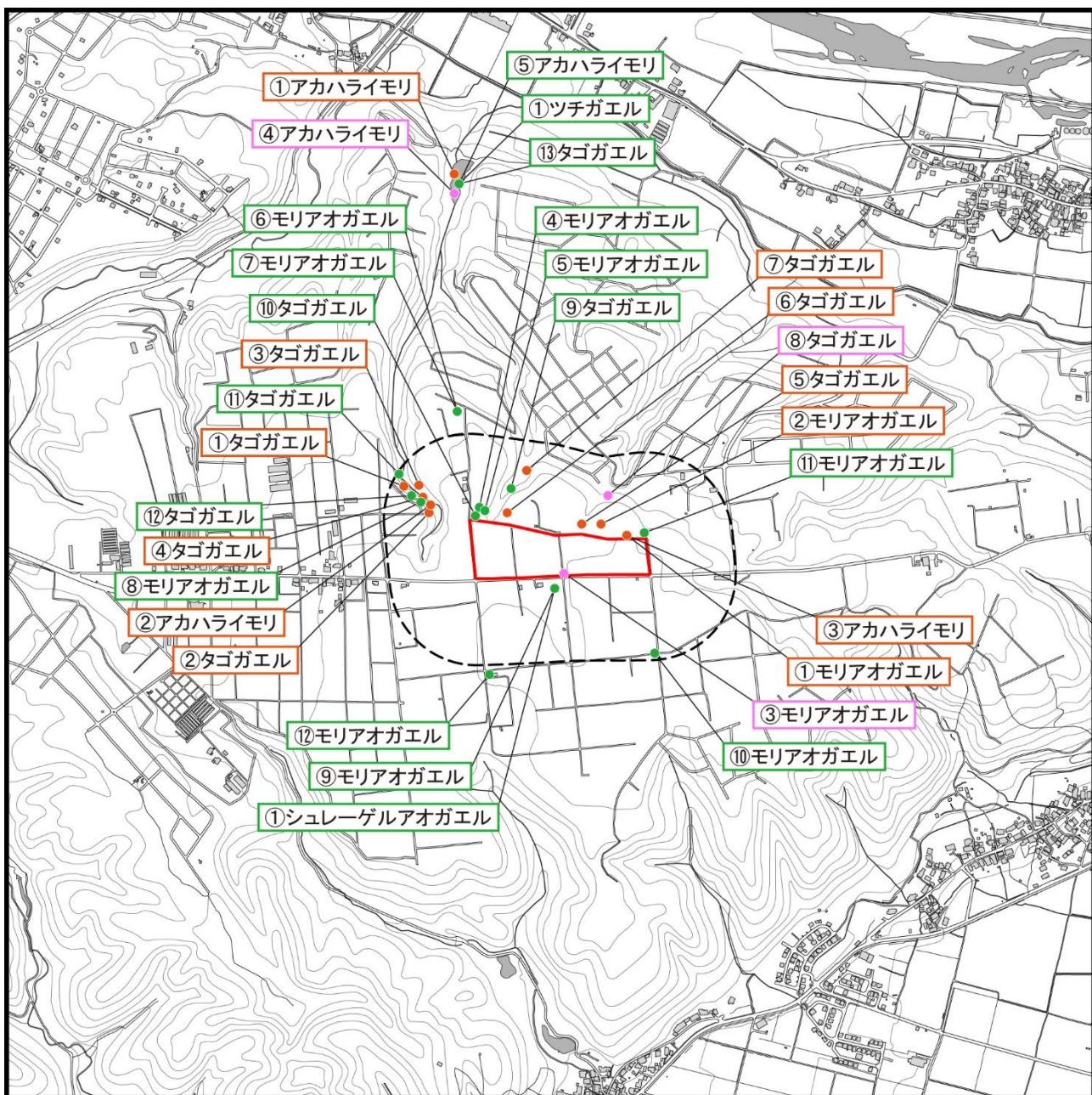
種名	ツチガエル						
学名	<i>Glandirana rugosa</i>						
科名	アカガエル科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	要注目種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	本州、四国、九州に分布する。 県内では、大津市、近江八幡市、彦根市、八日市市、栗東市、木之本町、西浅井町、余呉町、愛東町、湖東町、秦荘町、安土町、蒲生町、日野町、能登川町、甲賀町、甲西町、信楽町、土山町、水口町、志賀町、安曇川町、マキノ町、野洲町に分布する。						
	体長 37~53cm で、みずかきはよく発達する。背面は灰褐色で、多数の不規則ないぼをもち、臭いの強い粘液を分泌する。稀に背中線をもつことがある。腹面は小さな顆粒でおおわれ、小さな黒斑がある。県内的一部分で混生するヌマガエルと似るが、頭がより扁平でみずかきがより良く発達し、腹面は暗色で小さな顆粒でおおわれ、鳴き声が低く短いことで区別される。						
	5~7月に水田、池、沼、用水路、沢、河川のゆるやかな流れで繁殖し、雌の一部は複数回産卵する。卵は10~70個の小さな卵塊として、水草の茎などに産みつけられる。越冬して翌年5~8月に変態する幼生もいる。変態後はアリ、クモ、昆虫などの小動物を捕食する。繁殖期、非繁殖期ともに産卵場所付近で生活する。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）						
	No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点	
①		夏季	令和6年6月27日	3	ため池で成体を確認。	建設予定地外	

表 5-10-19 (4) 重要種確認状況（シュレーゲルアオガエル）

種名	シュレーゲルアオガエル						
学名	<i>Zhangixalus schlegelii</i>						
科名	アオガエル科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	要注目種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	本州、四国、九州に分布する。 県内では、大津市、草津市、彦根市、守山市、八日市市、栗東市、西浅井町、余呉町、多賀町、愛東町、湖東町、安土町、蒲生町、日野町、石部町、甲賀町、甲西町、信楽町、土山町、水口町、伊吹町、安曇川町、今津町、マキノ町、野洲町に分布する。						
	体長は雄34mm、雌46mm程度で、雌は雄よりも大型。四肢端に吸盤をもち、前指の指間基部に弱いみずかきがある。背面は黄緑色で、周囲の環境に応じて暗色となる。雄ののどは黒っぽい。モリアオガエルより小さく、背中に暗色斑紋をもたず、虹彩は黄金色で、鳴き声も長く、かん高い。アマガエルと違い、眼の前後の暗色斑、背中の暗色模様がなく、吻端は切り立っていない。						
	3~5月に水田の畦や湿地の地面で繁殖し、雄は浅く掘った穴や草の根ぎわで「リリリ……」と美しい声で鳴く。雌は穴や壅みの中に300個ほどの卵をクリーム色の泡状卵塊として産み出す。幼生はくずれた卵塊とともに近くの水中に流れ出てそこで生活し、6~7月に変態する。変態後は草や低木の上で生活し、昆虫やクモなどを捕食する。冬眠は浅い土中でなされる。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）						
	No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点	
①		夏季	令和6年6月27日	2	湿地で幼生を確認。	建設予定地外	

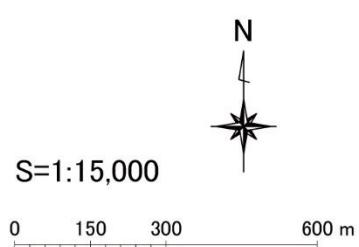
表 5-10-19 (5) 重要種確認状況（モリアオガエル）

種名	モリアオガエル						
学名	<i>Zhangixalus arboreus</i>						
科名	アオガエル科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	要注目種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	本州(茨城県を除く)に分布する。 県内では、大津市、草津市、余呉町、日野町、永源寺町、石部町、土山町、水口町、伊吹町、山東町、志賀町、新旭町、マキノ町に分布する。						
	体長 42~82mm で雌は雄よりも大きい。四肢端は吸盤状。虹彩は赤みをおびた金色。背面は緑色で、黄緑色から暗褐色にまで体色変化し、不規則な褐色斑紋をもつこともある。腹面には斑紋はほとんどない。シュレーゲルアオガエルよりも体が大きく、虹彩が赤みをおび、鳴き声が低く後鳴きが続くことで区別される。 4~7月に池、沼、水田などの周辺で繁殖し、300~800 個の卵を含む泡状の塊を木の枝や草の根ぎわに産卵する、幼生は7~9月に変態、上陸するが、晩秋にも未変態の個体がみられることがある。変態後はもっぱら樹上で生活し、クモ、双翅類昆虫などを捕食する。						
【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版（令和3年3月）							
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点		
①	秋季	令和5年10月17日	1	針葉樹植林の水たまりで幼生を確認。	建設予定地外		
②	秋季	令和5年10月17日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外		
③	春季	令和6年5月16日	1	草地（水の溜まったマス付近）で卵塊を確認。	建設予定地内		
④	夏季	令和6年6月26日	1	人工物（手水鉢の縁）で卵塊を確認。	建設予定地外		
⑤	夏季	令和6年6月26日	1	人工物（貯水タンク直上）で卵塊を確認。	建設予定地外		
⑥	夏季	令和6年6月26日	10	落葉広葉樹林の水たまりで卵塊を確認。	建設予定地外		
⑦	夏季	令和6年6月26日	1000	落葉広葉樹林の水たまりで幼生を確認。	建設予定地外		
⑧	夏季	令和6年6月26日	1	落葉広葉樹林で成体を確認。	建設予定地外		
⑨	夏季	令和6年6月26日	2	湿地で卵塊を確認。	建設予定地外		
⑩	夏季	令和6年6月26日	1	農道で成体を確認。	建設予定地外		
⑪	夏季	令和6年6月26日	10	落葉広葉樹林で卵塊を確認。	建設予定地外		
⑫	夏季	令和6年6月27日	1	人工物（パレットに溜まった水）で卵塊を確認。	建設予定地外		



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（秋季）
- : 確認地点（春季）
- : 確認地点（夏季）



地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図5-10-5 重要種確認位置図（両生類）

(イ) 昆虫類

選定した重要種は表5-10-20、重要種の確認状況は表5-10-21、重要種の確認位置は、図5-10-6に示すとおりである。

表 5-10-20 重要種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査時期			重要性 ^{注3)}				
					内	外	秋季	春季	夏季	I	II	III	IV	V
1	トンボ目	ヤンマ科	カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>		●	3					○		希少
2		トンボ科	ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>	●	●	3							その他
3			ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>	●	●	3							その他
4	カメムシ目	セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	●	●		5						その他
5		コオイムシ科	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>		●		2	1				NT	
6		タイコウチ科	ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>		●	1					○		希少
7		マダラガ科	ヤホシホソマダラ	<i>Balataea octomaculata</i>	●				1				NT	
8	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>		●	1					○	NT	希少
9			シマゲンゴロウ	<i>Hydaticus bowringii</i>	●	●			2				NT	その他
10		センチコガネ科	オオセンチコガネ	<i>Phelotrupes auratus auratus</i>		●			1					分布上
11	ハチ目	アリ科	ケブカツヤオオアリ	<i>Camponotus nipponensis</i>		●		1	1				DD	
12			トゲアリ	<i>Polyrhachis lamellidens</i>		●	1						VU	
13		スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ	<i>Polistes japonicus</i>	●	●	1		2				DD	
14			モンスズメバチ	<i>Vespa crabro</i>		●		1					DD	
15		ミツバチ科	クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>		●		1				○	NT	希少
合計	4 目	11 科	15 種		6 種	14 種	7 種	5 種	6 種	0 種	0 種	4 種	9 種	9 種

注1)種名及び配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表内の数値は、種が確認された地点数を示す。

注3)重要種の判定基準

I :「文化財保護法」(昭和25年5月30日、法律第214号)

II :「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日、法律第75号)

III :「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例施行規則」(平成19年2月28日、滋賀県規則第5号)

○(希少野生動植物種)

IV :「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省)

VU(絶滅危惧 II 類)、NT(準絶滅危惧種)、DD(情報不足)

V :「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック」(令和3年3月、滋賀県)

希少(希少種)、分布上(分布上重要種)、その他(その他重要種)

表 5-10-21 (1) 重要種確認状況（カトリヤンマ）

種名	カトリヤンマ			
学名	<i>Gynacantha japonica</i>			
科名	ヤンマ科			
選定基準	I	—		
	II	—		
	III	希少野生動植物種		
	IV	—		
	V	希少種		
分布・生態学的特徴	<p>北海道(南部)、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 県内では 50 市町村すべてに記録がある。 複眼が大きく、胴体が華奢な中型のヤンマ(体長 67~76mm)。 1 年 1 世代で、成虫は 7~11 月頃に出現する。晩夏から秋に産まれた卵は翌春に孵化し、急成長して夏に羽化する。幼虫は比較的浅い湿地や水田周辺の泥底の溝などに生息することが多い。個体数の多い生息地では、秋の夕暮れに生息地の水田や湿地の上を多数の個体が飛び回る。</p> <p>【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版 (令和 3 年 3 月)</p>			
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況
①	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	落葉広葉樹林で成虫を確認。
②	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	草地で成虫を確認。
③	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	落葉広葉樹林で成虫を確認。



現地確認個体

表 5-10-21 (2) 重要種確認状況（ナツアカネ）

種名	ナツアカネ			
学名	<i>Sympetrum darwinianum</i>			
科名	トンボ科			
選定基準	I	—		
	II	—		
	III	—		
	IV	—		
	V	その他重要種		
分布・生態学的特徴	<p>国内では北海道、本州、四国、九州、種子島、奄美大島に分布する。 滋賀県では全市町村域から記録がある。 体長 33~41mm で、成熟雄は腹部から胸部、頭部の額面まで赤くなる。 平地から低山地の岸辺に草原のある湖沼、水田、湿地に生息する。1 年 1 世代。水田における初夏の羽化時期はアキアカネより遅いことが多い。夏は低山地の樹林内などで過ごす。特に雌雄が連結し、水田で打空産卵する姿が確認される。</p> <p>【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版 (令和 3 年 3 月)</p>			
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況
①	秋季	令和 5 年 10 月 16 日	1	草地で成虫を確認。
②	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	草地で成虫を確認。
③	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	草地で成虫を確認。



現地確認個体

表 5-10-21 (3) 重要種確認状況（ヒメアカネ）

種名	ヒメアカネ				
学名	<i>Sympetrum parvulum</i>				
科名	トンボ科				
選定基準	I	—			
	II	—			
	III	—			
	IV	—			
	V	その他重要種	現地確認個体		
分布・生態学的特徴	<p>国内では北海道から鹿児島にかけて分布する。 滋賀県では豊郷町と虎姫町を除く全域から記録がある。 体長 28~37mm の小型のアカネ属。成熟雄の額面は灰白色、雌は黄白色で小さな 1 対の眉状が出る個体もある。 平地から山地の樹林に囲まれた、滲出水のあるような湿地や休耕田に生息する。1 年 1 世代。未熟成虫は羽化場所周辺の林縁部などで過ごす。成熟雄は背丈の低い植物などに静止して縄張りをもつ。</p> <p>【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）</p>				
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況	確認地点
①	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	草地で成虫を確認。	建設予定地内
②	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	落葉広葉樹林で成虫を確認。	建設予定地外
③	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	落葉広葉樹林で成虫を確認。	建設予定地外



表 5-10-21 (5) 重要種確認状況（コオイムシ）

種名	コオイムシ						
学名	<i>Appasus japonicus</i>						
科名	コオイムシ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	準絶滅危惧種					
	V	—					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する。 体長 17~25.5mm。背面は淡褐色~茶褐色。頭部~胸部に 2 本の不明瞭な白黄色の帯状模様をもつ個体が多い。前脚は鎌状で、2 節からなり爪は 2 本。前胸背前縁のくぼみは浅い。 水生植物が豊富な明るい止水域を好む。産地はやや局所的だが、生息地での個体数が多い。繁殖期は春~夏で、メスがオスの背中に卵塊を産みつける。オスは孵化まで卵の世話ををする。年 1~2 化で、早くに成虫になった個体はその年に繁殖する。成虫で陸上越冬する。鎌状の前脚を用いて、オタマジャクシ、小魚、ヤゴ、巻貝など生きた小動物を捕獲し吸汁する。 かつては普通に見られたが、農薬等による水質汚染によって、近年では一部の地域を除いて激減している。						
	【参考文献】レッドデータブック 2014 5 昆虫類（平成 27 年 1 月、環境省） ネイチャーガイド 日本の水生昆虫（令和 2 年 2 月、中島淳・林成多ほか）						
	No.	調査時期	年月日	確認数等			
	①	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1			
	②	春季	令和 6 年 5 月 17 日	3			
	③	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	70			
確認状況 湿地で成虫を確認。 湿地で成虫を確認。 湿地で成虫及び幼虫を確認。							
確認地点 建設予定地外 建設予定地外 建設予定地外							

表 5-10-21 (6) 重要種確認状況（ミズカマキリ）

種名	ミズカマキリ						
学名	<i>Ranatra chinensis</i>						
科名	タイコウチ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	—					
	V	希少種					
 現地採集個体							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、隠岐、淡路島、四国、九州、対馬、沖縄島に分布する。 県内では全域に広く分布する。 呼吸管を除く体長は 40~45mm。体は棒状で、呼吸管は前翅より長い。 抽水植物や浮葉植物が多い池沼や水田などに生息する。前脚で水生昆虫類などを捕獲し、体液を吸う。よく飛翔し、水泳プールや貯水池などにも飛来する。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
	No.	調査時期	年月日	確認数等			
	①	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1			
	確認状況 針葉樹植林の水たまりで成虫を確認。						
確認地点 建設予定地外							

表 5-10-21 (7) 重要種確認状況（ヤホシホソマダラ）

種名	ヤホシホソマダラ			
学名	<i>Balataea octomaculata</i>			
科名	マダラガ科			
選定基準	I	—		
	II	—		
	III	—		
	IV	準絶滅危惧種		
	V	—		
 現地確認個体				
分布・生態学的特徴	国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する。 河川敷や湿地などの明るい草地に局所的に産する。成虫は6~8月に出現し、昼間に活動する。 同じ科に属するキスジホソマダラに似るが、前翅の横紋はそれほど細長くなく、後翅は透明部が広くて、外縁の黒色部は狭い。また、本種はキスジホソマダラほど分布が広くないとされる。 食草はササ、タケ、ヌマガヤ（イネ科）が知られる。河川開発、草地開発、土地の造成などにより、生息地が狭められ細々と残存している。			
	【参考文献】 レッドデータブック 2014 5 昆虫類（平成 27 年 1 月、環境省） 日本産蛾類大図鑑（昭和 57 年 9 月、井上寛・杉繁郎ほか）			
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況
①	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1	草地で成虫を確認。
				建設予定地内

表 5-10-21 (8) 重要種確認状況（クロゲンゴロウ）

種名	クロゲンゴロウ			
学名	<i>Cybister brevis</i>			
科名	ゲンゴロウ科			
選定基準	I	—		
	II	—		
	III	希少野生動植物種		
	IV	準絶滅危惧種		
	V	希少種		
 現地採集個体				
分布・生態学的特徴	本州、四国、九州に分布する。 県内では西浅井町、米原町、今津町、マキノ町、新旭町、朽木村、彦根市、甲良町、湖東町、永源寺町、日野町、大津町、栗東市、水口町、信楽町、土山町に分布する。 体長 20~25mm。体は卵型。背面は緑色あるいは褐色をおびた黒色で光沢がある。腹面は黒色～暗赤褐色。上翅端付近に 1 対の黄褐色紋を持つ。 水生植物の組織内に産卵する。水生植物の生育する湖沼、水田などに生息する。			
	【参考文献】 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）			
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況
①	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	1	針葉樹植林の水たまりで成虫を確認。
				建設予定地外

表 5-10-21 (9) 重要種確認状況（シマゲンゴロウ）

種名	シマゲンゴロウ						
学名	<i>Hydaticus bowringii</i>						
科名	ゲンゴロウ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	準絶滅危惧種					
	V	その他重要種					
 現地採集個体							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。 県内では水口町、甲賀町、甲南町、信楽町、今津町、朽木村、高島町、新旭町、日野町、彦根市、大津市に分布する。 体長 13~14mm。体型は卵型で、上翅は黒色。各上翅側縁付近に 2 本の黄色の条線が入り、縞模様となる。 上翅基部の会合部付近には黄色の円紋がある。 水田や休耕田、水生植物が豊富なため池などに生息する。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1	草地でライトトラップに飛来した成虫を確認。			
②	夏季	令和 6 年 6 月 27 日	1	湿地で成虫を確認。			

表 5-10-21 (10) 重要種確認状況（オオセンチコガネ）

種名	オオセンチコガネ						
学名	<i>Phelotrupes auratus auratus</i>						
科名	センチコガネ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	—					
	V	分布上重要種					
 現地確認個体							
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州、屋久島に分布する。 県内では大津市、高島町、新旭町、朽木村、マキノ町、米原町、多賀町、永源寺町、日野町、栗東市、土山町、甲南町に分布する。 体長 16~22mm。体色は金属光沢をともなって、背面で盛り上がり、頭楯は台形。雄の前胫節下面には下向きの 3~4 の歯状突起があるが、雌ではそれを欠く。赤、緑、青、藍、紫等の強い金属光沢がある。成虫・幼虫はシカやウシなど大型哺乳類の糞を食餌としている。雌成虫は地下約 20cm の縦穴内にシカの糞を運び入れ、そこからさらに 20cm 程度の縦穴を掘り、幼虫の餌としてソーセージ状（直径 2.4cm、長さ 5cm）に整えた糞を運び入れ、底部に産卵する。飛翔スピードは速く、その様子は日光が当たる場所ではまるで光の弾丸のようである。 体色に地理的な変異があり、近畿では赤色（広域に分布することから原型とされる）、緑色及び藍色といった体色を示す個体群がすみ分けている。						
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1	針葉樹植林で成虫を確認。			

表 5-10-21 (11) 重要種確認状況（ケブカツヤオオアリ）

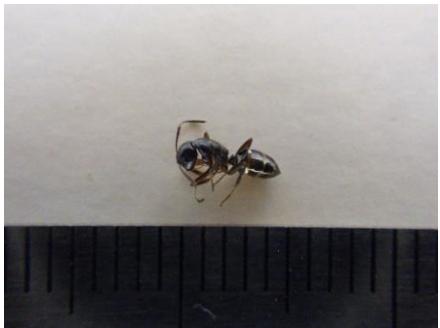
種名	ケブカツヤオオアリ						
学名	<i>Camponotus nipponensis</i>						
科名	アリ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	情報不足					
	V	—					
 現地採集個体							
分布・生態学的特徴	本州に分布する日本固有種。 胸部背面に 20 本以上の鞭状の長い立毛を持つことで同亜属の他種から容易に区別される。腹柄節にも胸部背面と同様の立毛を持つ。 中部地方から東北地方の丘陵地や低山地にかけて生息しているが、比較的稀な種とされ、山麓・河岸・湿地帶等の枯れ木を営巣場所としている。 河川の改修工事や山麓の道路建設・改修工事等が本種の個体群の維持に大きな影響を及ぼしている。福井県、三重県で減少の報告がある。						
	【参考文献】 レッドデータブック 2014 5 昆虫類 (平成 27 年 1 月、環境省) 【参考ウェブサイト】 吉村正志・鵜川義弘. "ケブカツヤオオアリ". 日本産アリ類画像データベース. 2008 年, http://ant.miyakyo-u.ac.jp/J/Taxo/F80918.html , (参照 2024-12-18).						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1	落葉広葉樹林で成虫を確認。			
②	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1	草地で成虫を確認。			

表 5-10-21 (12) 重要種確認状況（トゲアリ）

種名	トゲアリ						
学名	<i>Polyrhachis lameillidens</i>						
科名	アリ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	絶滅危惧 II 類					
	V	—					
 現地採集個体							
分布・生態学的特徴	本州から九州の日本本土に生息する。国外では中国、台湾、朝鮮半島に分布する。 胸部と腹柄節に長く湾曲した棘を持ち、胸部は赤い。似た種はない。日本には他に 2 種の同属種がいるが、いずれも黒色で、棘の発達が弱い。 広葉樹林を好む。山地の森林にも生息するが、低山地の里山にとくに多い。冬の寒い時期を除き、巣外で活動する様子が見られる。社会寄生種で、脱翅メスがクロオオアリやムネアカオオアリの巣に侵入し、寄主の女王を殺し、自分が女王になり代わり、自分の子供を寄主のアリに育てさせる。小型の昆虫を狩ったり、アブラムシなどの甘露をおもな餌とする。						
	【参考文献】 レッドデータブック 2014 5 昆虫類 (平成 27 年 1 月、環境省)						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	秋季	令和 5 年 10 月 17 日	10	落葉広葉樹林で成虫を確認。			

表 5-10-21 (13) 重要種確認状況（ヤマトアシナガバチ）

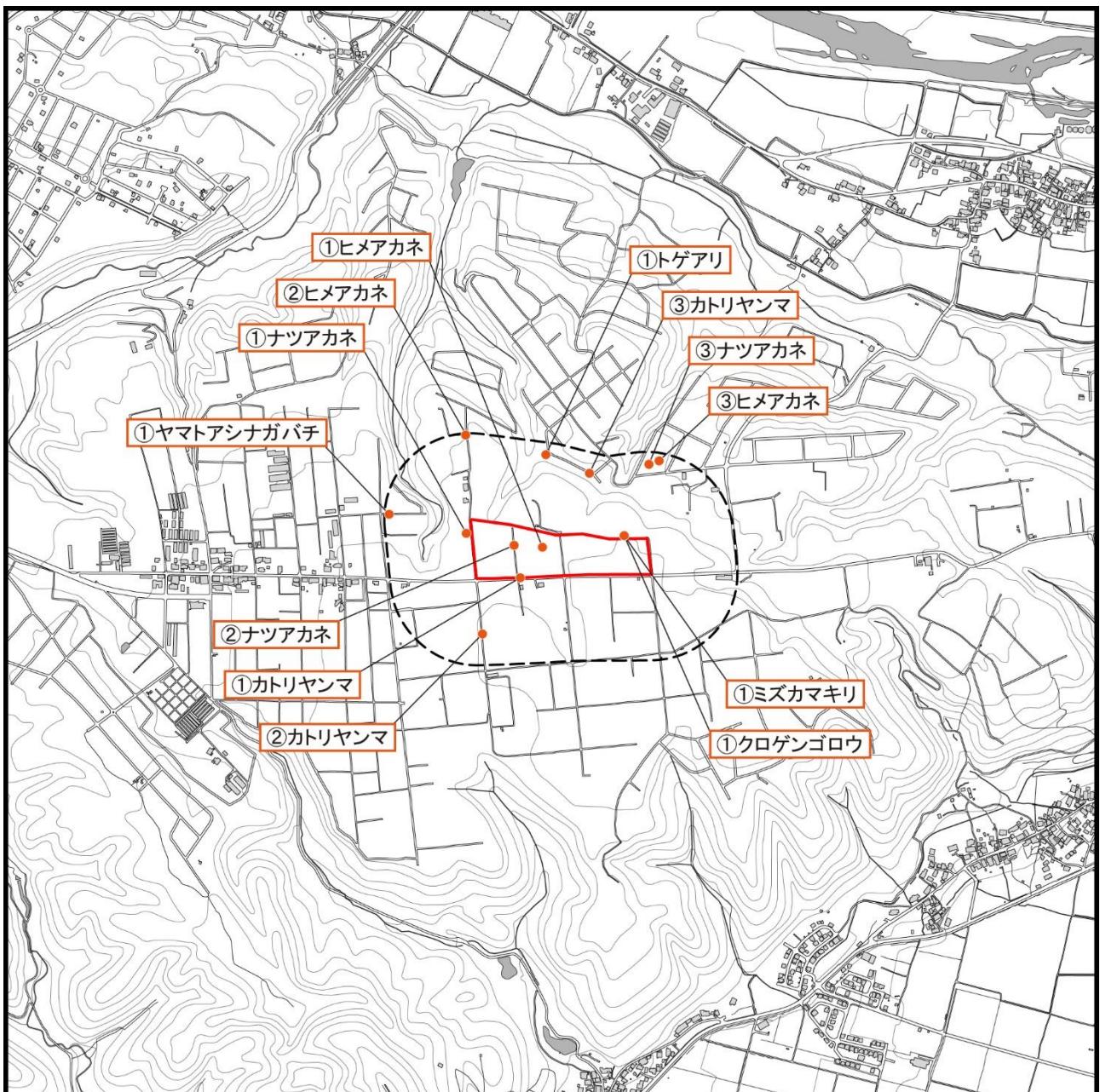
種名	ヤマトアシナガバチ						
学名	<i>Polistes japonicus</i>						
科名	スズメバチ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	—					
	IV	情報不足					
	V	—					
 現地採集個体							
分布・生態学的特徴	国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布し、国外では朝鮮半島、中国北東部に分布する。 働きバチの体長 15~20 mm。前伸腹節に通常 1 対の幅広い縦の黄斑がある。腹部第 1 背板は黒色部が多く、後縁付近の帶状紋は鮮黄色、第 2 背板の基部は広く黒色、第 2 節以降の各節後縁に帶状紋がある。オスの額、頭盾は淡黄色で、複眼は緑色を帯びる。 草本の葉裏や樹木の細枝、時には人家の軒下、壁にも営巣する。平地、低山地に生息するが、栃木県、埼玉県、群馬県、茨城県、東京都、神奈川県の各県など全国的に減少。類似の同属種が数種ある中で、この種のみが減少した理由は不明。						
	【参考文献】 日本産有剣ハチ類図鑑（平成 28 年、寺山守・須田博久編著） レッドデータブック 2014 5 昆虫類（平成 27 年 1 月、環境省）						
	No.	調査時期	年月日	確認数等			
	①	秋季	令和 5 年 10 月 16 日	1			
	②	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	1			
	③	夏季	令和 6 年 6 月 26 日	3			
確認状況 草地で成虫を確認。 草地で成虫を確認。 草地で成虫を確認。							
確認地点 建設予定地外 建設予定地内 建設予定地外							

表 5-10-21 (14) 重要種確認状況（モンスズメバチ）

種名	モンスズメバチ							
学名	<i>Vespa crabro</i>							
科名	スズメバチ科							
選定基準	I	—						
	II	—						
	III	—						
	IV	情報不足						
	V	—						
 現地採集個体								
分布・生態学的特徴	北海道、本州、四国、九州に分布する。 働きバチの体長 19~28mm、女王 25~28mm。腹部第 3~5 背板に 1 対の黒色斑紋があり、これによって、各節の横帶前縁が波状を描く。前胸背板の斑紋は赤褐色。小楯板に斑紋を欠く。脚胫節は赤褐色。 餌としてセミ類を好んで捕らえるとともに、各種のアシナガバチの巣を襲って、幼虫や蛹を餌とする。他種と違い、夕暮れ時から日没後にかけても巣外の活動が見られる。 全国的に減少傾向にあるが、原因は不明。							
	【参考文献】 レッドデータブック 2014 5 昆虫類（平成 27 年 1 月、環境省） 日本産有剣ハチ類図鑑（平成 28 年、寺山守・須田博久編著）							
	No.	調査時期	年月日	確認数等				
	①	春季	令和 6 年 5 月 17 日	1				
	落葉広葉樹林で成虫を確認。							
確認状況 落葉広葉樹林で成虫を確認。								
確認地点 建設予定地外								

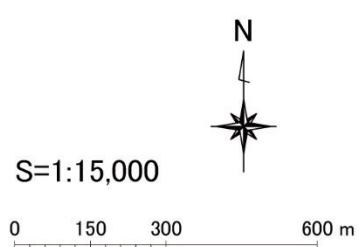
表 5-10-21 (15) 重要種確認状況（クロマルハナバチ）

種名	クロマルハナバチ						
学名	<i>Bombus ignitus</i>						
科名	ミツバチ科						
選定基準	I	—					
	II	—					
	III	希少野生動植物種					
	IV	準絶滅危惧種					
	V	希少種					
 現地採集個体							
分布・生態学的特徴	本州、四国、九州に分布する。 県内では全域に分布する。 大きさに変異が大きく 10~23mm。うち女王は 20mm 前後、働きバチはこれより小型。雄バチは 20mm 弱。体毛の色は雌雄で著しく異なり、雌は漆黒を基調とし腹端部のみ濃い赤褐色。雄は腹端部のみ雌と同色だが、他は鮮黄色を基調とし胸部と腹部に黒帯をもつ。雌は同属のコマルハナバチ <i>B. ardens</i> の雌と、雄はオオマルハナバチ <i>B. hypocrita</i> の雄とそれぞれ酷似する。 主として田園地帯やその周辺の明るい雑木林に生息する。県北部ではやや多い。マルハナバチの仲間は営巣場所として地中の野ネズミ類の廃巣を使うことが知られる。						
	【参考文献】 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）						
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況			
①	春季	令和 6 年 5 月 16 日	1	草地で成虫を確認。 建設予定地外			



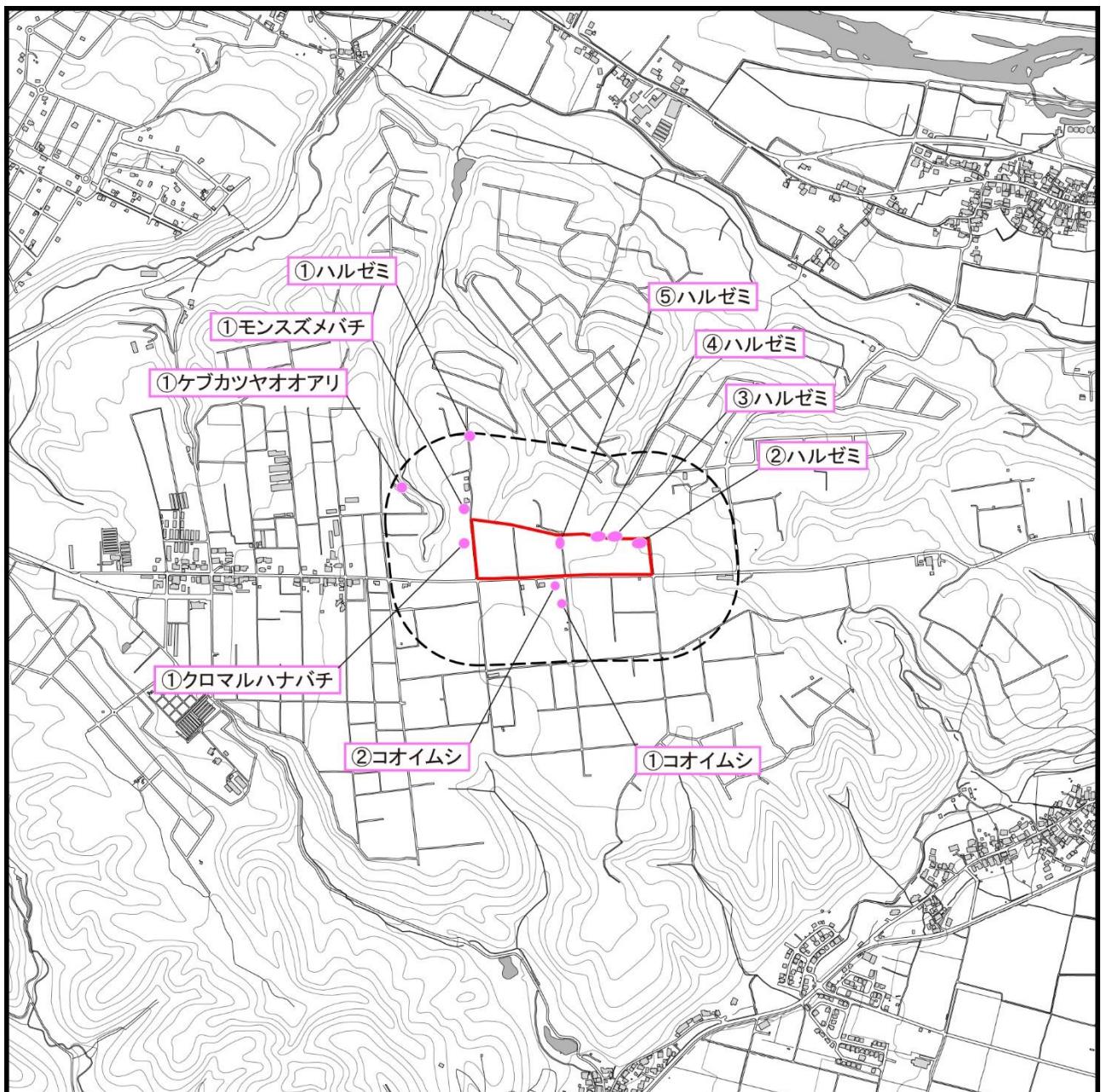
凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（秋季）



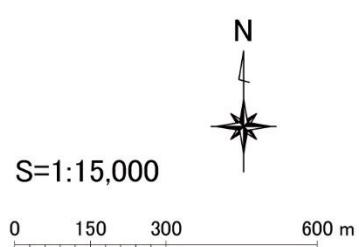
地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-6 (1) 重要種確認位置図（昆虫類 秋季）



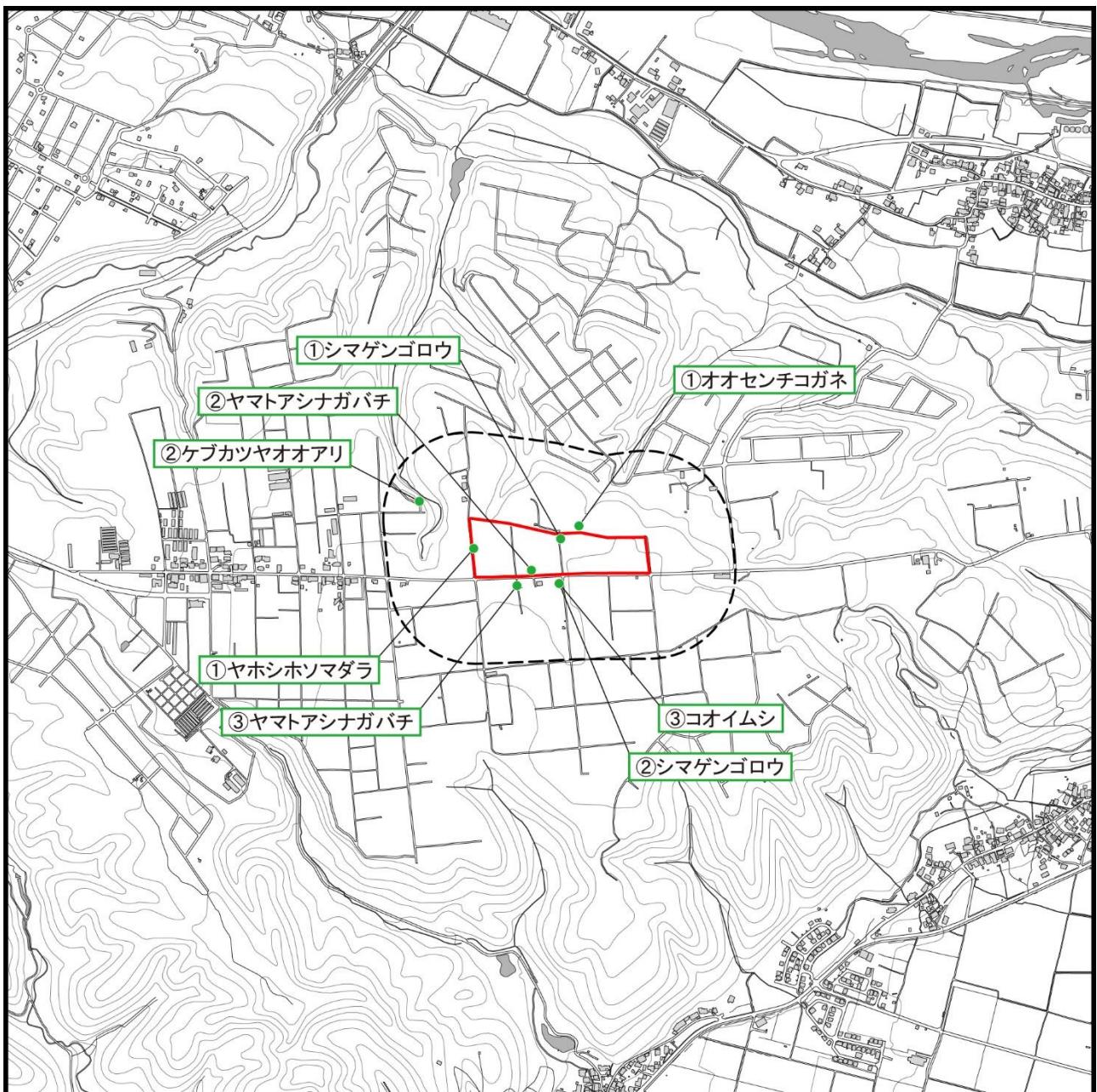
凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（春季）



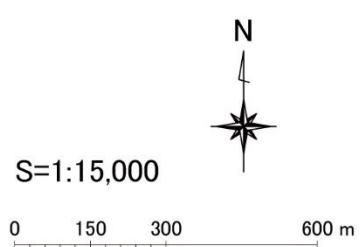
地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-6 (2) 重要種確認位置図（昆虫類 春季）



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（夏季）



地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-6 (3) 重要種確認位置図（昆虫類 夏季）

(オ) 魚類

調査地点において、重要種は確認されなかった。

(カ) 底生生物

選定した重要種は表5-10-22、重要種の確認状況は表5-10-23、重要種の確認位置は、図5-10-7に示すとおりである。

表 5-10-22 重要種（底生生物）

No.	目名	科名	種名	学名	建設予定地		調査時期		重要性 ^{注3)}				
					内	外	秋季	春季	I	II	III	IV	V
1	エビ目	サワガニ科	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>		●	2	2					要注
2	トンボ目	エゾトンボ科	エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiaenea</i>		●	1			○			希少
合計	2 目	2 科	2 種		0 種	2 種	2 種	1 種	0 種	0 種	1 種	0 種	2 種

注1)種名及び配列は「令和6年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、令和6年)に準拠した。

注2)表内の数値は、種が確認された地点数を示す。

注3)重要種の判定基準

I:「文化財保護法」(昭和25年5月30日、法律第214号)

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日、法律第75号)

III:「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例施行規則」(平成19年2月28日、滋賀県規則第5号)

○(希少野生動植物種)

IV:「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省)

V:「滋賀県で大切にすべき野生生物－滋賀県レッドデータブック」(令和3年3月、滋賀県)

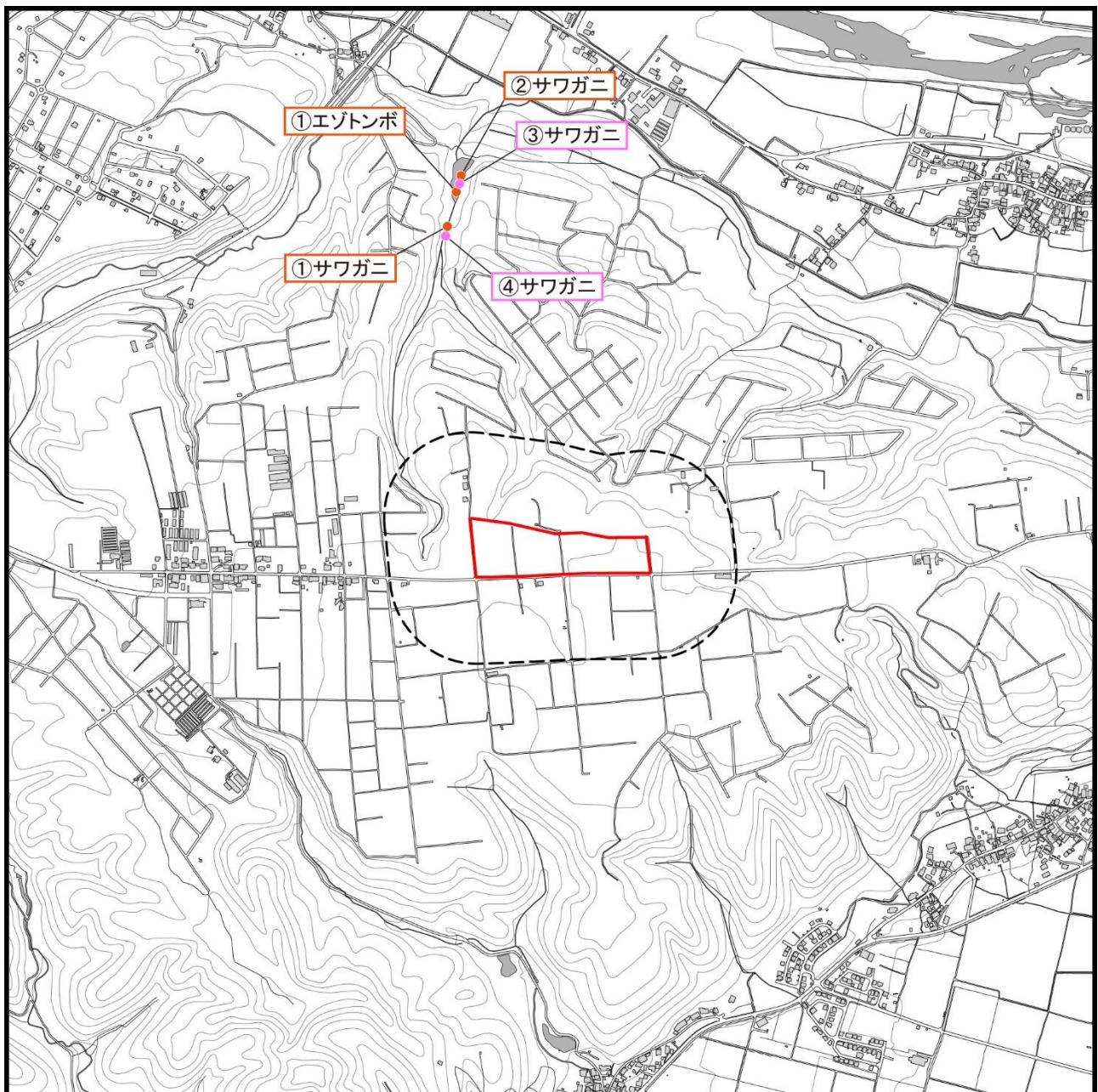
希少(希少種)、要注(要注目種)

表 5-10-23 (1) 重要種確認状況（サワガニ）

種名	サワガニ					
学名	<i>Geothelphusa dehaani</i>					
科名	サワガニ科					
選定基準	I	—				
	II	—				
	III	—				
	IV	—				
	V	要注目種	現地確認個体			
分布・生態学的特徴	<p>本州、四国、九州に分布する。 県内では琵琶湖への流入河川、湧水地、北湖の岩石湖岸に分布する。 甲幅 25mm 前後。胸甲は前方に広く平滑で、茶褐色。額と胸甲の間には明瞭な歯はみられない。第 2～第 5 胸脚の指節は細長く、棘状の毛が列状に生える。胸甲の色彩は発育ステージや地域により濃い紫褐色、橙赤褐色、淡い青色と変異が大きい。 雌は腹部に卵を抱いて、孵化するまで保護する。卵は大型で、稚ガニで孵化するため、生涯海に下ることはない。湧水地などの清流に多い。</p>					
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）					
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況		
①	秋季	令和 5 年 9 月 21 日	7	河川で捕獲した個体を確認。		
②	秋季	令和 5 年 9 月 21 日	2	ため池で捕獲した個体を確認。		
③	春季	令和 6 年 3 月 28 日	10	ため池で捕獲した個体を確認。		
④	春季	令和 6 年 3 月 28 日	1	河川で捕獲した個体を確認。		

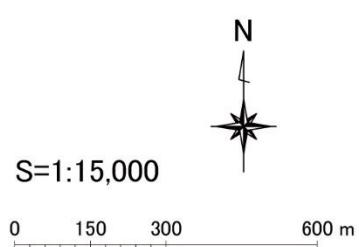
表 5-10-23 (2) 重要種確認状況（エゾトンボ）

種名	エゾトンボ					
学名	<i>Somatochlora viridiaenea</i>					
科名	エゾトンボ科					
選定基準	I	—				
	II	—				
	III	希少野生動植物種				
	IV	—				
	V	希少種	現地採集個体			
分布・生態学的特徴	<p>本州、本州、四国、九州(西日本では太平洋側や温暖地で分布域が限定)に分布する。 県内では豊郷町を除く 49 市町村に記録がある。 体長 53～74mm。胸部・腹部に緑色の金属光沢があるトンボ。雄は尾部付属器の形状、雌は胸部と腹部後半に黄斑がある特徴で区別できる。 1～3 年 1 世代で成虫は 7～9 月頃によく見かける。平地～丘陵地の樹林付近の湿地や放棄田に生息する。成熟雄は、湿地上をパトロールする他、黄昏時に摂食飛翔する個体が観察される。</p>					
	【参考文献】滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版（令和 3 年 3 月）					
No.	調査時期	年月日	確認数等	確認状況		
①	秋季	令和 5 年 9 月 21 日	3	ため池で幼虫を確認。		



凡 例

- : 建設予定地
- : 200m範囲
- : 確認地点（秋季）
- : 確認地点（春季）



地図出典：地理院タイル <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図5-10-7 重要種確認位置図（底生生物）

5-10-2 予測・評価

(1) 工事の実施に伴う動物への影響

1) 予測

① 予測内容

工事の実施に伴う動物への影響の予測内容は、表5-10-24に示すとおりである。

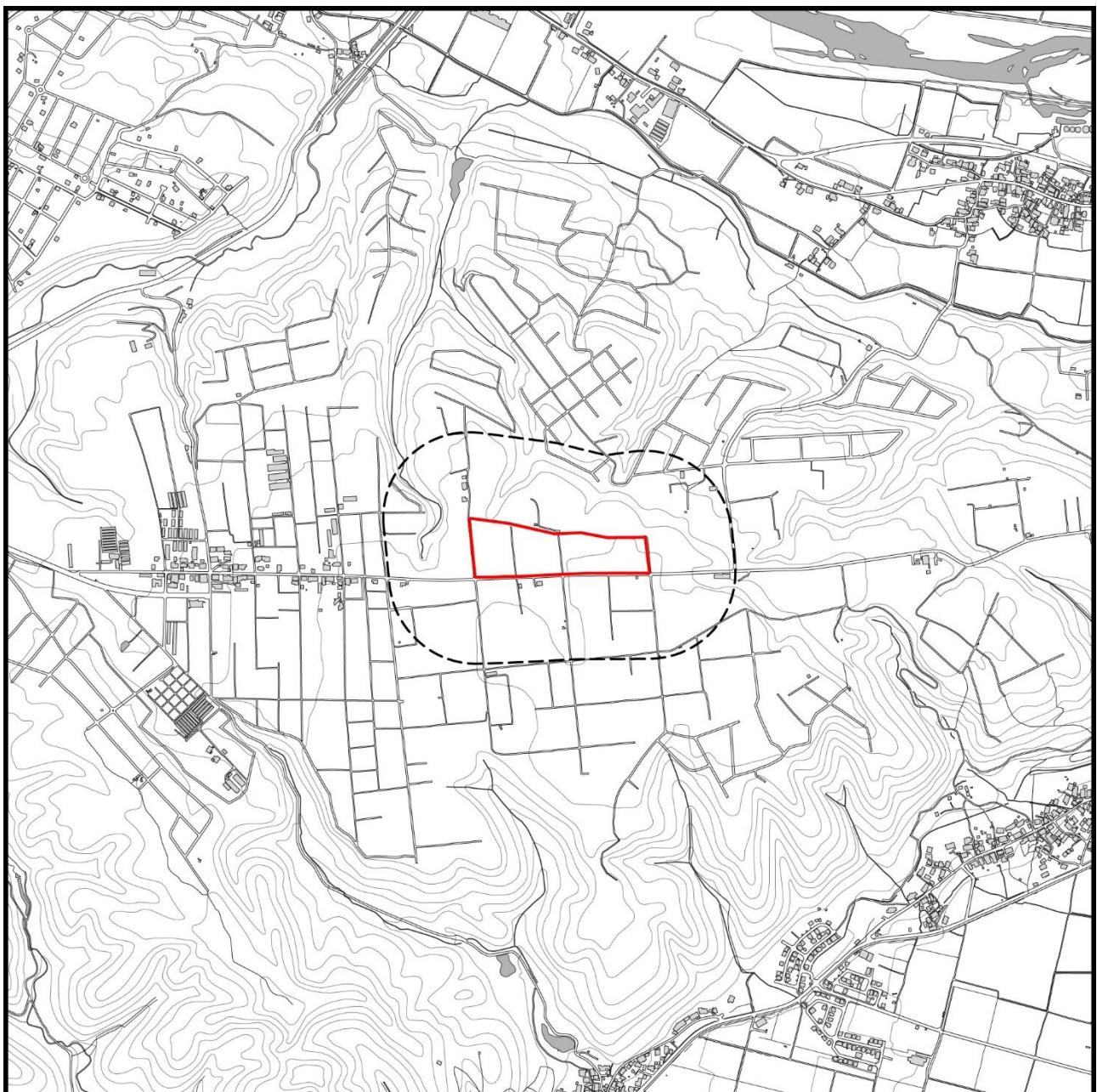
表 5-10-24 工事の実施に伴う動物の予測内容

環境影響	環境影響要因	予測項目	予測地域	予測対象時期	予測方法
工事の実施	改変による生息環境の減少・消失	動物相 重要種	建設予定地及び その周辺200m	工事の実施による影 響が最大となる時期	事業計画と動物の確認状 況とを重ねあわせること で予測した。
	濁水の流入による 生息環境の悪化				

② 予測地域及び位置

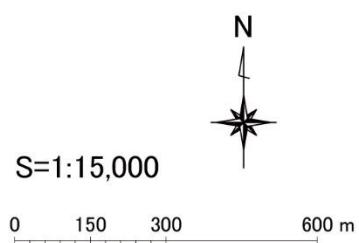
予測地域及び位置は、図5-10-8に示すとおりである。

予測地域及び位置は、動物の生態的特性等を踏まえて、動物とその生息環境が環境影響を受ける可能性のある区域として、建設予定地及びその周辺200mとした。



凡 例

□ : 建設予定地
□---□ : 200m範囲



地図出典：地理院タイル<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

図 5-10-8 予測地域及び位置図（動物）

③ 予測対象時期

予測対象時期は、事業特性及び動物の生態的特性等を踏まえて、工事の実施による影響が最大となる時期とした。

④ 予測方法

工事中の施設等の設置による直接改変及び付帯設備等による間接影響に伴い発生する動物の生息環境の減少・消失が、動物とその生息環境に及ぼす影響について、事業計画と動物の確認状況とを重ねあわせることで予測した。

⑤ 予測結果

(ア) 工事の実施による動物相への影響

工事の実施により消失する動物の生息環境は、二次草地（低茎）が大部分を占める。二次草地は草原性の鳥類や昆虫類等の生息地となっているほか、猛禽類の餌場となっていると考えられる。改変によりこれらの種の生息環境や餌場環境が減少するが、周辺には同様の環境が多く残存するため、工事の影響は小さいと考えられる。

なお、濁水の流入による生息環境の悪化については、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから影響は小さいと考えられる。

以上により、工事の実施による動物相への影響は小さいと予測する。

(イ) 工事の実施による重要種への影響

予測対象は、現況調査において確認された重要種とした。重要種と環境影響要因との関係は、表5-10-25、重要種の予測結果は表5-10-26に示すとおりである。

工事による環境影響要因は、「改変による生息環境の減少・消失」及び「濁水の流入による生息環境の悪化」とした。

「改変による生息地の減少・消失」の影響の可能性がある種については、建設予定地内において確認された重要種を対象とし、影響を予測した。ただし、建設予定地外でのみ確認された重要種は、改変工事による直接的な影響を受ける可能性が無いため、工事の実施による影響を予測しなかった。

「濁水の流入による生息環境の悪化」の影響の可能性がある種については、建設予定地改変に伴い発生する濁水の影響を受けると考えられる重要種を対象とし、影響を予測した。

表 5-10-25 重要種と環境影響要因との関係

No.	項目	種名	環境影響要因	
			改変による生息環境の減少・消失	濁水の流入による生息環境の悪化
1	哺乳類	コウモリ目の一種 ^{注1)}		
2		コウモリ目の一種 ^{注2)}		
3		ニホンザル	○	
4		カヤネズミ	○	
5	鳥類	アオバト		
6		ホトトギス	○	
7		ツツドリ		
8		ミサゴ		
9		ハチクマ		
10		ツミ		
11		ハイタカ		
12		サシバ	○	
13		ノスリ	○	
14		クマタカ	○	
15		フクロウ	○	
16		コミニズク		
17		カワセミ		○
18		アリスイ		
19		サンショウクイ	○	
20		サンコウチョウ		
21		コシアカツバメ	○	
22		オオムシケイ	○	
23		ミソサザイ	○	
24		クロツグミ		
25		ルリビタキ		
26		キビタキ		
27		オオルリ		
28		ベニマシコ	○	
29		イスカ		
30		ノジコ	○	
31		クロジ	○	
32	爬虫類	ニホンイシガメ		○
33		ニホントカゲ		
34		ヒバカリ		
35		ヤマカガシ		
36		ニホンマムシ		
37	両生類	アカハライモリ		○
38		タゴガエル		○
39		ツチガエル		○
40		シュレーベルアオガエル		○
41		モリアオガエル	○	○
42	昆虫類	カトリヤンマ		
43		ナツアカネ	○	
44		ヒメアカネ	○	
45		ハルゼミ	○	
46		コオイムシ		○
47		ミズカマキリ		○
48		ヤホシホソマダラ	○	
49		クロゲンゴロウ		○
50		シマゲンゴロウ	○	○
51		オオセンチコガネ		
52		ケブカツヤオオアリ		
53		トゲアリ		
54		ヤマトアシナガバチ	○	
55		モンスズメバチ		
56		クロマルハナバチ		
57	底生生物	サワガニ		○
58		エゾトンボ		○

注1) ヤマコウモリ、ヒナコウモリ、オセキコウモリの可能性がある種

注2) キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリの可能性がある種

表 5-10-26 (1) 重要種の予測結果

No.	種名	環境影響要因	予測結果
1	ニホンザル	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、成獣を4地点で延べ12個体及び糞を1地点で確認した。このうち、糞を確認した1地点が建設予定地内であったが、本種の主な生息環境は建設予定地北側の樹林地周辺であることから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
2	カヤネズミ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、球巣を11地点で22巣確認したほか、1地点で1個体捕獲した。このうち、8巣の球巣を確認した2地点が建設予定地内であったが、その他10地点の確認地点は残存するほか、本種の主な生息環境である草地は建設予定地周辺に多いことから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
3	ホトトギス	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、6地点で延べ6個体を確認し、このうち、1地点が建設予定地内であった。ただし、建設予定地内では飛翔個体のみの確認であり、本種の主な生息環境が樹林地であることから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
4	サシバ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、4地点で延べ4個体を確認し、このうち、2地点が建設予定地内であった。確認個体は全て飛翔個体であり、探餌や移動中の個体が確認されたものと考えられる。本種の主な生息環境が樹林地であることから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
5	ノスリ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、5地点で延べ5個体を確認し、このうち、2地点が建設予定地内であった。確認個体は全て飛翔個体であり、探餌や移動中の個体が確認されたものと考えられる。本種は主に草地で探餌をするが、草地は建設予定地周辺に多いことから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
6	クマタカ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、1地点で2個体を確認し、確認個体は建設予定地周辺にテリトリーを持つ成鳥とそのテリトリーに侵入した若鳥であった。本種の主な生息環境が樹林地であることや、建設予定地周辺に本種の営巣が可能な大木が存在しないことから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
7	フクロウ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、14地点で述べ15個体を確認し、このうち、1地点が建設予定地内であった。建設予定地の草地は本種の餌場環境であり、建設予定地周辺に多く存在し、餌となる小型哺乳類は建設予定地周辺の樹林地や草地に多く生息していると考えられる。また、本種は大木のある樹林に生息し、主に樹洞に営巣するが、建設予定地に営巣可能な樹洞のある木が存在しない。このことから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
8	カワセミ	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において確認された地点周辺に本種の採餌場所となる水域は見られない。また、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
9	サンショウクイ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、5地点で延べ6個体を確認し、このうち、1地点が建設予定地内であった。確認個体は全て飛翔個体であり、本種の主な生息環境が樹林地であることから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
10	コシアカツバメ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、明らかに渡り個体と考えられる1地点72個体を除くと、8地点で延べ17個体を確認し、このうちの2地点延べ7個体が建設予定地内で確認された。本種は草地等の広い空間で採餌することが多く、これらは建設予定地周辺に多いことから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
11	オオムシクイ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、3地点で延べ3個体を確認し、このうち、1地点が建設予定地内であった。確認された個体は渡り途中に建設予定地周辺を一時的に通過しているのみで、本種の主な生息環境が樹林地であることから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
12	ミソサザイ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、2地点で延べ2個体を確認し、このうち、1地点が建設予定地内であった。本種の主な生息環境が樹林地であり、確認個体は越冬期のみに一時的に建設予定地周辺を利用していることから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。

表 5-10-26 (2) 重要種の予測結果

No.	種名	環境影響要因	予測結果
13	ベニマシコ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、9地点で延べ12個体を確認し、このうちの2地点延べ2個体が建設予定地内で確認された。本種の主な生息環境が草地であり、これらは建設予定地周辺に多いことから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
14	ノジコ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、4地点で延べ4個体を確認し、このうち、2地点が建設予定地内であった。確認された個体は渡り途中に建設予定地周辺を一時的に通過しているのみで、本種の主な生息環境が草地であり、これらは建設予定地周辺に多いことから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
15	クロジ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、2地点で延べ3個体を確認し、全ての確認地点が建設予定地内であった。本種の主な生息環境が樹林地であり、確認個体は越冬期のみに一時的に建設予定地周辺を利用しているが、改変による生息環境の減少・消失による影響があると予測する。なお、次項の環境保全措置に示すとおり、建設予定地外への工事関係者の必要以上の立ち入りを制限すること、作業ヤードとしての造成は必要最低限にとどめること等を確実に実施することにより、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいものと予測する。
16	ニホンイシガメ	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認されたため池は、建設予定地の下流に位置することから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
17	アカハライモリ	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認されたため池は、建設予定地の下流に位置することから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
18	タゴガエル	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認された樹林地には本種の産卵に適した小渓流が流れている。これらの水域は建設予定地の下流に位置することから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
19	ツチガエル	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認されたため池は、建設予定地の下流に位置することから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
20	シュレーゲルアオガエル	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認された湿地は、建設予定地付近にあることから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
21	モリアオガエル	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において本種は12地点で成体延べ3個体、幼生が約1000個体、卵塊が26個確認された。そのうち卵塊1個が確認された1地点が建設予定地内であったが、本種の主な生息環境が樹林地であることから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
		濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認された湿地は、建設予定地付近にあることから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。

表 5-10-26 (3) 重要種の予測結果

No.	種名	環境影響要因	予測結果
22	ナツアカネ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、3地点で延べ3個体を確認した。このうち、1地点が建設予定地内であったが、本種の主な生息環境である草地は建設予定地周辺に多いことから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
23	ヒメアカネ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、3地点で延べ3個体を確認した。このうち、1地点が建設予定地内であったが、本種の主な生息環境である湿地は建設予定地周辺の樹林地内に多く存在することから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
24	ハルゼミ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、5地点で延べ5個体を確認した。このうち、2地点が建設予定地内であったが、本種の主な生息環境であるアカマツ林は全て残存することから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
25	コオイムシ	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認された湿地は、建設予定地付近にあることから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
26	ミズカマキリ	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認された水たまりは、建設予定地付近にあることから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
27	ヤホシホソマダラ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、1地点で1個体のみ、建設予定地内の確認であった。本種の主な生息環境が草地であり、草地は建設予定地周辺に多いが、本種の確認状況が限定的であることから、改変による生息環境の減少・消失による影響があると予測する。なお、次項の環境保全措置に示すとおり、建設予定地外への工事関係者の必要以上の立ち入りを制限すること、作業ヤードとしての造成は必要最低限にとどめること等を確実に実施すること等を確実に実施することにより、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいものと予測する。
28	クロゲンゴロウ	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認された水たまりは、建設予定地付近にあることから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
29	シマゲンゴロウ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、2地点で延べ2個体を確認した。このうち、1地点が建設予定地内であったが、ライトトラップにより飛来した個体であった。本種の主な生息環境である湿地は建設予定地周辺に残在することから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
		濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認された湿地は、建設予定地付近にあることから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
30	ヤマトアシナガバチ	改変による生息環境の減少・消失	現況調査において、3地点で延べ5個体を確認した。このうち、1地点が建設予定地内であったが、本種の主な生息環境である草地は建設予定地周辺に多いことから、改変による生息環境の減少・消失による影響は小さいと予測する。
31	サワガニ	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認されたため池や河川は、建設予定地の下流に位置することから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。
32	エゾトンボ	濁水の流入による生息環境の悪化	現況調査において本種が確認されたため池は、建設予定地の下流に位置することから、濁水の流入による生息環境の悪化の可能性がある。ただし、次項の環境保全措置に示すとおり、工事等による濁水は沈砂池等により適切に処理することから、濁水の流入による生息環境の悪化の影響は小さいと予測する。

⑥ 環境保全措置

予測の結果、動物への影響が考えられることから、本項で対象とした環境影響を事業者によって実行可能な範囲内でさらに回避・低減するため、環境保全措置を検討した。環境保全措置は、表5-10-27に示すとおりである。

表 5-10-27 環境保全措置

環境影響	環境影響要因	環境保全措置
工事の実施	改変による生息環境の減少・消失	<ul style="list-style-type: none">建設予定地外への工事関係者の必要以上の立ち入りを制限することにより、動物の生息環境を保全する。建設予定地外の樹木の伐採や地形等の改変は必要最小限にとどめる。改変により減少した動物の生育環境は、敷地内に緑地を設けることで可能な限り回復に努める。環境保全措置の内容について、工事関係者に周知徹底する。
	濁水の流入による生息環境の悪化	<ul style="list-style-type: none">工事関係車両が走行する場内道路には、仮舗装や鉄板敷設等を行い、濁水の発生を低減する。工事開始の初期段階に仮設沈砂池等を設置し、造成工事期間中の降雨における濁水の発生を低減する。

2) 評価

① 評価の手法

工事の実施に伴う動物への影響の評価は、対象項目に係る環境影響が、事業者により実行可能な範囲内で回避または低減されているかどうかを評価する方法により行った。

② 評価結果

調査及び予測の結果、ならびに前項に示す環境保全措置の検討結果を踏まえると、工事の実施に伴う動物への影響は、前項の環境保全措置を講じることにより、回避または低減が期待できるものと考えられる。

以上のことから、工事の実施に伴う動物への影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。